松江市文化財調査報告書　第86集

田中谷遺跡（Ⅲ区）発掘調査報告書

2001年３月

松　江　市　教　育　委　員　会

財団法人松江市教育文化振興事業団

『田中谷遺跡（Ⅲ区）発掘調査報告書』正誤表

ページ	行	誤	正
内表紙	表題	田中谷遺跡（Ⅳ区）発掘調査報告書	田中谷遺跡（Ⅲ区）発掘調査報告書
例言	3行	田中谷遺跡（Ⅳ区）	田中谷遺跡（Ⅲ区）
	〃	Ⅳ区以外は	Ⅲ区以外は
	4行	Ⅳ区を略している。	Ⅲ区を略している。
本文　6	最下行	第5図　田中谷遺跡（Ⅳ区）調査成果図	第5図　田中谷遺跡（Ⅲ区）調査成果図
本文　48	2行	田中谷遺跡Ⅳ区は、	田中谷遺跡Ⅲ区は、
抄録	フリガナ	たなかだにいせき はっくつちょうさほうこくしょ	たなかだにいせき（3く） はっくつちょうさほうこくしょ
	書名	田中谷遺跡発掘調査報告書	田中谷遺跡（Ⅲ区）発掘調査報告書

松江市文化財調査報告書　第86集

田中谷遺跡（Ⅳ区）発掘調査報告書

2001年３月

松　江　市　教　育　委　員　会

財団法人松江市教育文化振興事業団

例　　言

１．本書は平成12年度に財団法人松江市教育文化振興事業団が実施した市道春日東生馬線拡幅工事に伴う田中谷遺跡（Ⅳ区）にかかる発掘調査報告書である。ただし、Ⅳ区以外は島根県埋蔵文化財調査センターが調査を実施しているため、本報告書本文中ではⅣ区を略している。

２．本発掘調査は、松江市土木課から松江市教育委員会が依頼を受け、平成12年度に財団法人松江市教育文化振興事業団が実施したものである。

３．調査組織は以下のとおりである。

依頼者　松江市土木課

事務局　松江市教育委員会　教　育　長　原　敏（平成12年９月30日まで）
伊藤　忠志（平成12年10月１日から）
生涯学習課課長　川原　良一
文化財室室長　岡崎雄二郎
文化財室主幹　吉岡　弘行
主任主事　古藤　博昭

実施者　財団法人松江市教育文化振興事業団
理事長　宮岡　寿雄（平成12年５月６日まで）
理事長職務代理者
副理事長　安藤　瑞也（平成12年５月６日から）
（平成12年９月６日まで）
理事長　松浦　正敬（平成12年９月７日から）
事務局長　柳浦　孝行
調査係長　瀬古　諒子

調査者　調査担当者　石川　崇
江川　幸子
調査補助員　宮本亜希子
青山　悦朗

４．調査の実施にあたっては次の方々の指導と協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。
中村唯史（島根大学汽水域研究センター客員研究員）

5．本書の作成には以下のものが携わった。

（遺物実測）　江川、石川、宮本、青山、福田万里、大森裕子、柿田敬志

（浄　　書）　青山、宮本、福田

（拓　　本）　奥田美穂子、花田陽子、大森

6．本書に掲載した写真は江川、石川、宮本、青山が撮影した。

7．出土遺物はすべて松江市教育委員会で保管している。

8．本書の執筆及び編集は江川、石川が協議してそれぞれ執筆・編集し、宮本、青山がこれを助けた。

目　　次

調査の概要

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　周辺の歴史的環境 …… 3

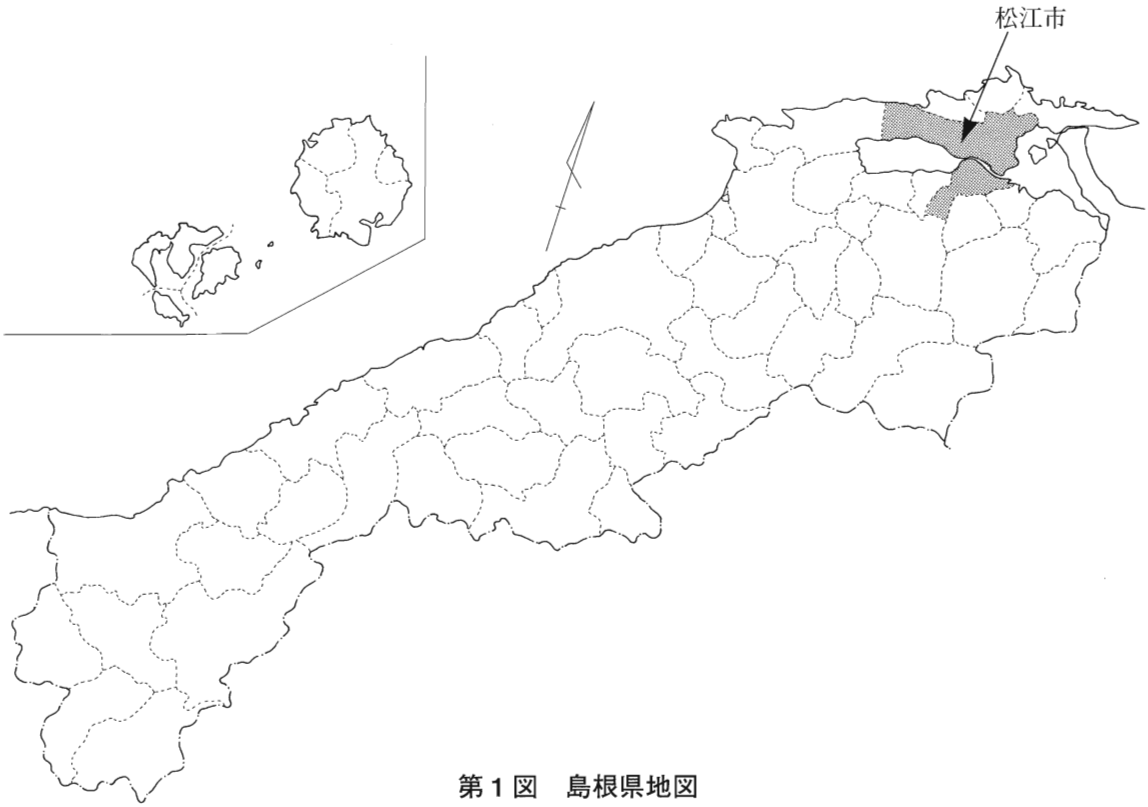
Ⅲ　調査概要 …… 5

Ⅳ　遺構について …… 5

Ⅴ　遺物について ……17

Ⅵ　結　　語 ……48

図　　版



第１図　島根県地図

挿　図　目　次

第１図　島根県地図
第２図　田中谷遺跡位置図 …… 1
第３図　田中谷遺跡調査区位置図 …… 2
第４図　周辺遺跡位置図 …… 4
第５図　田中谷遺跡調査成果図 …… 6
第６図　田中谷遺跡北区遺構配置図 …… 7
第７図　田中谷遺跡南区遺構配置全体図 …… 9
第８図　田中谷遺跡南区遺構配置図（１）…… 10
第９図　田中谷遺跡SK－01平面図 …… 11
第10図　田中谷遺跡南区遺構配置図（２）…… 12
第11図　田中谷遺跡南区遺構配置図（３）…… 13
第12図　田中谷遺跡杭列・流木検出状況 …… 14
第13図　田中谷遺跡セクション図 …… 15
第14図　遺物実測図（１）…… 19
第15図　遺物実測図（２）…… 20
第16図　遺物実測図（３）…… 21
第17図　遺物実測図（４）…… 22
第18図　遺物実測図（５）…… 23
第19図　遺物実測図（６）…… 24
第20図　遺物実測図（７）…… 25
第21図　遺物実測図（８）…… 26
第22図　遺物実測図（９）…… 27
第23図　遺物実測図（10）…… 28
第24図　遺物実測図（11）…… 29
第25図　遺物実測図（12）…… 30
第26図　遺物実測図（13）…… 31

第27図　遺物実測図（14）…… 32
第28図　遺物実測図（15）…… 33
第29図　遺物実測図（16）…… 34
第30図　遺物実測図（17）…… 35
第31図　遺物実測図（18）…… 36
第32図　遺物実測図（19）…… 37
第33図　遺物実測図（20）…… 38
第34図　遺物実測図（21）…… 39
第35図　遺物実測図（22）…… 40
第36図　遺物実測図（23）…… 41
第37図　遺物実測図（24）…… 42
第38図　遺物実測図（25）…… 43
第39図　遺物実測図（26）…… 44
第40図　遺物実測図（27）…… 45
第41図　遺物実測図（28）…… 46
第42図　遺物実測図（29）…… 47

図　版　目　次

図版１　田中谷遺跡調査前全景
図版２　遺物出土状況
図版３　流木検出状況・旧河道土層断面
図版４　木製品出土状況
図版５　北区SB－01・SK－01完掘状況（上）
図版６　北区完掘状況
図版７　弥生土器
図版８　土器・土製品・木製品
図版９　弥生土器
図版10　弥生土器
図版11　弥生土器・土師器
図版12　弥生土器・土師器・須恵器・土製品・黒曜石

Ⅰ．調査に至る経緯

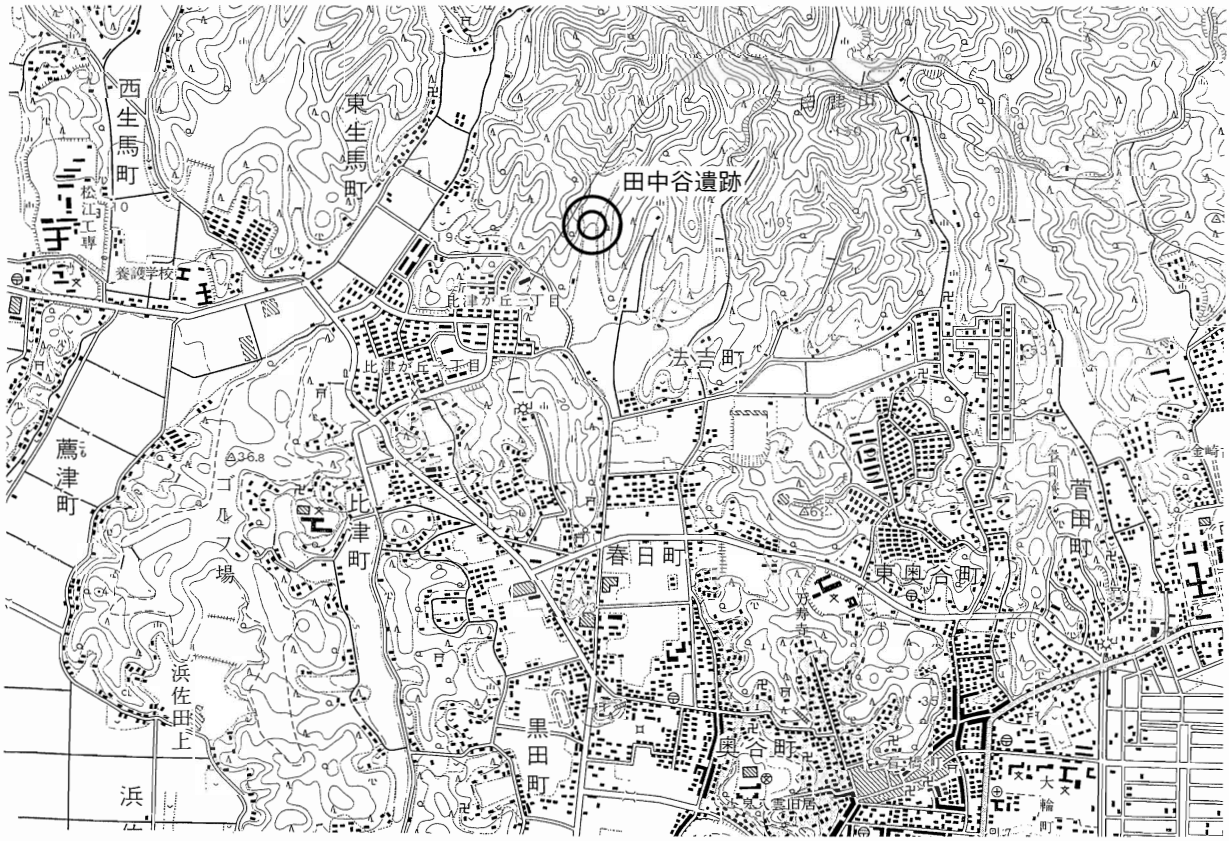
平成11年度において島根県住宅供給公社が松江市法吉町地内において、（仮称）法吉団地造成工事を計画した。この計画に併せて松江市都市建設部土木課（事業者）では、既存の市道改良工事と住宅団地内への新設を目的とする市道春日東生馬線改良工事を計画し、平成11年７月12日付けで市教育委員会に予定地内の分布調査依頼書を提出した。

その依頼を受けて当教育委員会では平成11年７月に住宅団地予定地内の市道新設部分について試掘調査を実施し、併せて島根県教育委員会によって宅地造成部分の試掘調査が行なわれた。

この調査の結果、道路計画部分を含む範囲で弥生土器片、土師器片、須恵器片が大量に検出され、本遺跡の存在が明らかになった。遺物の出土した地点の北側には遺物散布地として周知の「田中谷遺跡」が存在しており、同じ谷筋で発見された他の遺跡を含めてこの遺跡の広がりと考えられ、事前の発掘調査を実施する必要が生じた。

事業者により平成12年３月15日付土第1404号で予定地内の発掘調査依頼書が当教育委員会に提出されたことを受け、平成12年度において発掘調査を実施することとなった。

本遺跡の発掘調査については松江市教育委員会が財団法人松江市教育文化振興事業団に委託して、平成12年４月から実施したものである。



第２図　田中谷遺跡位置図

第３図　田中谷遺跡調査区位置図

Ⅱ．周辺の歴史的環境

田中谷遺跡は松江市街地の北側、法吉町の北側・東側・西側三方を丘陵に囲まれた谷筋に位置する。

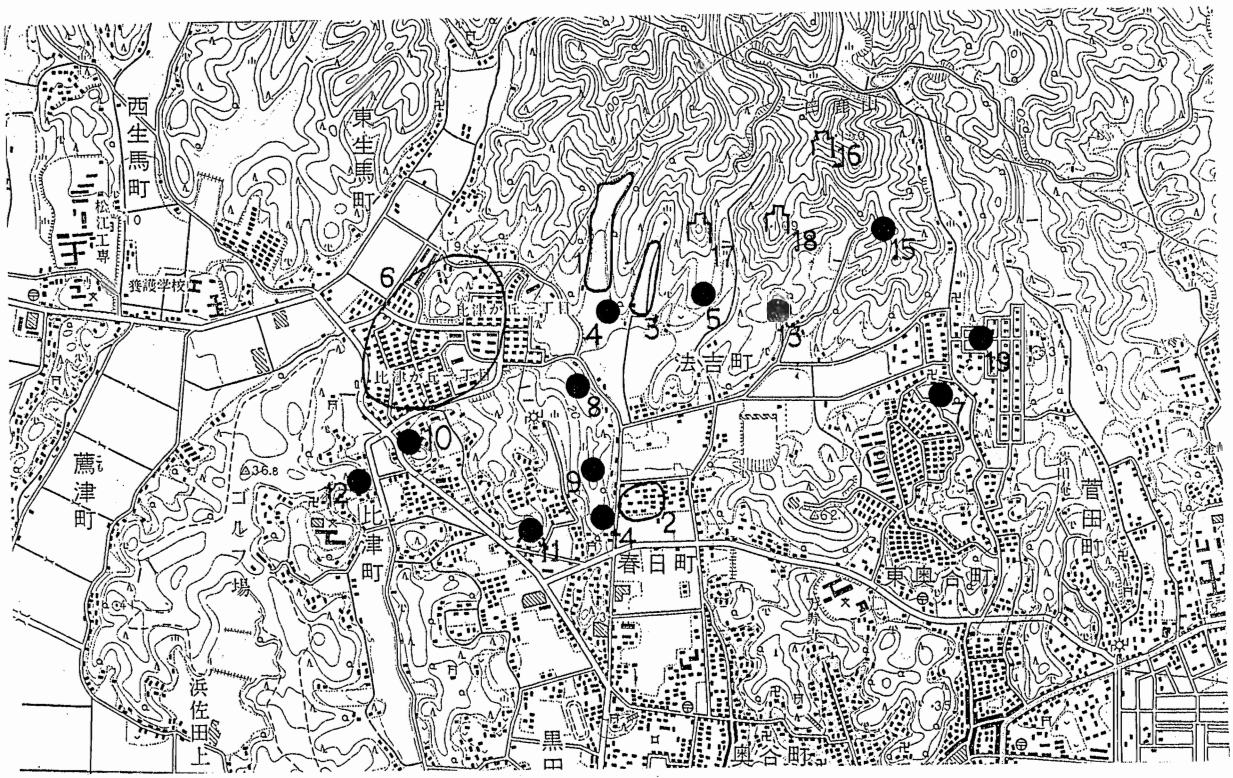
本遺跡内は近年まで田畑として使用されており、当事業団で調査した地点は谷筋のほぼ中央東側である。他の地点に関しては島根県埋蔵文化財調査センターによって調査が行なわれた。

本遺跡の周辺の歴史的環境は、旧石器時代から弥生時代にかけて、明確な遺構を持つ遺跡が確認されていなかった。本遺跡の南側に位置する法吉遺跡②からは縄文土器や弥生土器、石器類が、下り松遺跡③からも弥生土器や石器が出土している。

古墳時代になると確認されている遺跡の数が増えてくる。まず、すぐ南側に位置する塚山古墳④や谷を一つ隔てた丘陵突端に伝宇牟加比売命御陵古墳⑤がある。塚山古墳は1999年に調査が行なわれ造出部が確認された。伝宇牟加比売命御陵古墳は一辺が約16ｍ、残存高が約２ｍで主体部は石囲いの木棺を使用していたものと思われ、南側に造出を持つ古墳である。また造出には埴輪が埋め込まれており墓前祭祀に使用したと思われる丹塗土器や須恵器も出土している。

そのほかにも21基からなる月廻古墳群⑥は竜虎鏡などの鏡が出土し、箱式石棺や礫床をもつ木棺が使用されていたと考えられる。岡田薬師山古墳⑦は主体部が石室で須恵器や玉類が埋葬されていた。この他にも本遺跡の南側丘陵頂上部にある久米古墳群⑧は６基（内方墳４基）からなり、さらにその南側には方墳４基からなる唐梅古墳⑨が存在する。

この時期にはこの周辺が開けていたことが伺えるが、集落址など生活遺構を持つ遺跡はあまり確認されていない。



第４図　周辺遺跡位置図

これ以後なるとまた数多くの横穴墓群が確認されている。ひゃくだ横穴⑩、比津が崎横穴⑪、水酌崎横穴群⑫などである。

平安時代以降には、２基の経塚をもつ山槙古墓群⑬や一字一石経が出土した石在経塚⑭、渡来銭（宋銭・明銭）と長さ約44㎝の脇差し一口が出土したコゴメダカ山遺跡⑮など古墓が確認されている。

戦国時代この周辺は、尼子氏の勢力下にあり「尼子十旗」のうち第一と言われた白鹿城⑯があり、その出城と思われる高つぼ山城⑰や小白鹿城⑱がある。白鹿城は尼子氏の家臣松田氏の居城とされ、1563年（永禄６年）に毛利氏によって攻略された。その戦いは凄惨を極め、毛利・尼子の両軍にかなりの戦死者が出たとされている。石敷きの基壇や宝篋印塔が出土した二反田古墓⑲はその戦いの折の墓とされる[5]。

周　辺　遺　跡　一　覧　表

番号	遺　跡　名	所在地	種別	摘　要
①	田中谷遺跡	法吉町田中谷	散布地	弥生土器、須恵器、木器
②	法吉遺跡	法吉町尾後	散布地	縄文土器、弥生土器、石器
③	下り松遺跡	法吉町下り松	散布地	弥生土器、須恵器、石器
④	塚山古墳	法吉町下り松	古　墳	方墳（墳長約30ｍ）、埴輪、
⑤	伝宇牟加比売命御陵古墳	法吉町鶯谷	古　墳	方墳（１辺16ｍ）、刀子、円筒埴輪
⑥	月廻古墳群	比津町比津ヶ丘	古　墳	21基、玉類、鉄器、盤龍鏡
⑦	岡田薬師山古墳	法吉町	古　墳	方墳（１辺10ｍ）、子持壺、玉類
⑧	久米古墳群	法吉町久米	古　墳	６基（内方墳４基）
⑨	唐梅古墳群	法吉町唐梅	古　墳	方墳４基
⑩	ひゃくだ横穴	比津町	横　穴	四柱式妻入、家形石棺
⑪	比津が崎横穴	比津町	横　穴	須恵器
⑫	水酌崎横穴群	比津町水酌崎	横　穴	須恵器、玉、金環
⑬	山槙古墓群	法吉町山槙	古　墓	経塚２基
⑭	石在経塚	法吉町石在	古　墓	一字一石経
⑮	コゴメダカ山遺跡	法吉町	古　墓	宋銭・明銭
⑯	白鹿城	法吉町	城　跡	
⑰	高つぼ山城	法吉町	城　跡	白鹿城の出城
⑱	小白鹿城	法吉町	城　跡	白鹿城の出城
⑲	二反田古墓	法吉町二反田	古　墓	宝篋印塔14基以上

Ⅲ．調　査　概　要

田中谷遺跡は松江市法吉町地内にあり、北山山脈にある真山から派生した丘陵の末端部付近に位置する。東西両側を丘陵に挟まれた谷地形であり、この谷は降雨量が少ない時期でも絶えることなく小川が流れ、南側にある春日町や黒田町の低地に流れ込んでいる。

本遺跡は谷全体が遺跡であるが、本報告書は当事業団が行なった市道建設予定地（市道春日東生馬線）の発掘調査によるもので、それ以外の宅地造成部分は島根県埋蔵文化財センターが調査を行った。本調査区は谷のほぼ中央、谷の中央よりもやや東側に位置する（第３図）。

本調査は廃土処理の関係上、南北二分して行なった。南北両区とも試掘調査の際に上面に堆積していた。灰色粘質土には遺物が混入していないことが確認されているため、重機で上面の灰色粘質土までをすべて除去し、そこから手掘り調査を行った。

調査の結果、全面的には旧河道を中心に東西両側で様相が異なる。まず旧河道は中央やや東寄りから検出された。旧河道は１本ではなく、土層断面から小さな小川が何度も氾濫を繰り返して幾重にも流れを変えたために平面的には１本の河道のように見えた。旧河道の西側は非常に安定した地盤に掘立柱建物跡と考えられる遺構や溝、土壙などが確認されている（第５図）。反対に旧河道の東側は上部の丘陵からの土砂が大量に流れ込んでいたが、遺構は確認されなかった。

Ⅳ．遺構について

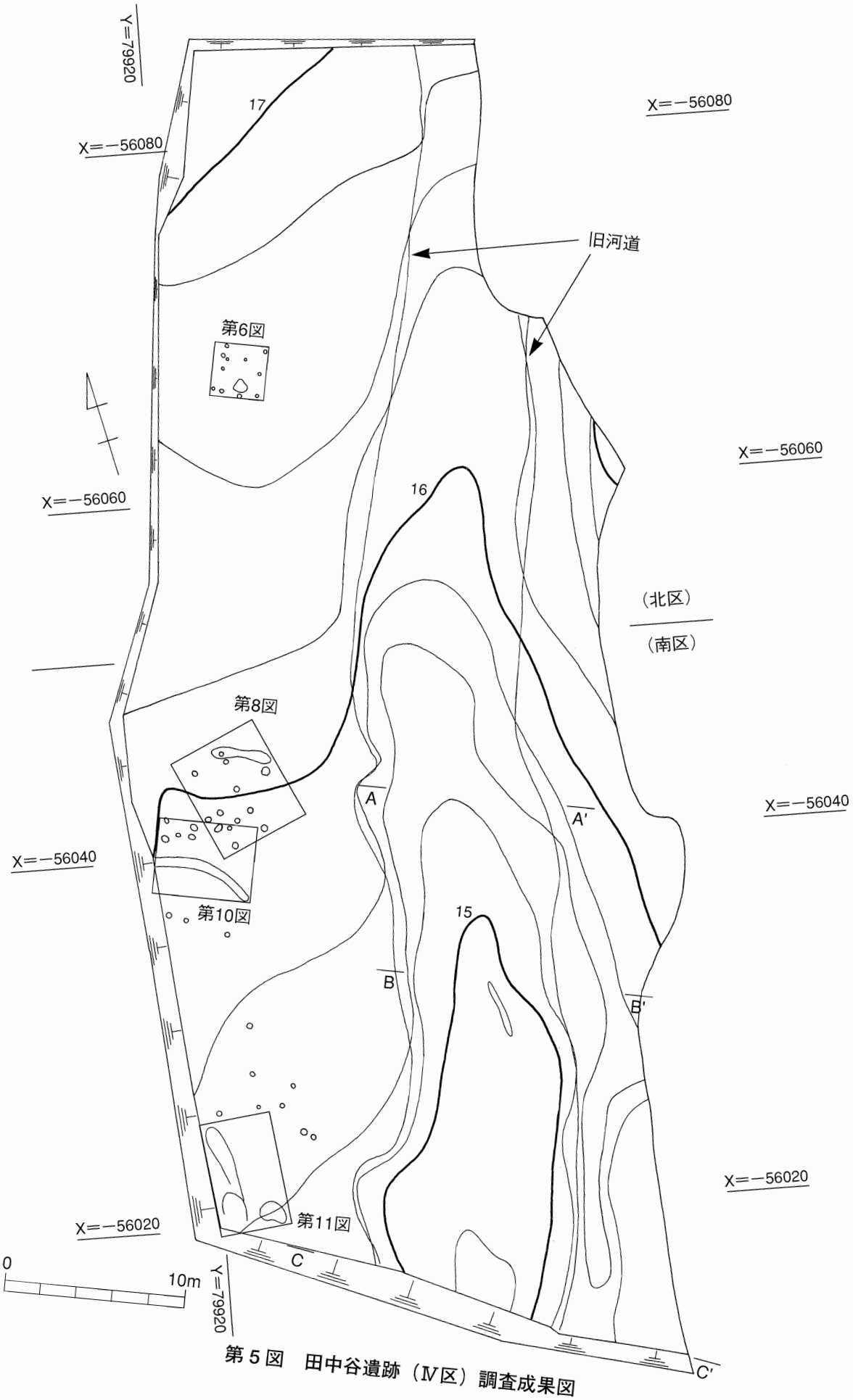
○北区

まず旧河道の西側からは掘立柱建物跡（SB－01）と土壙（SK－01）を検出した（第６図）。西側は基盤直上の土層はやや小さめの角礫が密に散布した層が堆積しており、同層から若干の遺物が出土したが、その量は極めて少量であった。その角礫を含んだ層の下から褐色の層が見られ、それが基盤層と考えられ、そこから遺構が検出された。

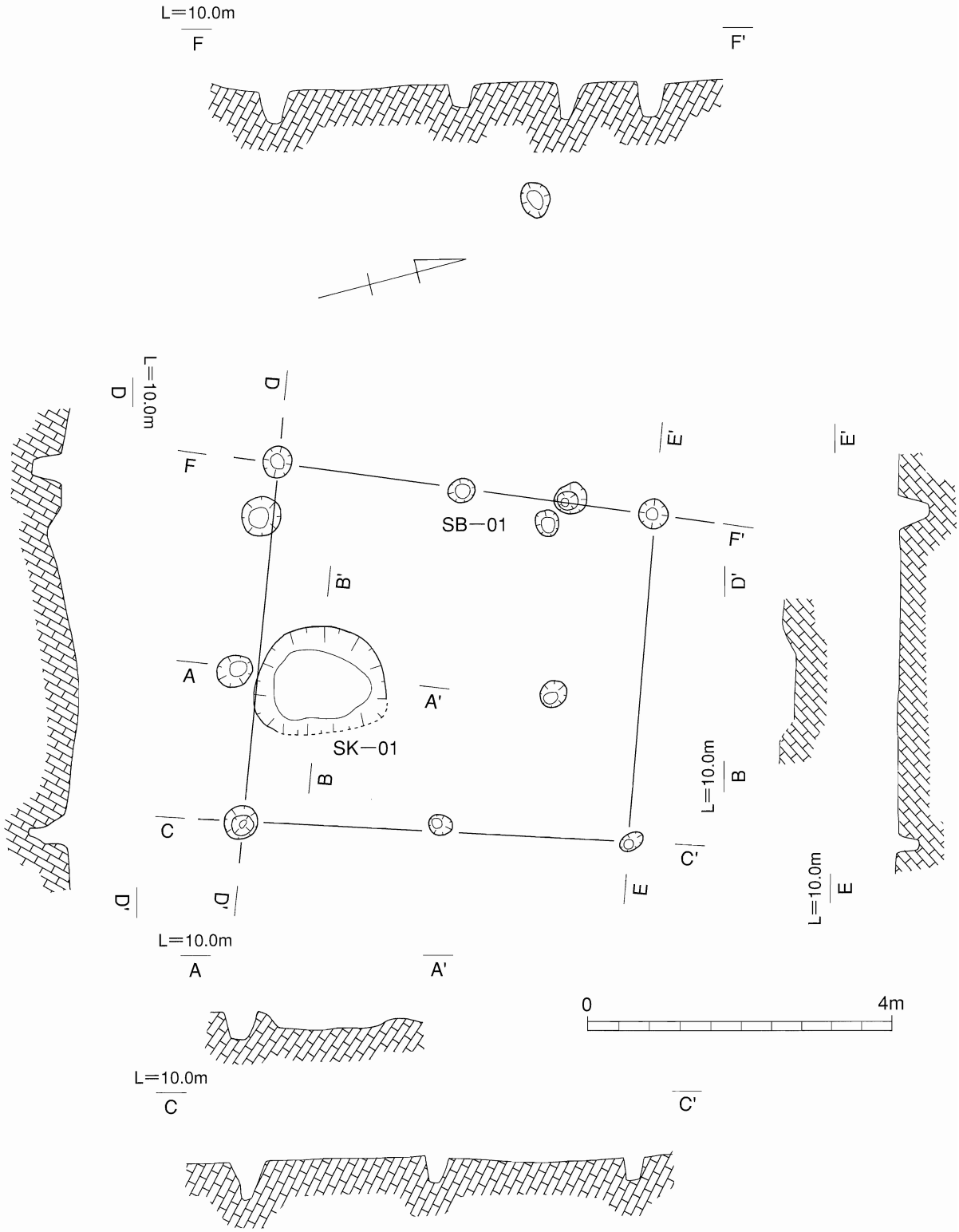
SB－01は梁行き２間、桁行き２間の掘立柱建物跡で、柱穴は上端径12～26cm、下端径５～14cm、深さ８～26cm、柱穴間の距離は約１ｍを測り、ほぼ等間隔に位置し、柱の数は７本を数える。検出された柱穴は浅いが、本来はもう少し深かったかもしれない。SK－01を伴う住居と考えられる。

SK－01はSB－01の西側に位置する。平面形は不整円形で、上端径130～220cm、下端径120～210cm、深さ８～15cmを測る。覆土は２層あり、床面直上は明茶色粘質土、その上には炭化物を含んだ黒灰色土が堆積している。その炭を含んだ層から摩滅した土器が出土しているが、時期の限定はできなかった。SB－01とは何らかの関連があると思われるが、その用途については不明である。

旧河道は上層にあたる灰色砂層や砂礫層中から大量の遺物が出土した。遺物の中には若干の石器も含まれていたが、土器片がその大半を占めていた。出土遺物の時期は弥生時代後期のものが大半を占めており、それ以外には古墳時代前期から古墳時代後期の須恵器なども出土している。



第５図　田中谷遺跡（Ⅳ区）調査成果図



第６図　田中谷遺跡北区遺構配置図

○南区

北区と同様に西側に安定した基盤層から遺構が検出された。掘立柱建物跡が２棟（SB－02～03）、土壙が１基（SK－02）、溝が4本（SD－01～04）、これ以外にも数多くのピットが検出されたが、建物などの復元にはいたらなかった。また旧河道中からは杭列が検出された。

第７図は南区の遺構群の全体図である。第８～10図は南区の中で北側に位置する遺構群である。掘立柱建物跡が２棟（SB－02～03）、土壙が１基（SK－02）、溝が２本（SD－01～02）、これ以外にも数多くのピットが検出されたが、建物などの復元にはいたらなかった。

第８図は掘立柱建物跡と思われる遺構を中心としたものである。

SD－01の平面形は途中でくびれるが、東西方向に走るほぼ直線形を呈するもので、長さは約3.0ｍ、上端幅32～58cm、下端幅20～30cm、深さ1.7～11.6cmを測る。覆土は炭化物を大量に含んだ濃灰色土１層で、その中から土器片が多数出土したが、時期が限定できるものはなかった。遺構内にピット（SB－02の柱穴）を検出し、このSD－01がSB－02に伴うものと考えられる。

SB－02は梁行き１間、桁行き１間の掘立柱建物跡で、柱穴は上端径42～62cm、下端径14～30cm、深さ26～47cm、柱穴間の距離は約1.6ｍを測り、ほぼ等間隔に位置する。柱の数は４本を数える。検出された柱穴の中には浅いものもあるが、本来はもう少し深かったかもしれない。SD－01を伴う住居と考えられるが、SB－02内から遺物は出土しなかった。

SB－03は梁行き１間、桁行き２間の掘立柱建物跡で、柱穴は上端径10～44cm、下端径６～26cm、深さ16～42cm、柱穴間の距離は梁行き側1.1ｍ、桁行き側0.8ｍを測る。柱の数は６本を数える。検出された柱穴の中には浅いものもあるが、本来はもう少し深かったかもしれない。東南隅の柱穴からは柱根らしきものが残っていた。ピットや住居址内から遺物は出土しなかった。

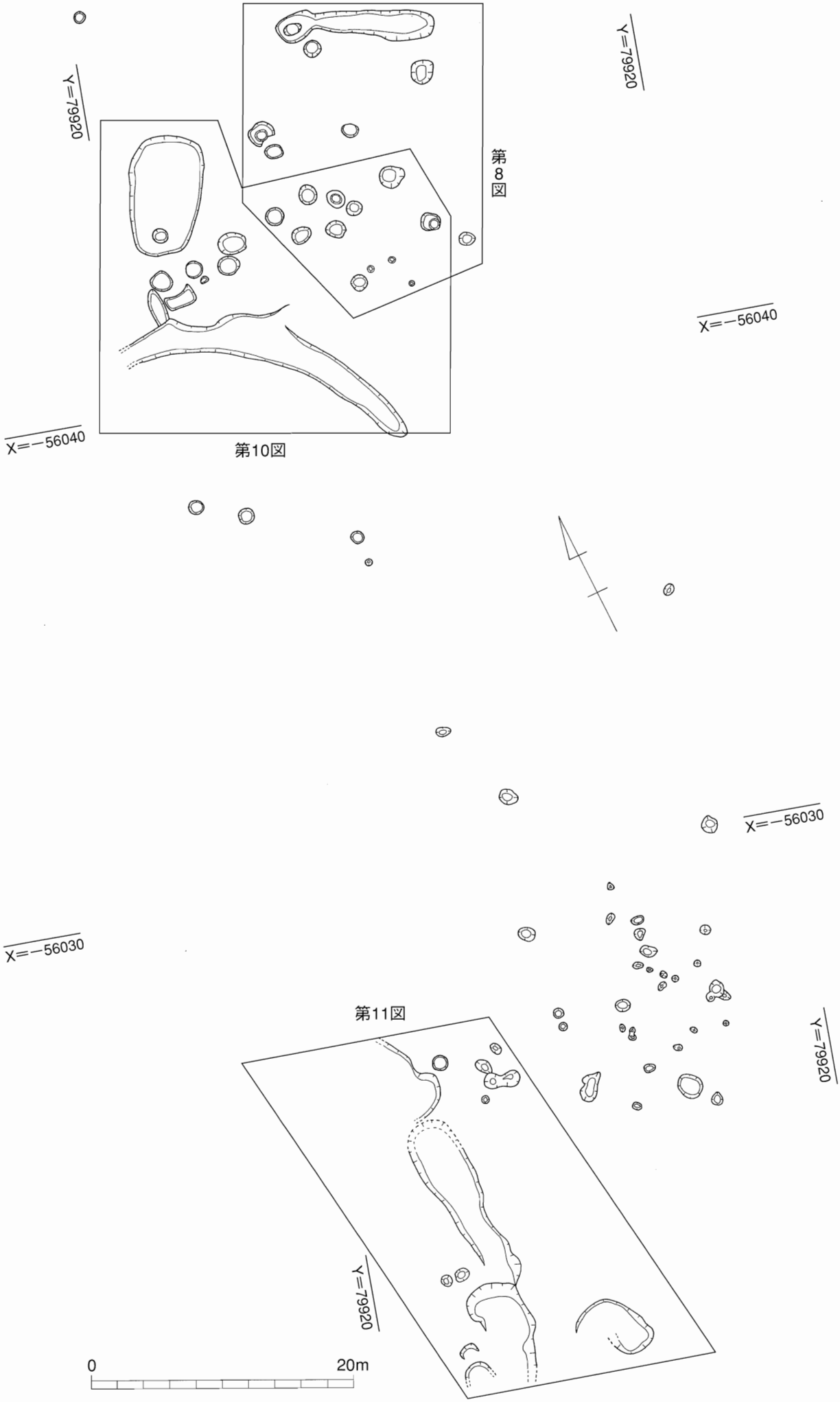
このほかにもピットが検出され、これらの建物とは異なる建物跡がほかのピットと対応して復元できる可能性がある。

第９図はSK－02を中心とした土壙群である。

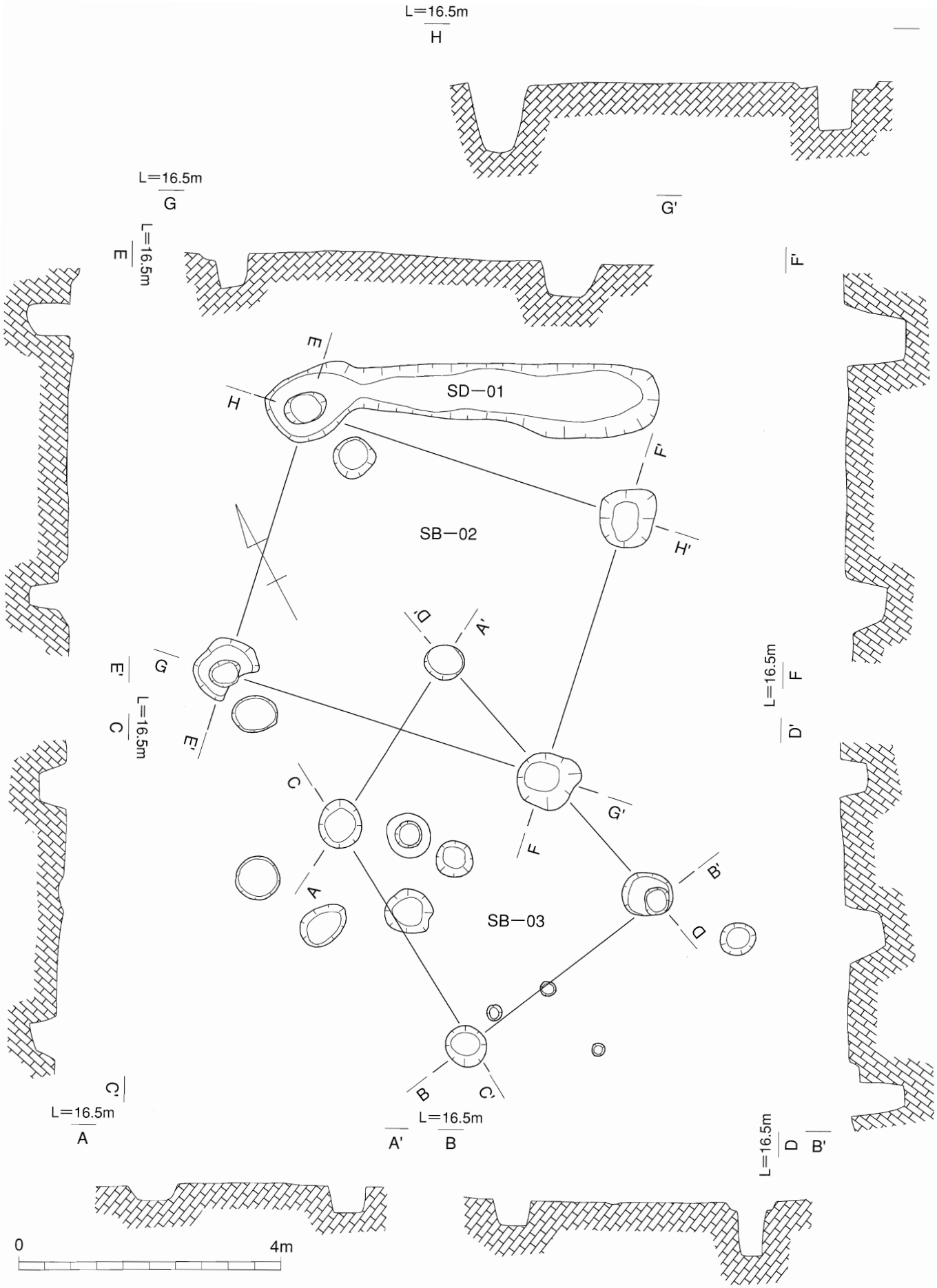
SK－02の平面形は隅丸方形を呈し、上端の長軸84cm、短軸72cm、下端の長軸64cm、短軸44cm、深さ８～12cmを測る。覆土は炭化物を含んだ褐色土１層であり、周辺にも炭化物が散らばっていた。その覆土からは弥生土器が１片出土しているが、詳細な時期を限定できるものではなかった。遺構内にピットがあるが、両者の関連については不明である。

第10図はSD－02を中心とした遺構群である。

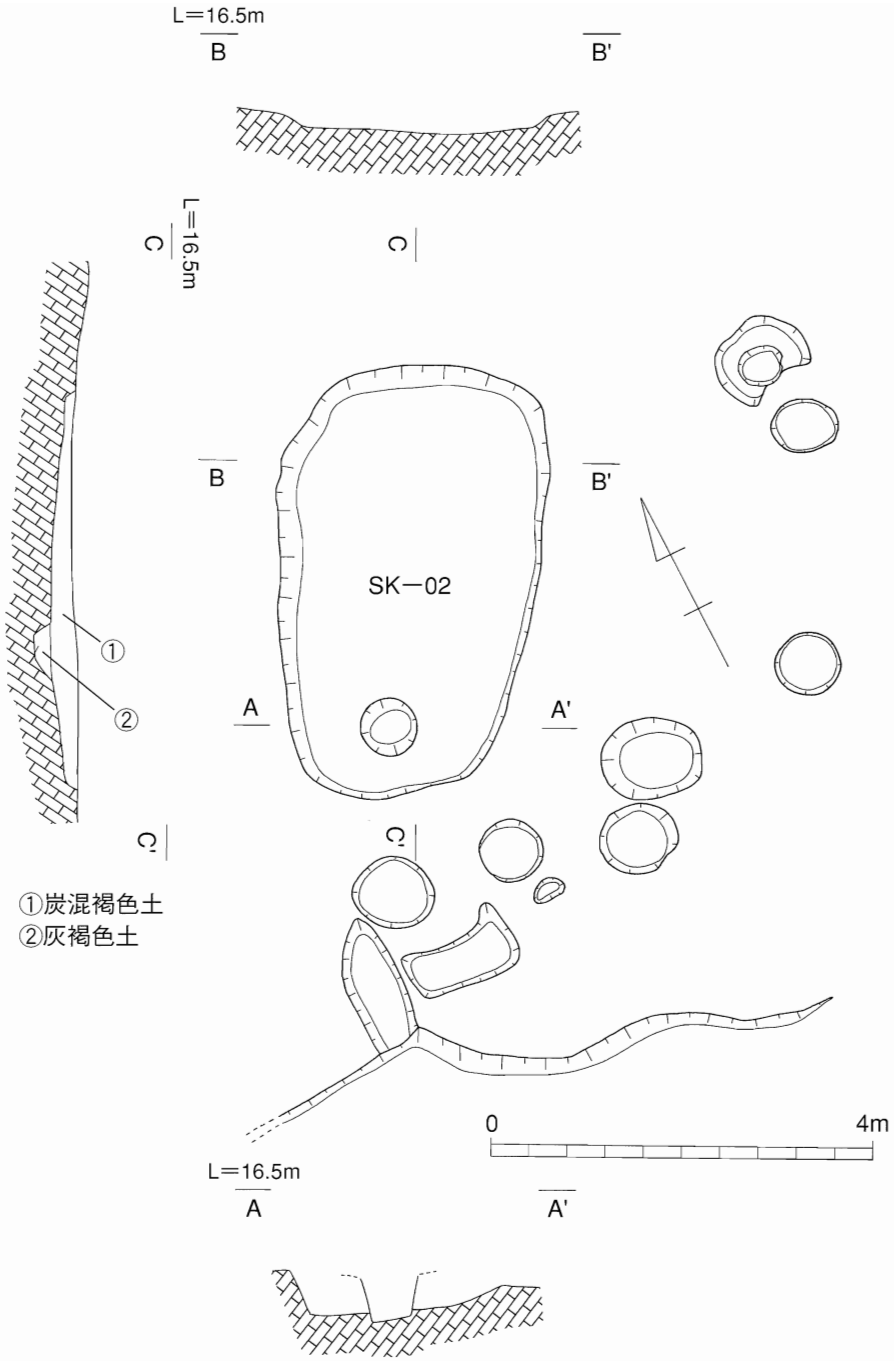
SD－02の平面形は東西方向に走り、弧状を呈するもので、途中で途切れるものの長さは約5.0ｍ以上を測り、西側にも続いているが調査区外のため正確な長さは不明である。上端幅44～82cm、下端幅32～70cm、深さ10～30cmを測る。覆土は炭混じりの灰色土一層であったが、覆土中からは弥生土器が１片出土している。



第７図　田中谷遺跡南区遺構配置全体図



第８図　田中谷遺跡南区遺構配置図（1）



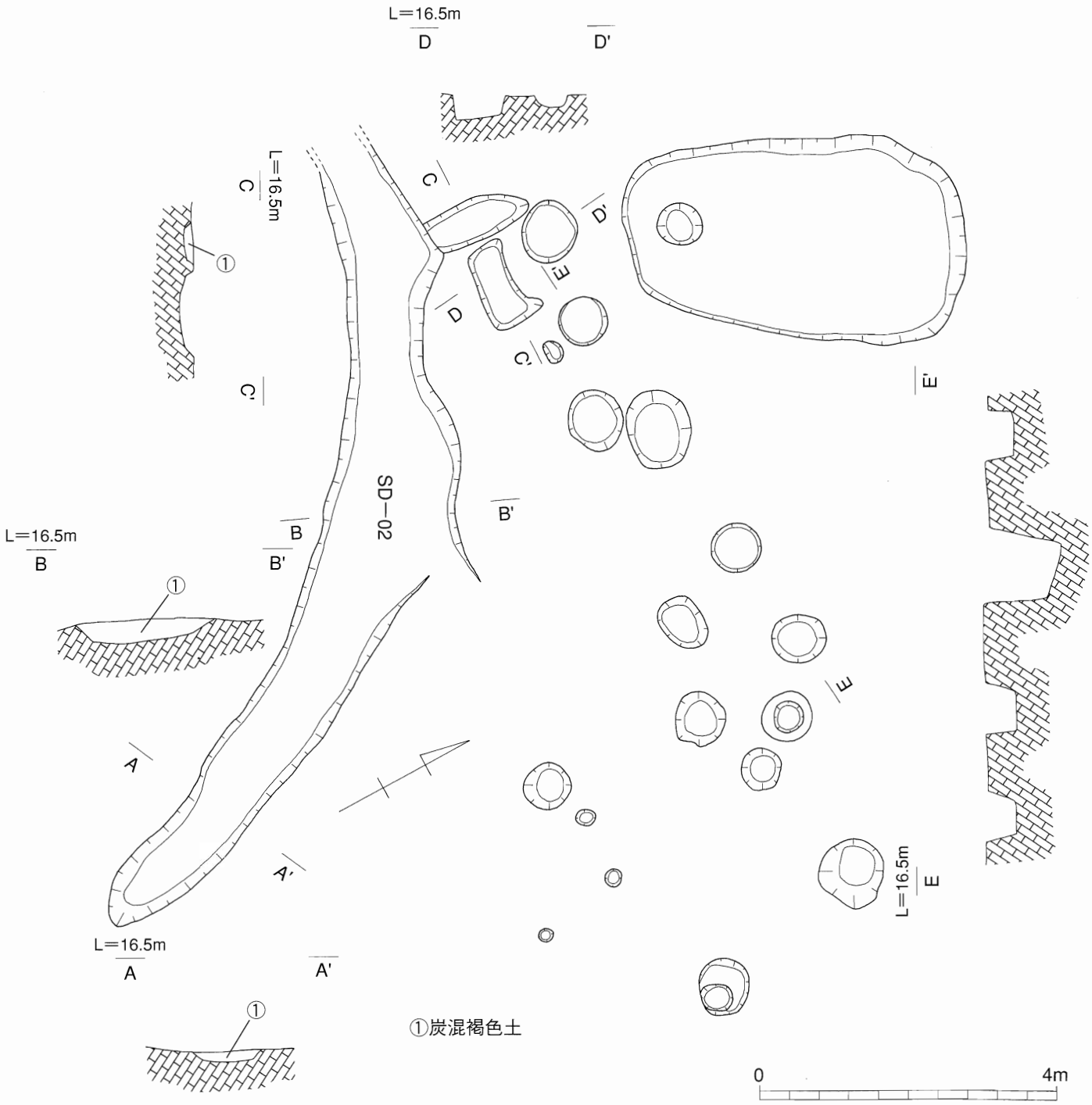
第９図　田中谷遺跡SK－01平面図

SK－03の平面形は円形を呈し、上端径38cm、下端径32cm、深さ８cmを測る。検出面からは浅く、性格等については不明である。自然にできたくぼみに土は入った可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

SK－04の平面形は楕円形を呈し、上端径28～69cm、下端径20～61cm、深さ10cmを測る。覆土は炭化物を含んだ灰色土１層であるが、遺物は出土しなかった。SD－02と切り合っているが、両者の時期差や関連など詳細は不明である。

SK－05の平面形は隅丸方形を呈し、上端の長軸58cm、短軸24cm、下端の長軸50cm、短軸18cm、深さ18cmを測る。覆土は炭化物を含んだ濃褐色土１層で、遺物は出土しなかった。

これらの遺構の相互関係や性格等の詳細については不明である。



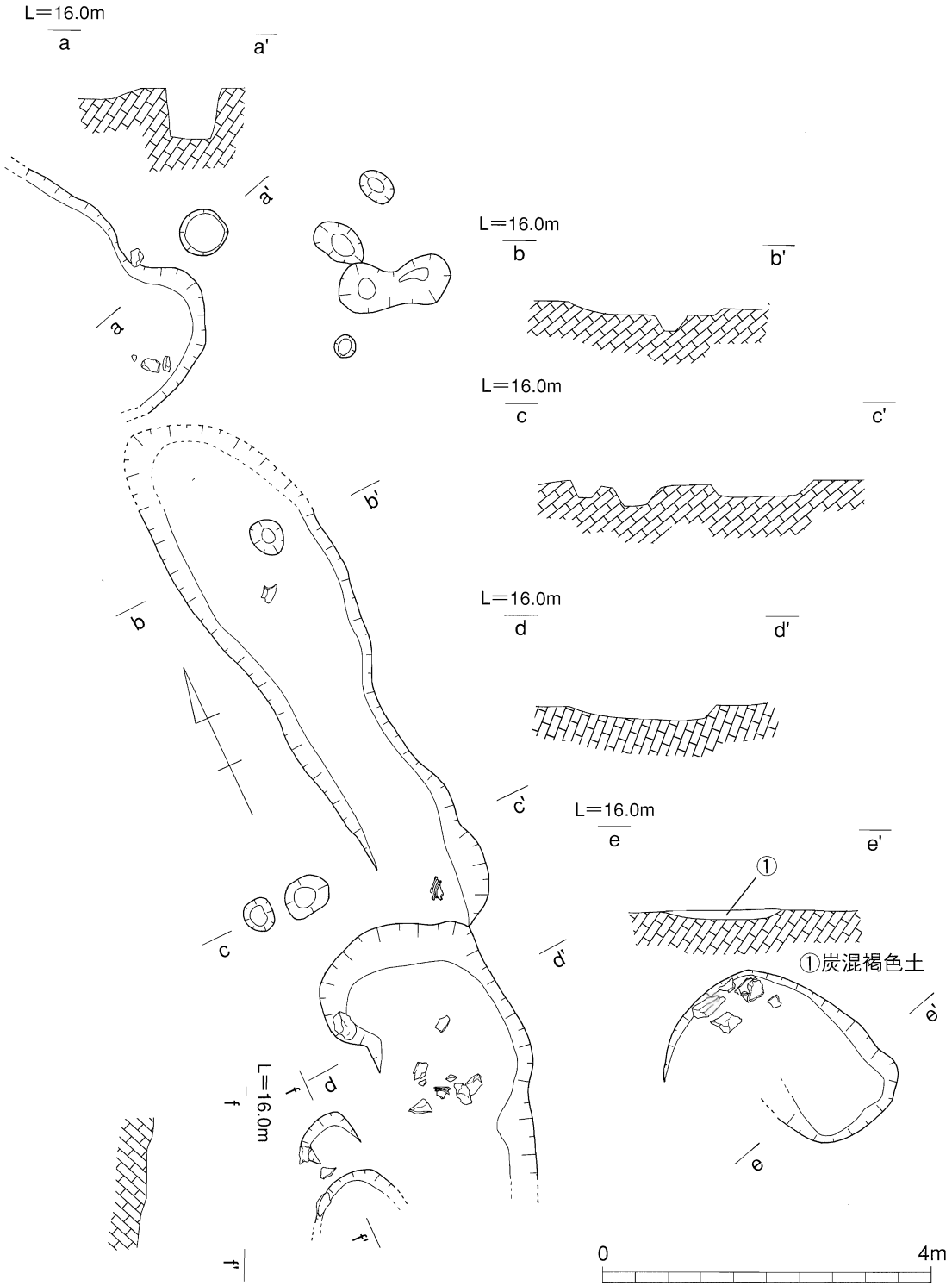
第10図　田中谷遺跡南区遺構配置図（2）

Ｅ－Ｅ'は直線に並ぶピット群である。ピットは上端径32～52cm、下端径23～36cm、深さ16～43cm、ピット間の長さは39～54cmを測る。これらのピットに対応する同様のピット群が検出できなかったため、建物跡の復元はできなかった。

周辺にはこれ以外にも多くのピットが検出されたが、いずれも建物跡の復元にはいたらなかった。

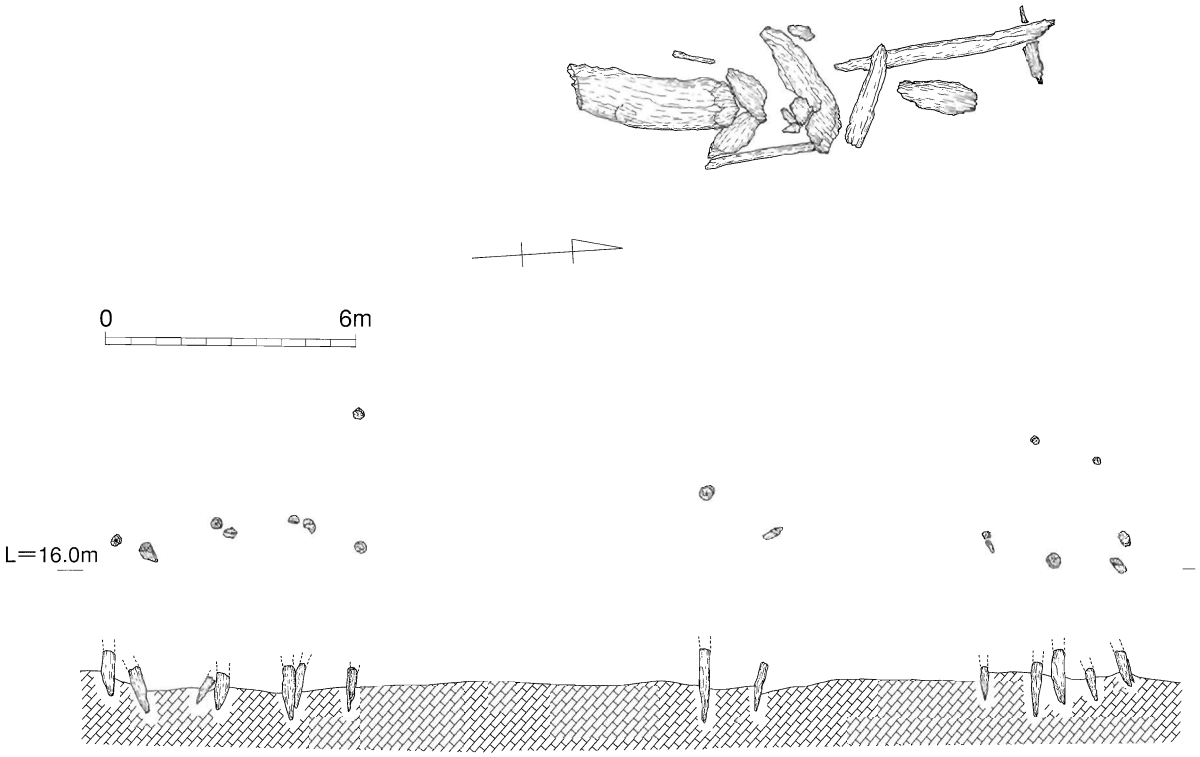
第12図は南区の南側から検出された遺構群で、いずれも用途不明遺構である。

SX－01は西側が調査区外のため半分しか検出できなかった遺構である。高低差は６cmを測る。覆土中から土器片が数片出土し、弥生土器の底部が出土した。



第11図　田中谷遺跡南区遺構配置図（3）

SD－03の平面径はほぼ直線形を呈するもので、南側は途切れているかもしくはSX－02によって削平されている。長さは約3.5ｍ、上端幅96cm、下端幅74cm、深さ６cmを測る。覆土は炭化物を含んだ灰色土１層で、覆土中からは土器が２片出土している。また遺構内からピットが検出されているが、その関連については不明である。



第12図　田中谷遺跡杭列・流木検出状況

SX－02は南側が調査区外のため、全体を検出することができなかった。長さは２ｍ以上、上端幅100cm、下端幅74cm、高低差は６cmを測る。石が４個、土器片が１片出土した。

SX－03は平面形はほぼ隅丸方形を呈すると思われるが、途中で途切れているため完全な形で検出できなかった。上端の長軸128cm、短軸80cm、下端の長軸114cm、短軸50cm、深さ５cmを測る。覆土は炭化物を含んだ褐色土１層で、石が５個、土器片が２片出土した。

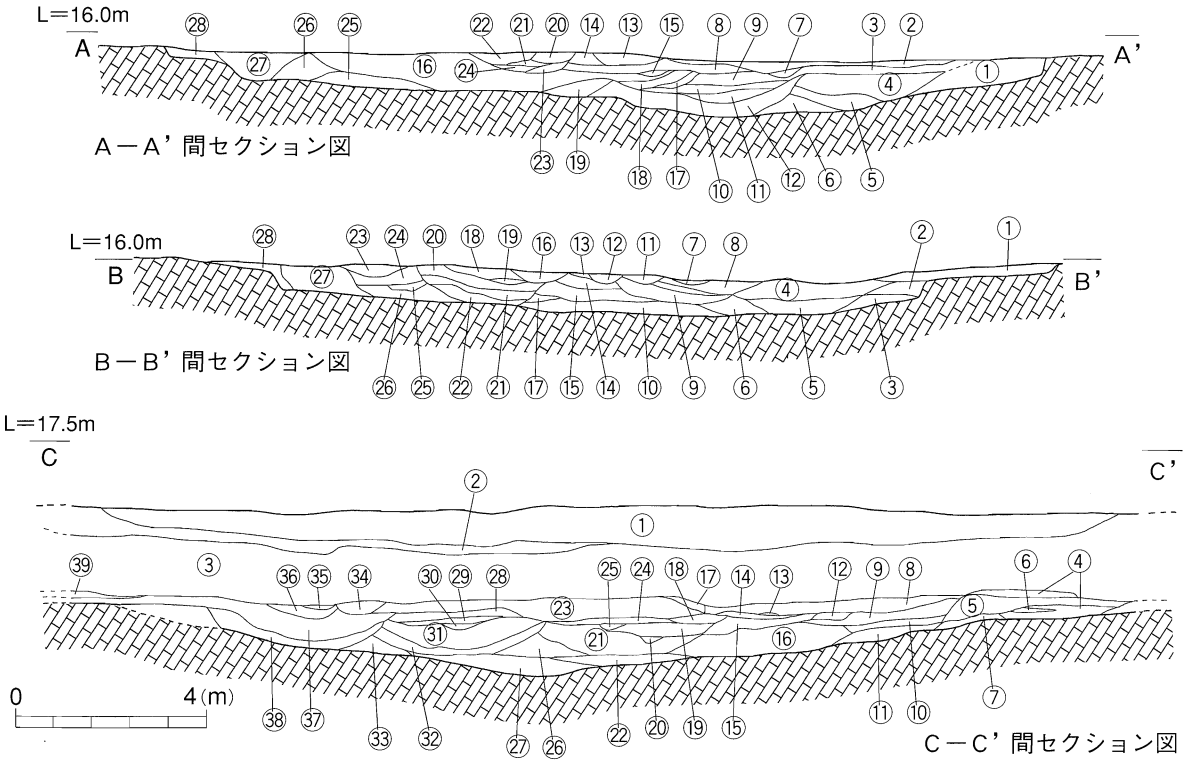
これらの遺構以外にも多くのピットが検出されたが、建物等の復元にいたらなかった。また炭化物を検出され、生活の痕跡がみられる。

第13図は旧河道から検出された杭列と流木の出土状況である。

杭列は旧河道の西側で、ほぼ南北方向に約４ｍにわたって検出されたものである。杭は太さ５cm前後の木を使用している。杭は穴を掘って打ち込んだものではなく、形状は先が尖っているため直接直に打ち込んだものと思われる。杭が密集しているところは10cm前後の間隔をとって打ち込んでいるが、間があいているところは、すでになくなっていたものと思われる。

本来どのような目的で杭を設置したかはわからないが、旧河道の端にあることや杭を境にして河道の反対側に建物跡らしき遺構が検出されているため、河道との境を示しものではないだろうか。

旧河道から出土した流木はしがらみ状に集積されていた。また土器とともに出土するところもあり、故意に投げ捨てたかもしくは大水によって流されて集まったものと思われる。



第13図　田中谷遺跡セクション図

A－A' 間セクション図土層名
①風化石を多く含む褐色粘質土　②灰褐色粘質土　③淡灰褐色砂質土　④大礫を含む淡褐灰色砂質土
⑤石粒を多く含む淡褐灰色砂質土　⑥砂混じりの礫層　⑦灰色砂質土　⑧石粒を多く含む灰色砂質土
⑨石を多く含む灰色砂質土　⑩石粒を多く含む淡褐灰色砂質土　⑪石粒を多く含む灰色砂質土　⑫礫を少々含む灰色砂質土
⑬灰色粘質土　⑭淡褐色砂質土　⑮灰色砂質土　⑯大礫の隙間に灰色砂質土　⑰灰色砂質土　⑱流木を含む灰色砂質土
⑲石を多く含む黒色砂質土　⑳灰色砂質土　㉑腐食物(木片)を多く含む灰色砂質土　㉒茶灰色砂質土(炭を多く含む)
㉓大粒の灰色砂質土　㉔大粒の褐色砂質土　㉕黒色砂質土　㉖中礫層(間に砂をかむ)　㉗黒色粘質土
㉘風化した礫を多く含む褐色土

B－B' 間セクション図土層名
①小礫を多く含む褐色粘質土　②風化石を多く含む褐色粘質土　③礫を多く含む白色粘質土　④小礫を多く含む灰色砂質土
⑤黒色砂質土　⑥大礫を含む灰色砂質土　⑦濃灰色砂質土　⑧灰色砂質土　⑨小石を含む灰褐色砂質土　⑩黒色砂質土
⑪灰色粘質土　⑫黒色砂質土　⑬小石が多い黒色砂質土　⑭小礫を含む灰色砂質土　⑮礫が多い灰色砂質土　⑯黒色砂質土
⑰礫層　⑱灰色砂質土(炭が多い)　⑲淡褐色砂質土　⑳小石を多く含む砂質土　㉑小礫層　㉒小礫を多く含む灰色砂質土
㉓黒色粘質土　㉔灰色砂質土　㉕腐食物(木片)を多く含む黒色粘質土　㉖灰色砂質土　㉗大礫層
㉘風化した礫を多く含む褐色土

C－C' 間セクション図土層名
①褐灰色粘質土　②暗灰色粘質土　③灰色粘質土　④小石を含む灰色粘質土　⑤黒灰色粘質土　⑥褐色砂質土
⑦風化礫混じりの褐色土　⑧小礫を少々含む黒色粘質土　⑨小礫を多く含む灰色粘質土　⑩礫を少々含む灰色粘質土
⑪風化礫混じりの灰褐色土　⑫礫混じりの褐色土　⑬濁褐色粘質土　⑭黒色粘質土　⑮小石を密に含む灰褐色砂質土
⑯中礫を含む灰色砂質土　⑰黒褐色粘質土　⑱小礫を密に含む灰色粘質土　⑲小礫を密に含む灰色砂質土　⑳灰色砂質土
㉑大礫を含む灰色砂質土　㉒大礫を少々含む灰色砂質土　㉓小礫を少々含む黒色粘質土　㉔小礫を含む黒色粘質土
㉕黒色砂質土　㉖中礫を含む灰色砂質土　㉗大礫を含む白色粘質土　㉘小礫を密に含む褐色砂質土
㉙細礫を密に含む灰色砂質土　㉚灰色砂質土　㉛中・大砂を含む灰色砂質土　㉜大砂を含む灰色砂質土
㉝中礫を含む灰色砂質土　㉞礫を含む灰褐色砂質土　㉟淡褐色砂礫層　㊱小礫を含む黒色粘質土
㊲中礫を密に含む灰色砂質土　㊳中・大砂を含む灰色砂質土　㊴中・大砂を含む灰色砂質土

第13図は旧河道の痕跡を示したセクション図である。A－A'間、B－B'間は表土も除去した後からの土層断面であり、C－C'間は表土を含めた土層断面である。C－C'間の①（褐灰色粘質土）～③（灰色粘質土）までは耕作土である。

旧河道は調査区全域にわたってほぼ南北に走っていた。この土層断面から半月状の土層が数多くみられるが、これが１つ１つの河道であり、大小の河道が数多く切り合っているような状態である。また大雨などによって谷に大水が集まり、通常幅狭で水量が少ない小川でも、河道の流れが変わってしまった。それが何度も繰り返されることによって幅約15ｍの１本の河道のような痕跡となった。(1)

また旧河道の堆積土中からは大量に土器片も出土した。これは北区でも同様で木製品なども出土している。おそらくは谷で集落を営んでいた人々が投げ捨てたり、集落にあったものが大水で流されてきたものと推測される。出土土器の大半が弥生時代後期の土器で、東端の旧河道から須恵器が出土したため、弥生時代後期から古墳時代後期にわたって何度も流れを変えていたものと思われる。

掘立柱建物跡は計３棟検出された。溝や土壙は住居に伴うものとして使用された可能性が高い。しかし柱穴の大きさや深さ、配列などから恒常的な住居よりも小屋のような臨時的な住居の可能性も否定できない。また土壙や溝の覆土は炭化物を含んだ層であり、生活の痕跡を示すものと考えられ、河道から出土する大量の土器片や木製品などが集落の存在を示しているのではないだろうか。いずれにしても周辺に大きな集落があったことが推察される。

註）
(1) 島根大学汽水域研究センター客員研究員　中村唯史氏のご教授による

Ⅴ．遺物について

遺物は、土器、石器、木製品が出土した。これらの遺物の大半は旧河道群から出土したものであるが、旧河道群には複雑な切り合い関係があり、残念ながら層位的に遺物を取り上げることはできなかった。

土器は、遺構面から出土したものと旧河道群から出土したものがあったが、遺構面出土の破片と旧河道出土の破片が接合するものが見られたため、出土場所は後頁の遺物観察表に記載するにとどめて、挿図内での区別はおこなっていない。

遺構面から出土した土器片は、量は多いもののいずれも風化が激しいうえに極めて小さい破片ばかりで、全体形が復原できる個体は非常に少なかった。かろうじて図面化できた土器は、壺では第14図11・15、甕では第16図３・７・24、第17図２・５、第18図３、第19図２のわずか９点のみである。

これに対して旧河道群から大量に出土した土器は細片化したものが多かったが、ほとんど風化が見られなかったため、小片についてもできる限り復原して図面化することに努めた。旧河道群では、浅いレベルから深いレベルまで高い密度で土器が埋没していたが、上記したとおり旧河道群のセクションは非常に複雑で、必ずしも上層の遺物が新しいものであるという状況ではなかったため、層位から新旧関係を判断することはできなかった。

したがって、本報告では土器は出土地点、出土層位に関係なく、種類別に若干存在する新旧関係を考慮して図面の掲載をおこなった（第14図～37図）。

全体を概観すると、時期は弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が大半を占めている。松本編年で表現するとⅤ－２様式からⅤ－４様式で、一部古墳時代初頭の土師器も含まれている。中でも量が多かったのはⅤ－３、４様式である。壺甕類の器壁外面には、肩部を中心に貝殻腹縁やハケ状工具で烈点文や羽状文などが施文された、装飾性に富んだ土器も多い（第30・31図）。その他の時期のものとしては古墳時代後期の土器があるが、全体からみるときわめて微量である。個別の詳細は後頁の遺物観察表にゆずることにして、以下では器種ごとに概略を記す。

・壺（第14・15図）

壺は出土数が少なく、全体における割合は低い。第14図13は内面がハケメ調整で、ケズリ調整が施されていない。口径の割には器壁が厚いものである。15は頸部に径約３cmの乳状突起の装飾が付けられたものである。第15図10はめずらしい長頸壺で、頸部には縦方向に丁寧なミガキ調整が施されている。

・甕（第16～29図11）

甕の出土数は非常に多く、出土遺物の大半を占めている。複合口縁の甕がほとんどであるが、単純口縁の甕も若干出土している（第29図１～11）。複合口縁の甕は、口縁端部に凹線文が施されたものもあるが、大半は擬凹線文が施されたものである。複合口縁の内面調整はヨコナデ調整が主流で、一

部に横またはやや斜め方向のミガキ調整が認められる。ミガキ調整の位置や範囲は個体によって様々で、Ⅴ－１～３様式の中では全体に占める割合は低いながら、全般に存在しているようである。Ⅴ－４様式になるとこのミガキ調整は消滅している。底部は平底がほとんどであるが、やや丸底化したものも見られる（第32図）。

・注口土器（第29図12～18）

注口部の出土でしかその存在は判らず、全体形が復原できる破片は出土しなかった。第29図12は注口部基部にも文様が施されており、装飾性の高い個体であったと思われる。

・器台（第33・34図）

筒部がやや長いタイプから、「く」字状に折れ曲がるタイプまでがあり、時期的には壺・甕類と合致する。第33図10の受け部内外面には赤色顔料が塗布されている。

・高坏・低脚坏（第35～36図25）

高坏は、複合口縁とそれにともなう脚部、器壁の厚い脚部という典型的な弥生系の他に、第36図5、9、10など、明らかに古墳時代前期と考えられる脚部が出土している。坏と脚の接合部は必要以上に粘土を充填しているものと、コンパクトな円盤充填のものが見られる。低脚坏は、複合口縁を逆にした形状の脚をもつものが見られる（第36図18）。

・蓋（第36図26～28）

第36図26は複合口縁状のつまみを持つ蓋である。立ち上がり部には擬凹線文が施されている。28は天井部に粘土が充填されていないものである。

・土玉（第37図20～26図）

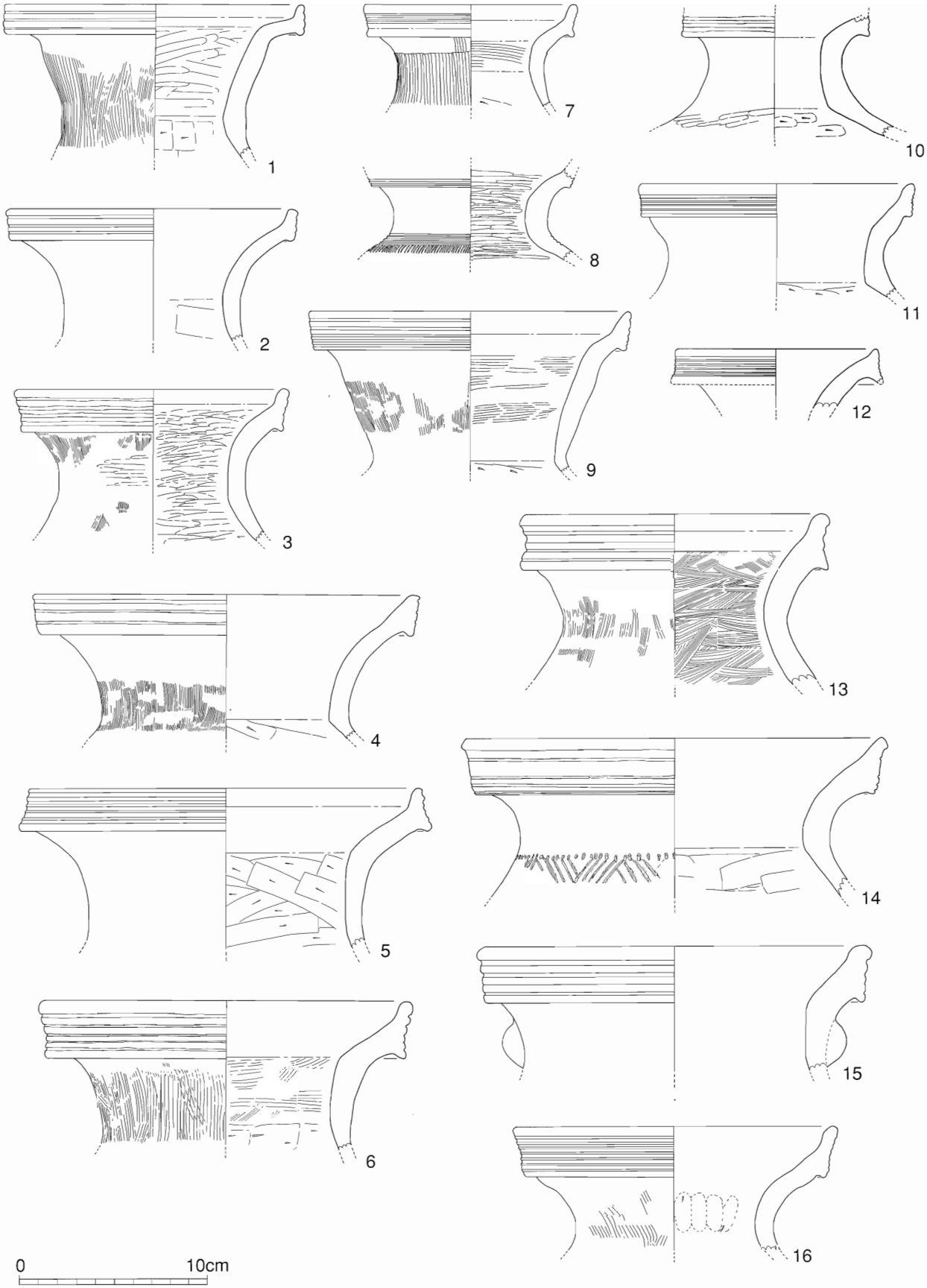
24のみ断面がやや扁平な形状を呈しているが、断面球形のものが多い。孔径は４～５mmである。25は対応する２カ所の位置に径の小さいくぼみが穿たれているが、孔は貫通していない。26はくぼみすら無い球形の玉で用途は不明である。

・その他（第37図１～19）

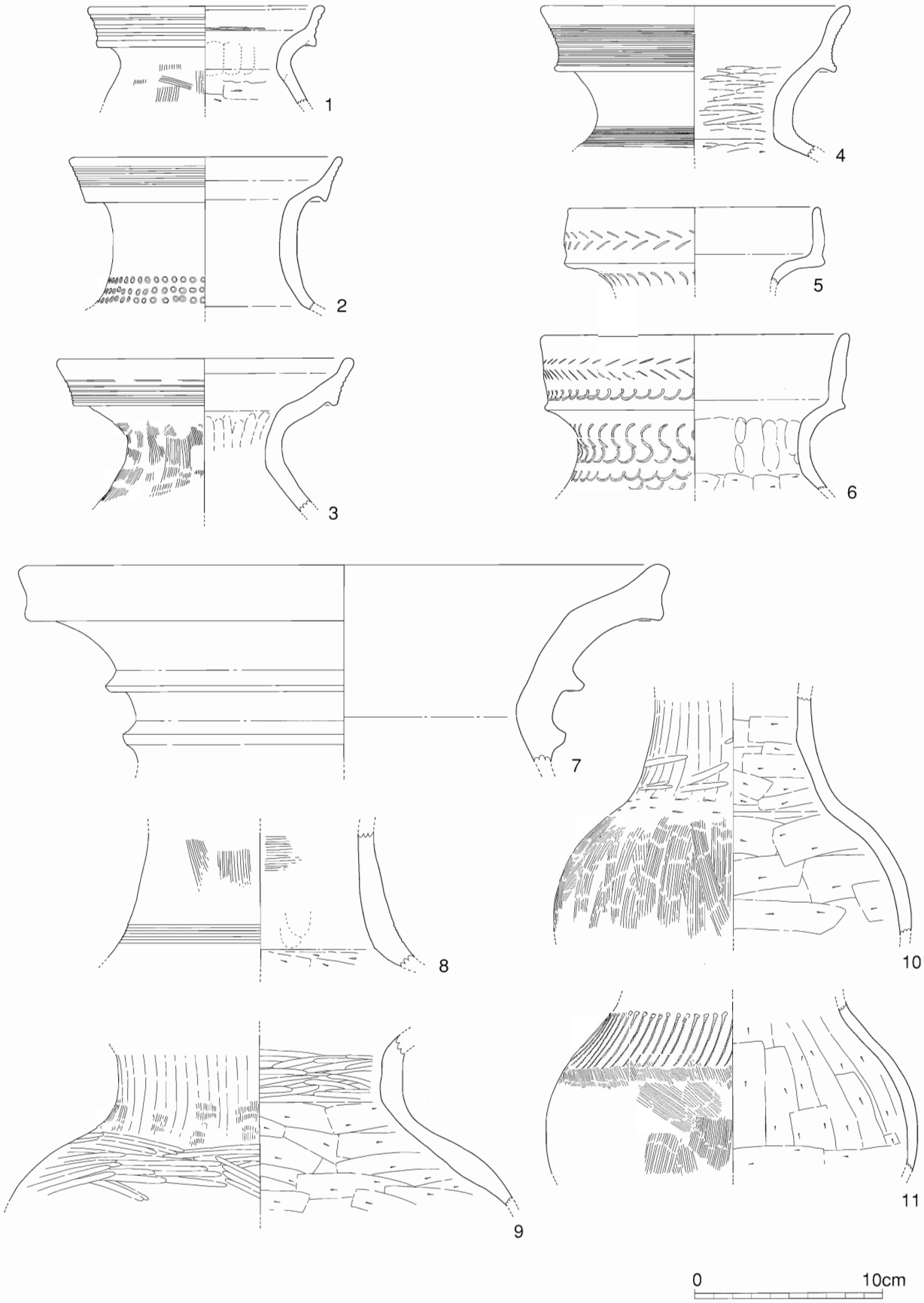
その他の少数の土器としては、把手部分（１、２、４）、甑型土器の把手（３）、土製支脚（５～７）、小型丸底壺（８～11）、須恵器の蓋（12）、坏（12～16）、高坏（17～19）がある。小型丸底壺は、複合口縁を持つやや古いタイプの８と、古墳時代前期の９～11がある。

石器は、出土状況は土器とほぼ同じである。

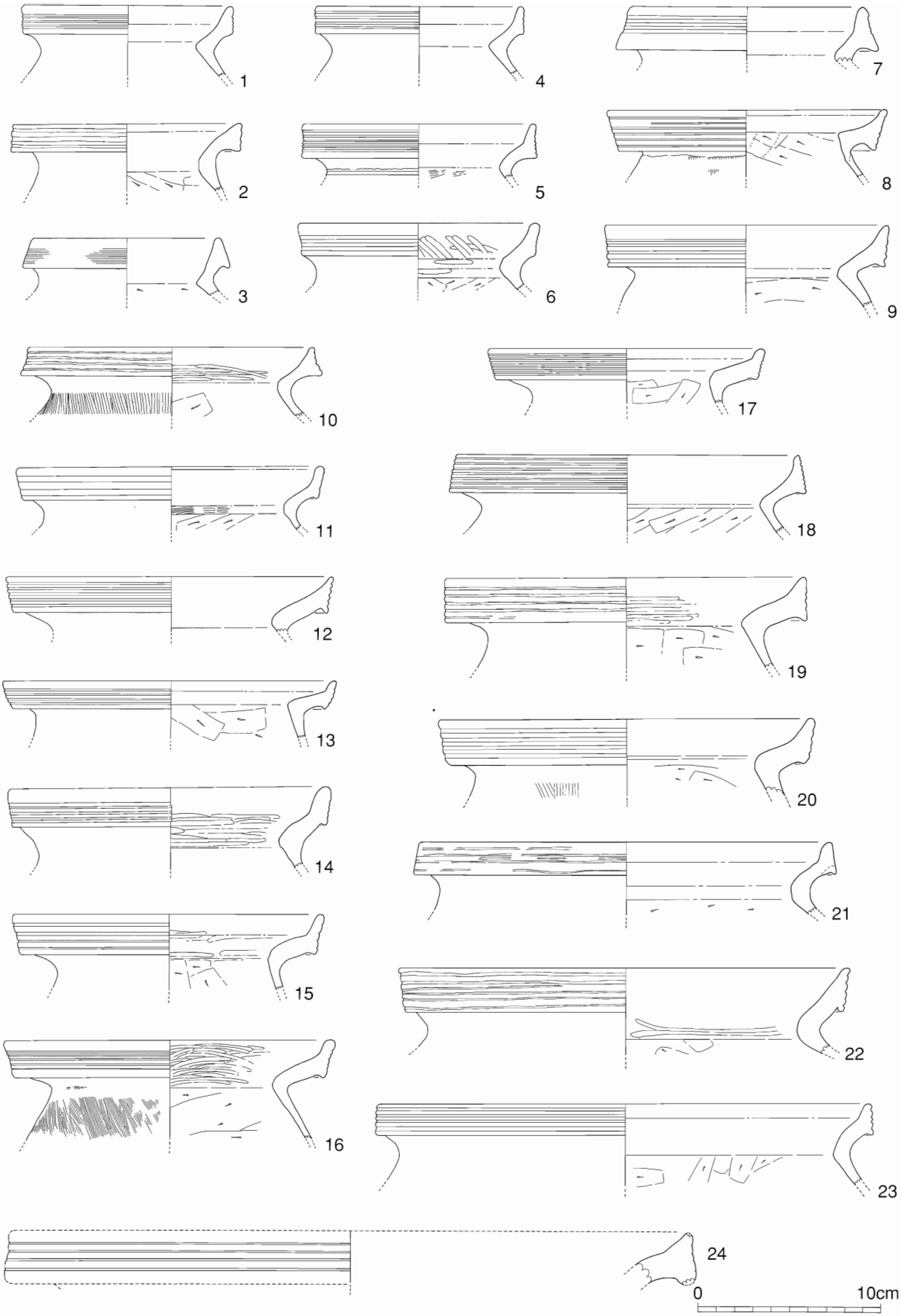
遺構面や旧河道群から、黒曜石製の鏃（第38図１、２）、鏃未製品（３）、スクレイパー（第38図４



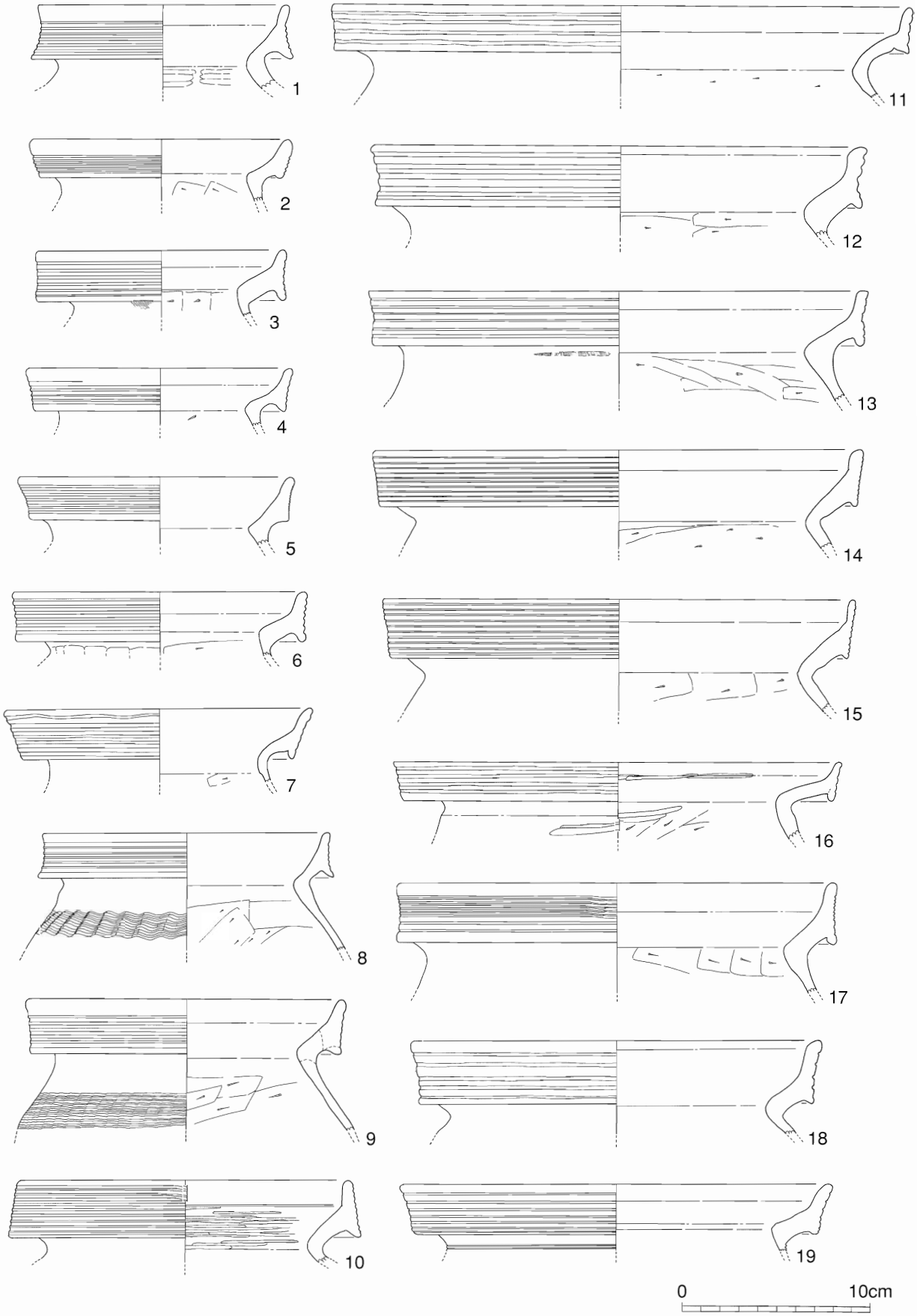
第14図　遺物実測図（１）



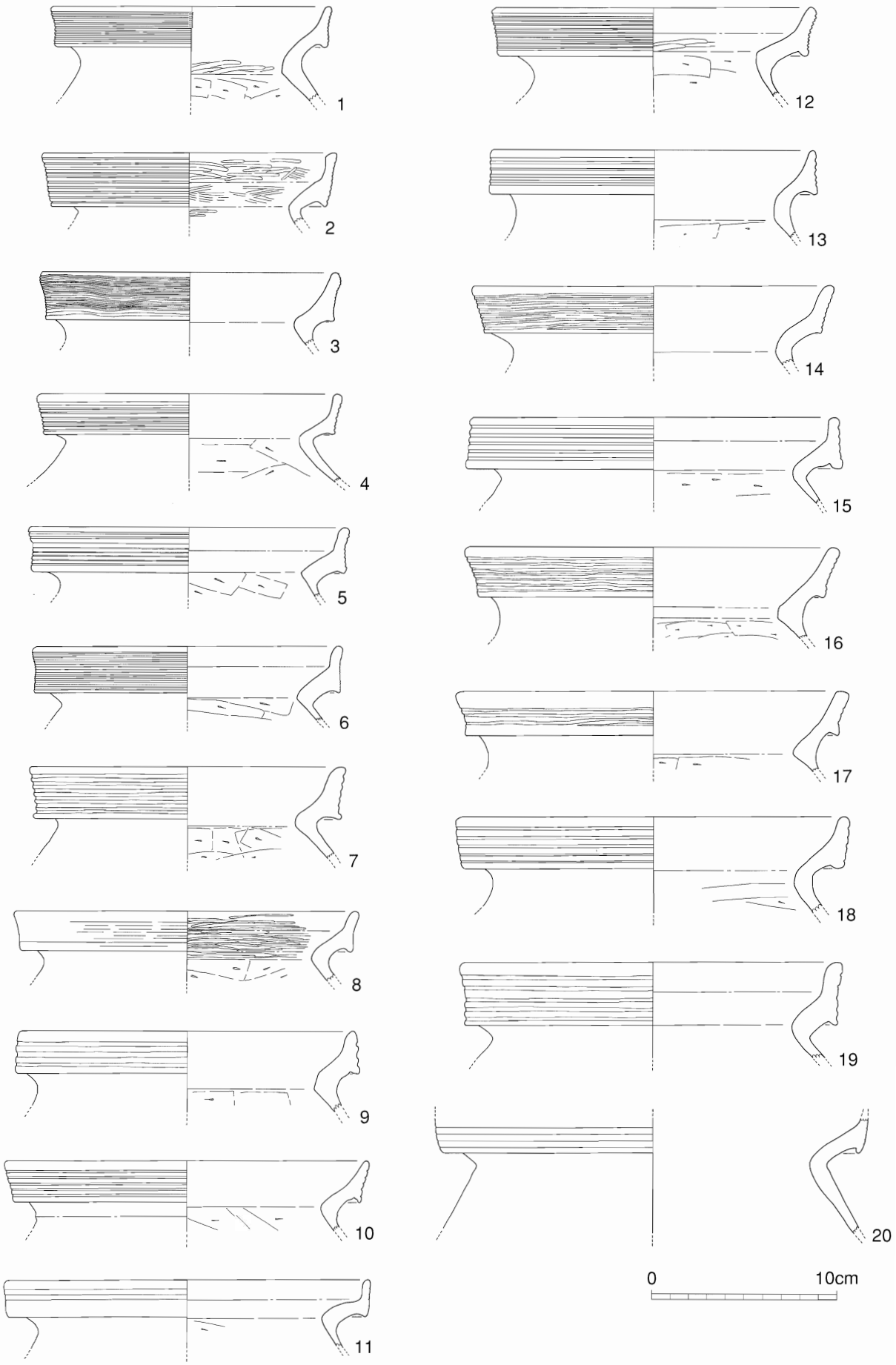
第15図　遺物実測図（２）



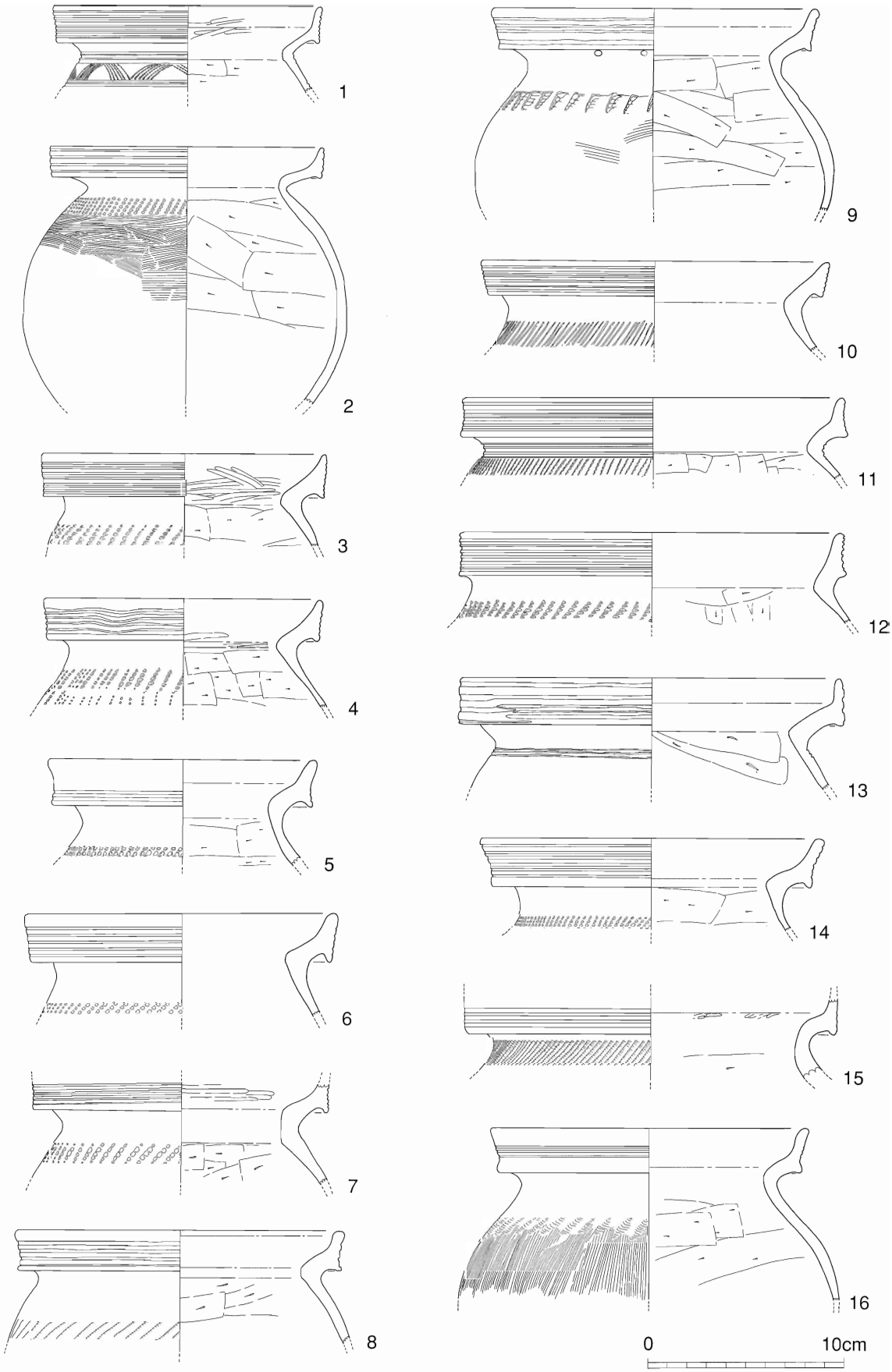
第16図　遺物実測図（３）



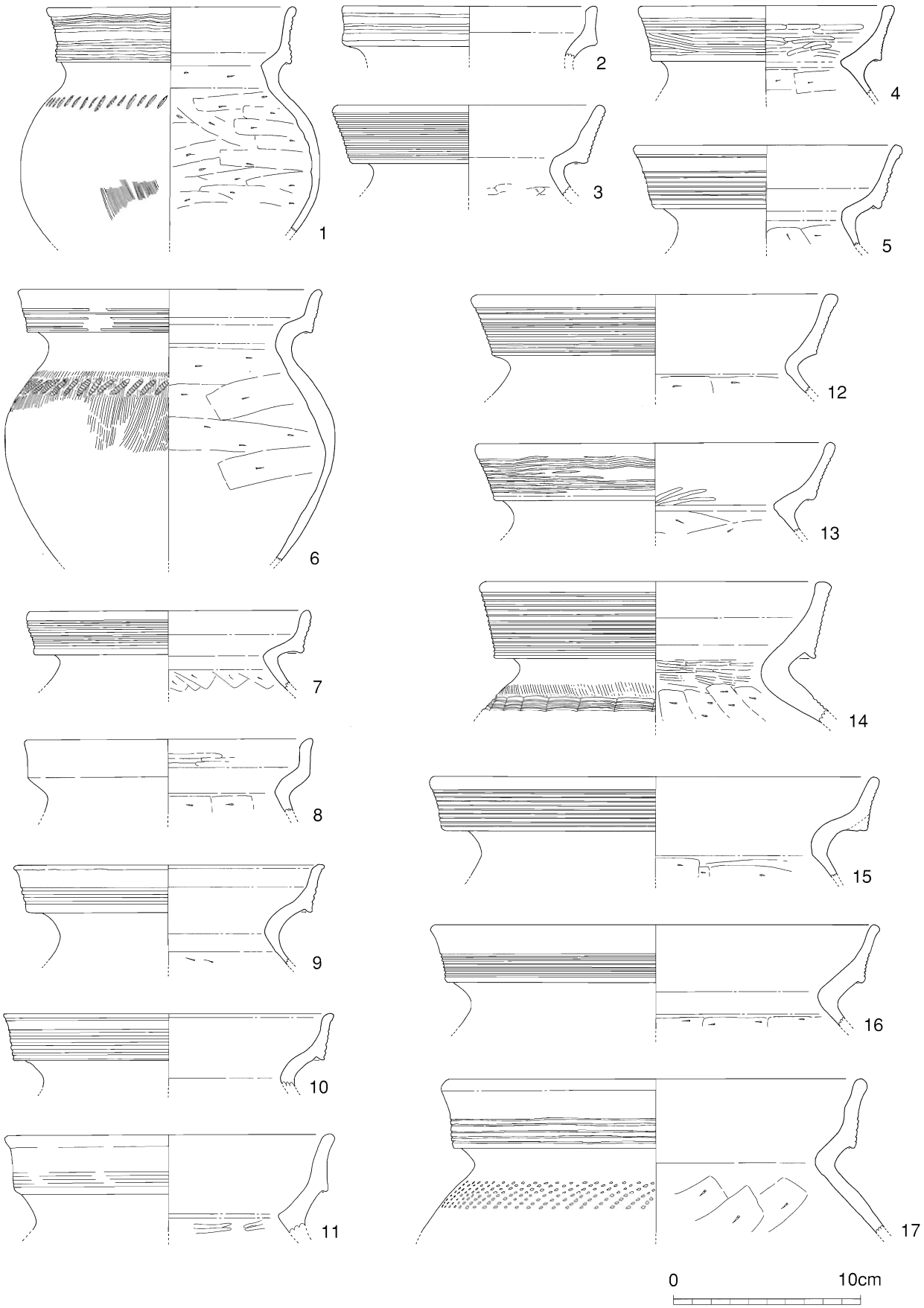
第17図　遺物実測図（４）



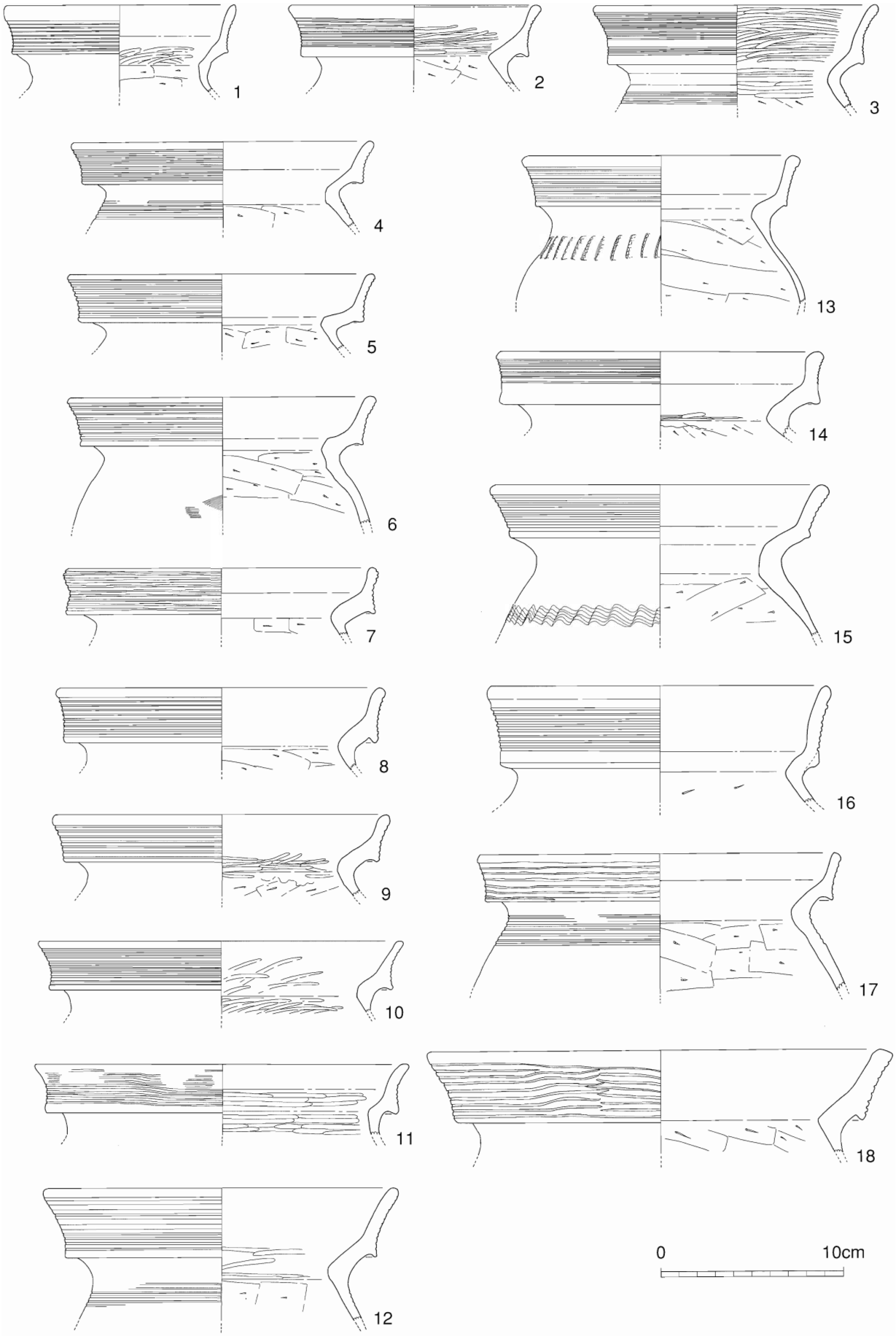
第18図　遺物実測図（５）



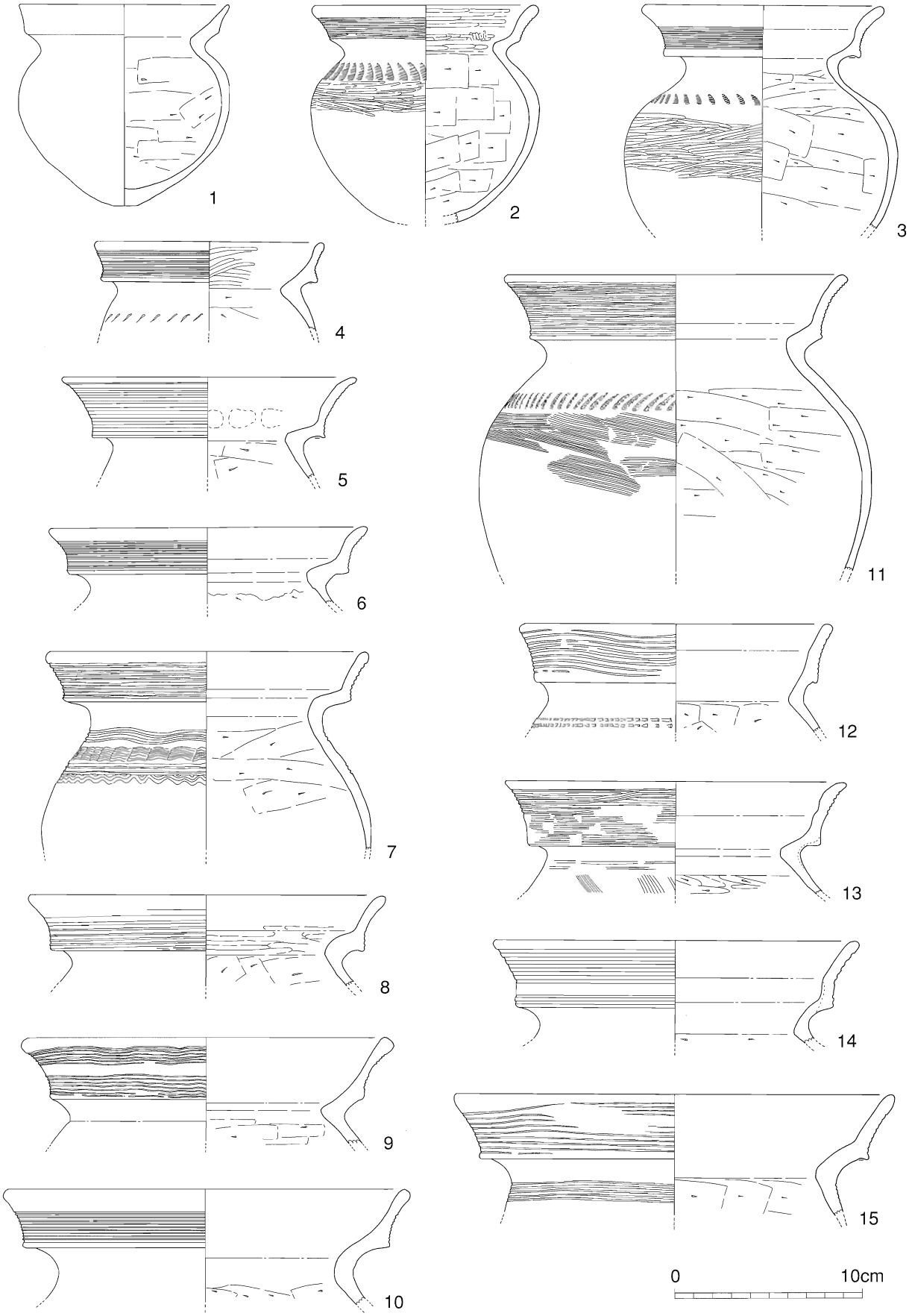
第19図　遺物実測図（６）



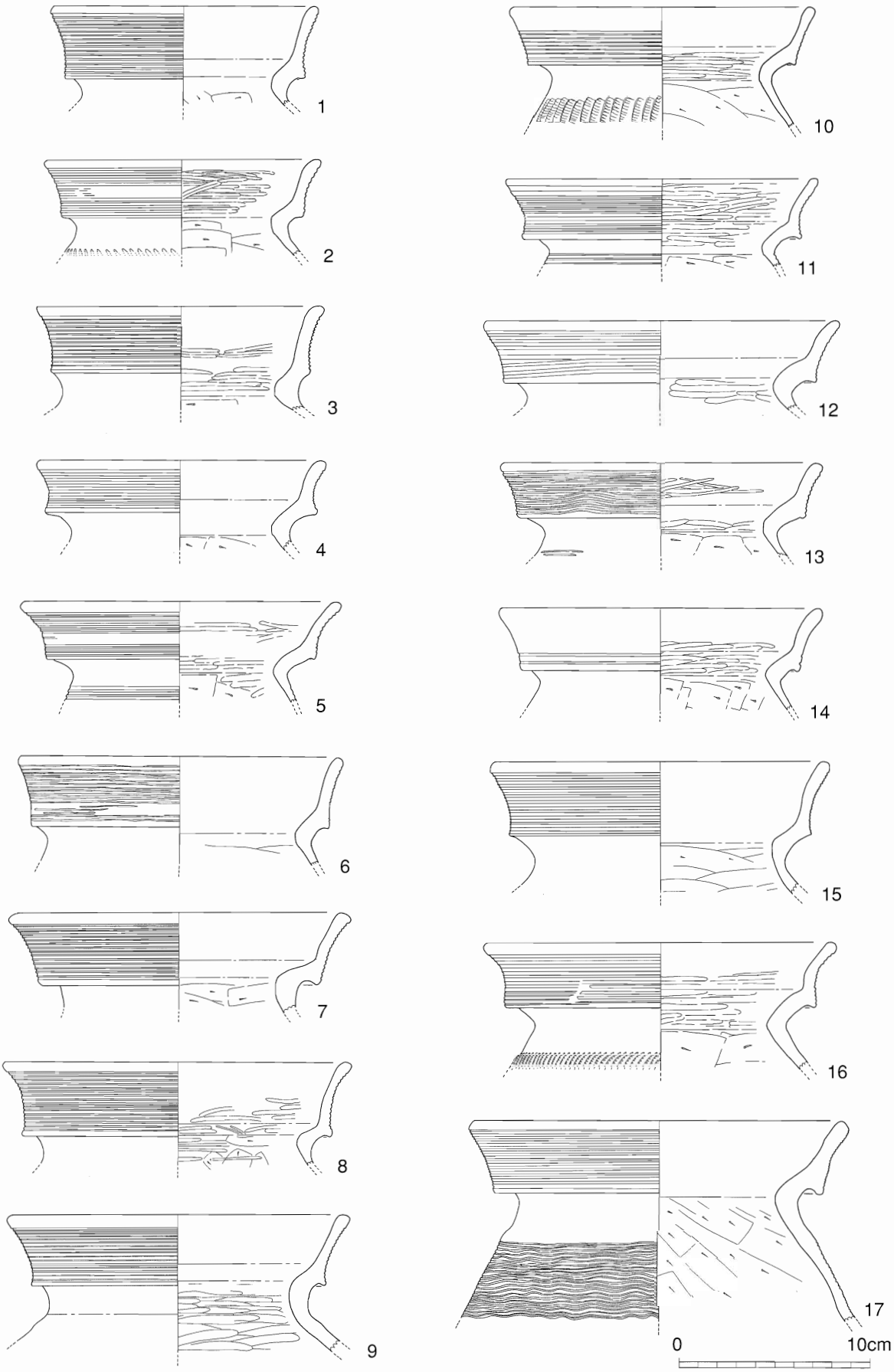
第20図　遺物実測図（７）



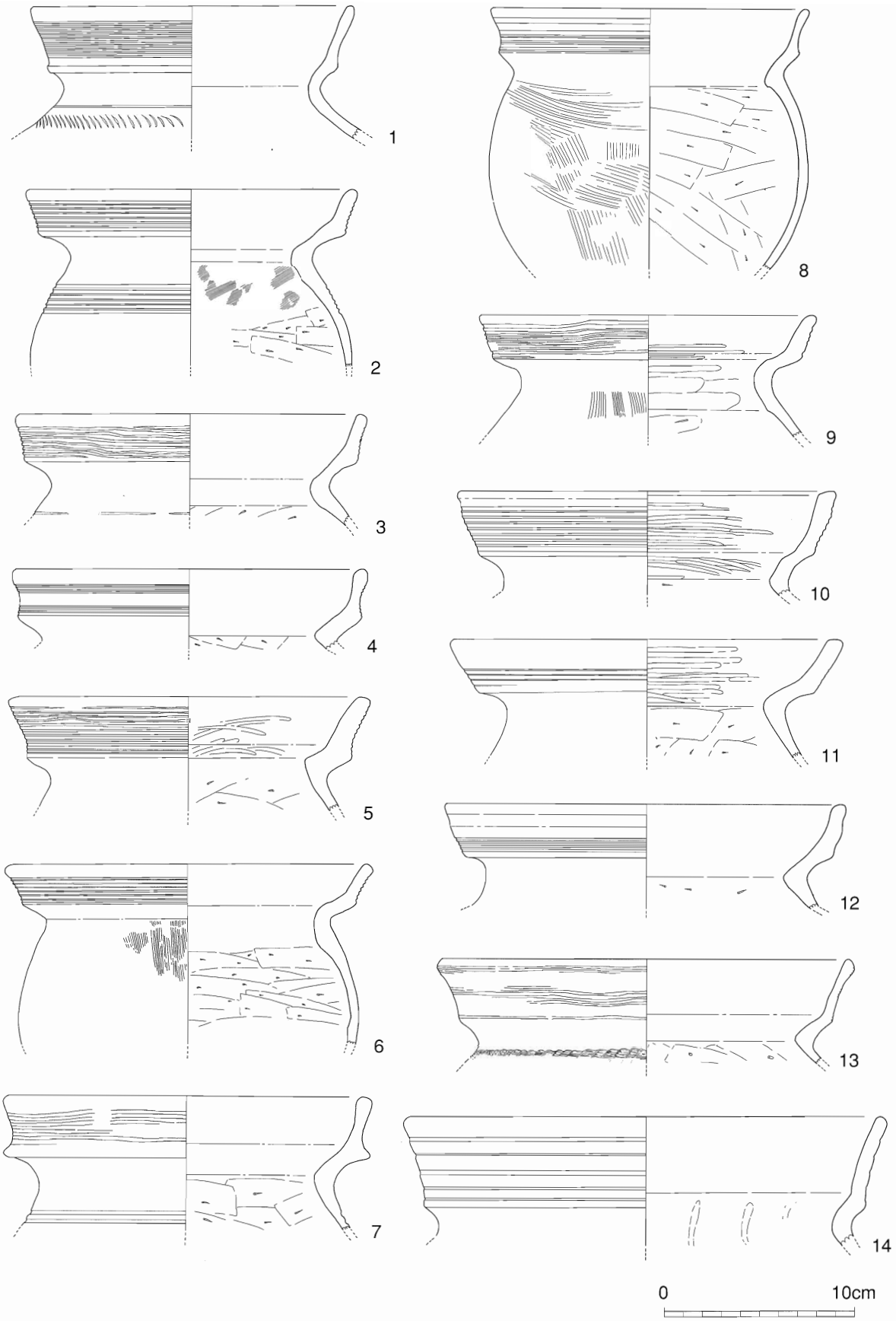
第21図　遺物実測図（８）



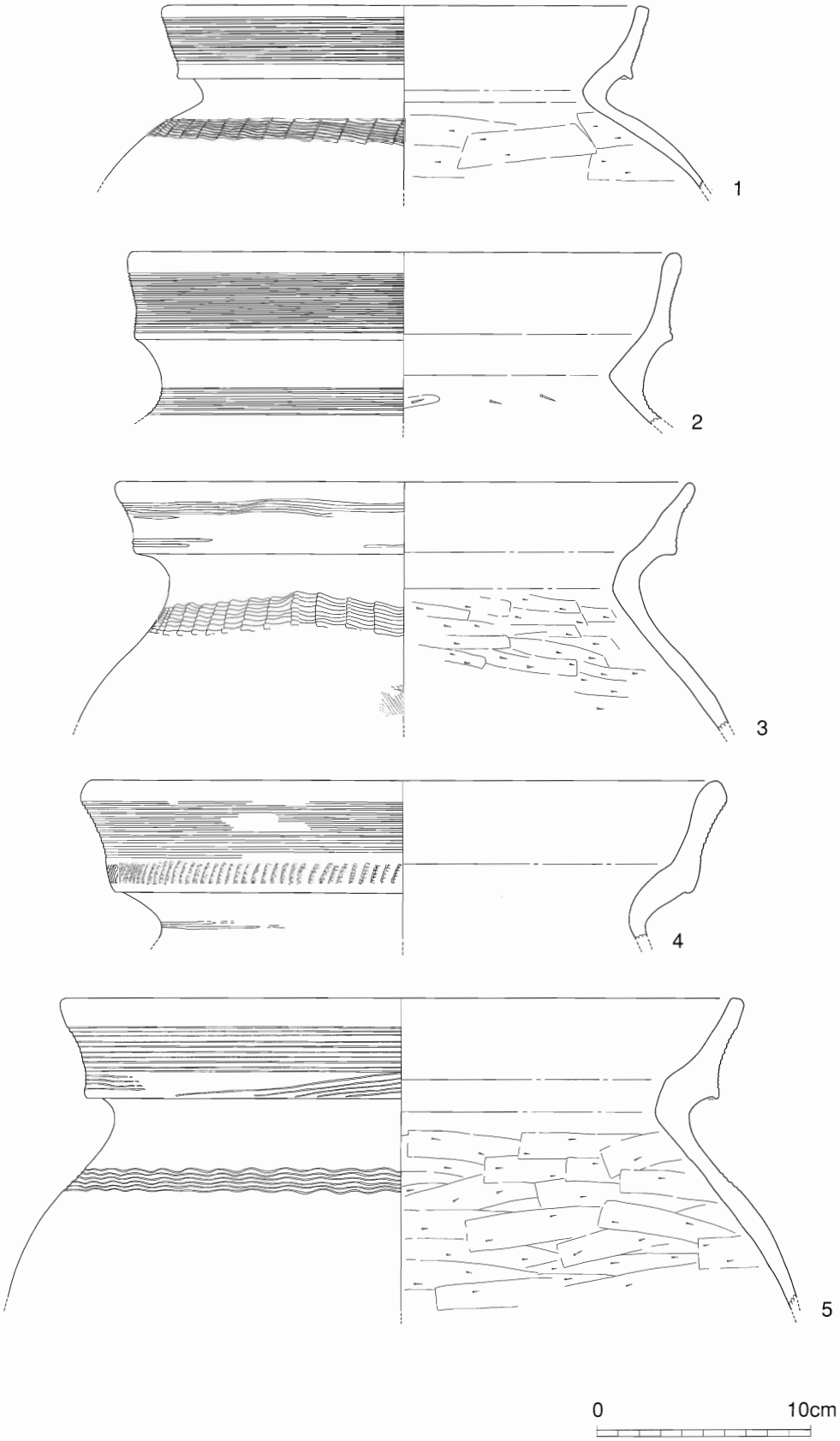
第22図　遺物実測図（９）



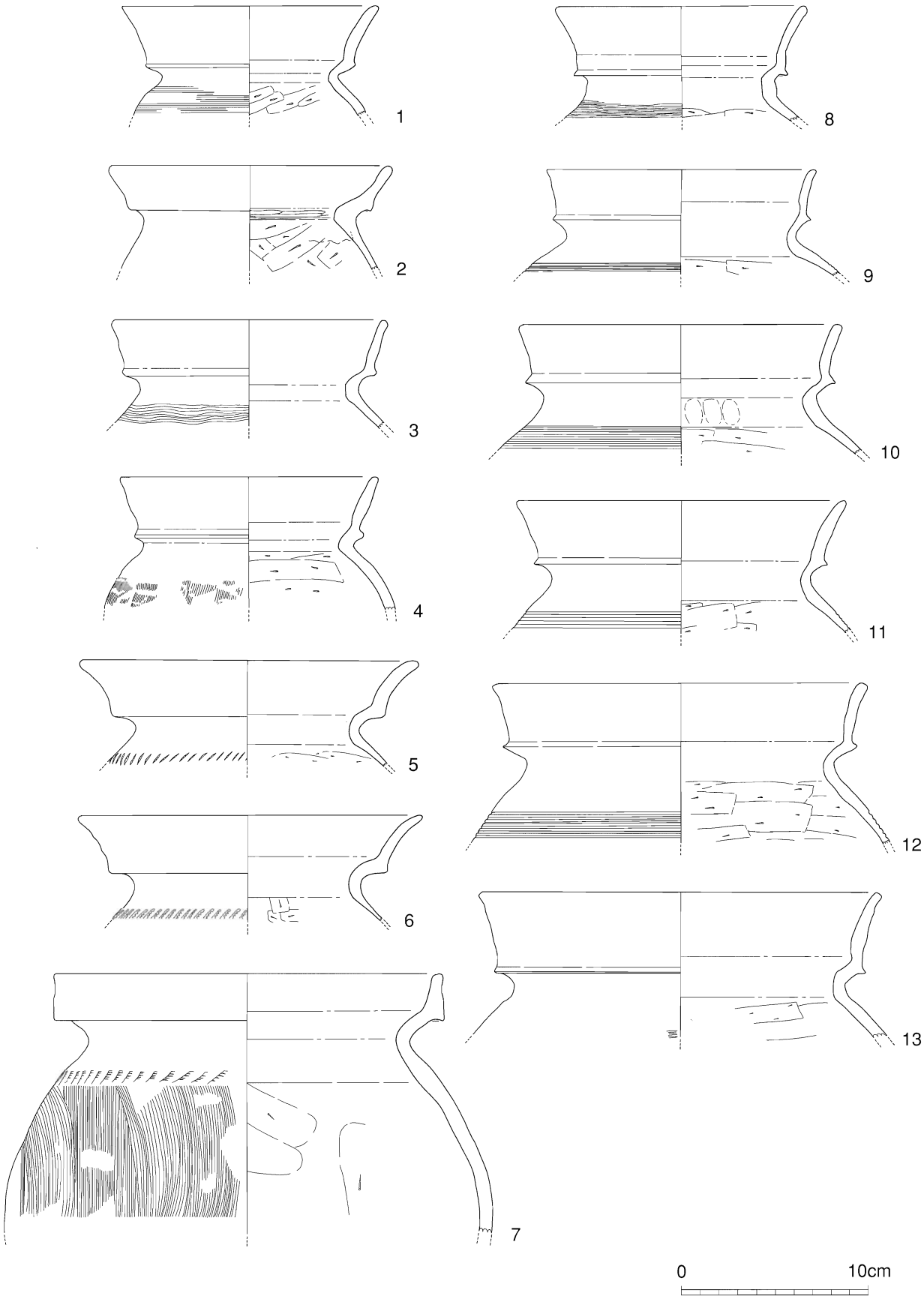
第23図　遺物実測図（10）



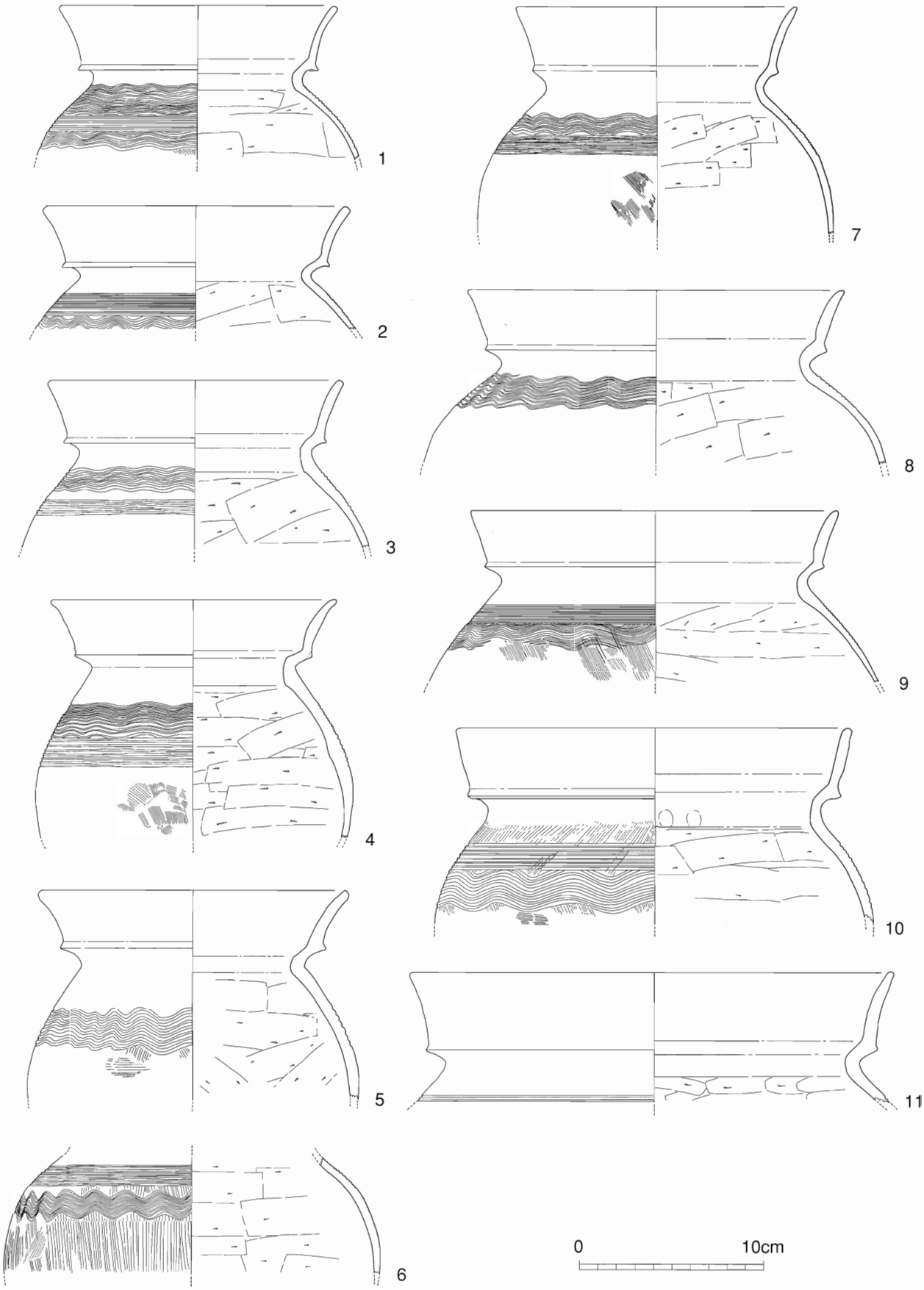
第24図　遺物実測図（11）



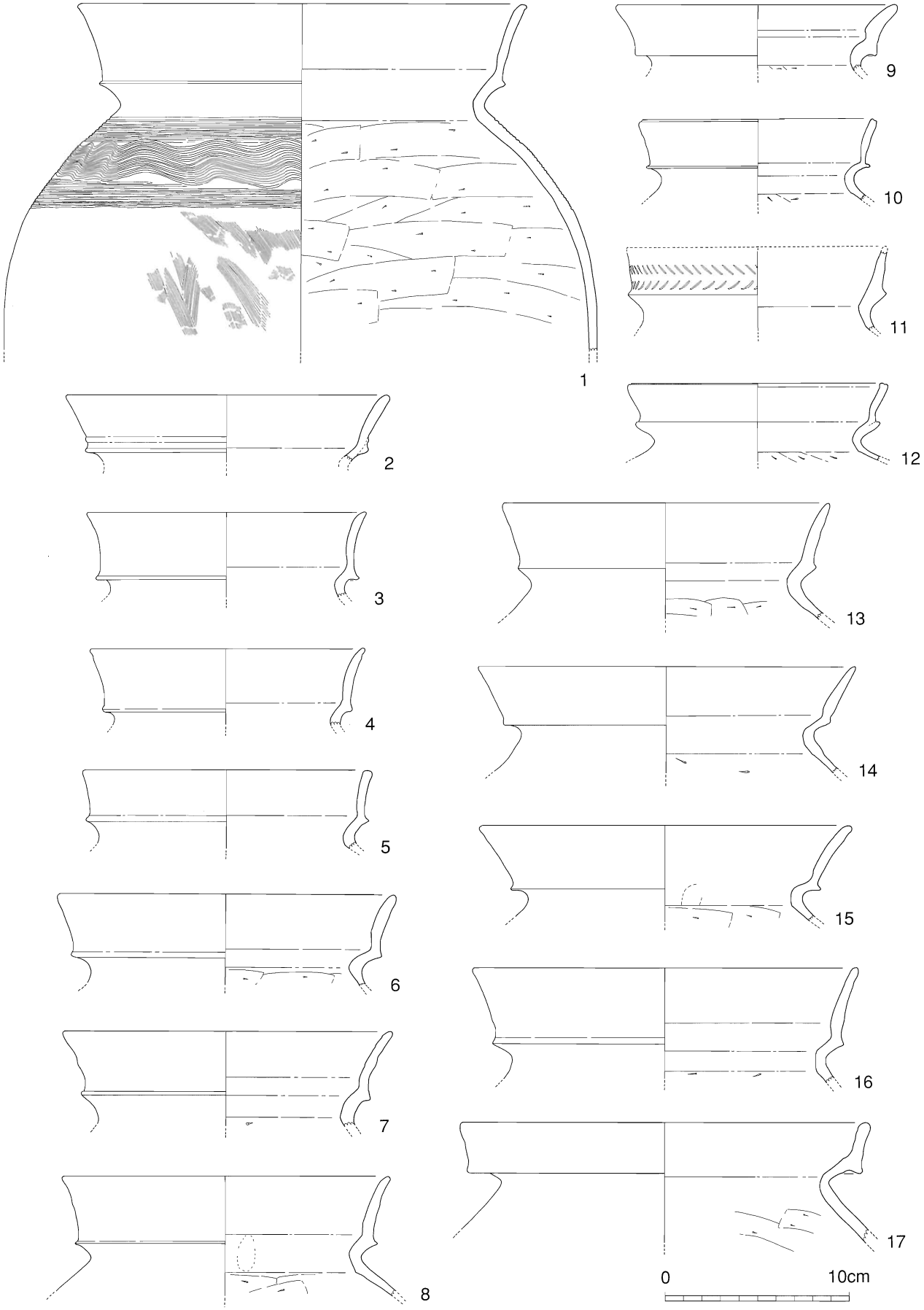
第25図　遺物実測図（12）



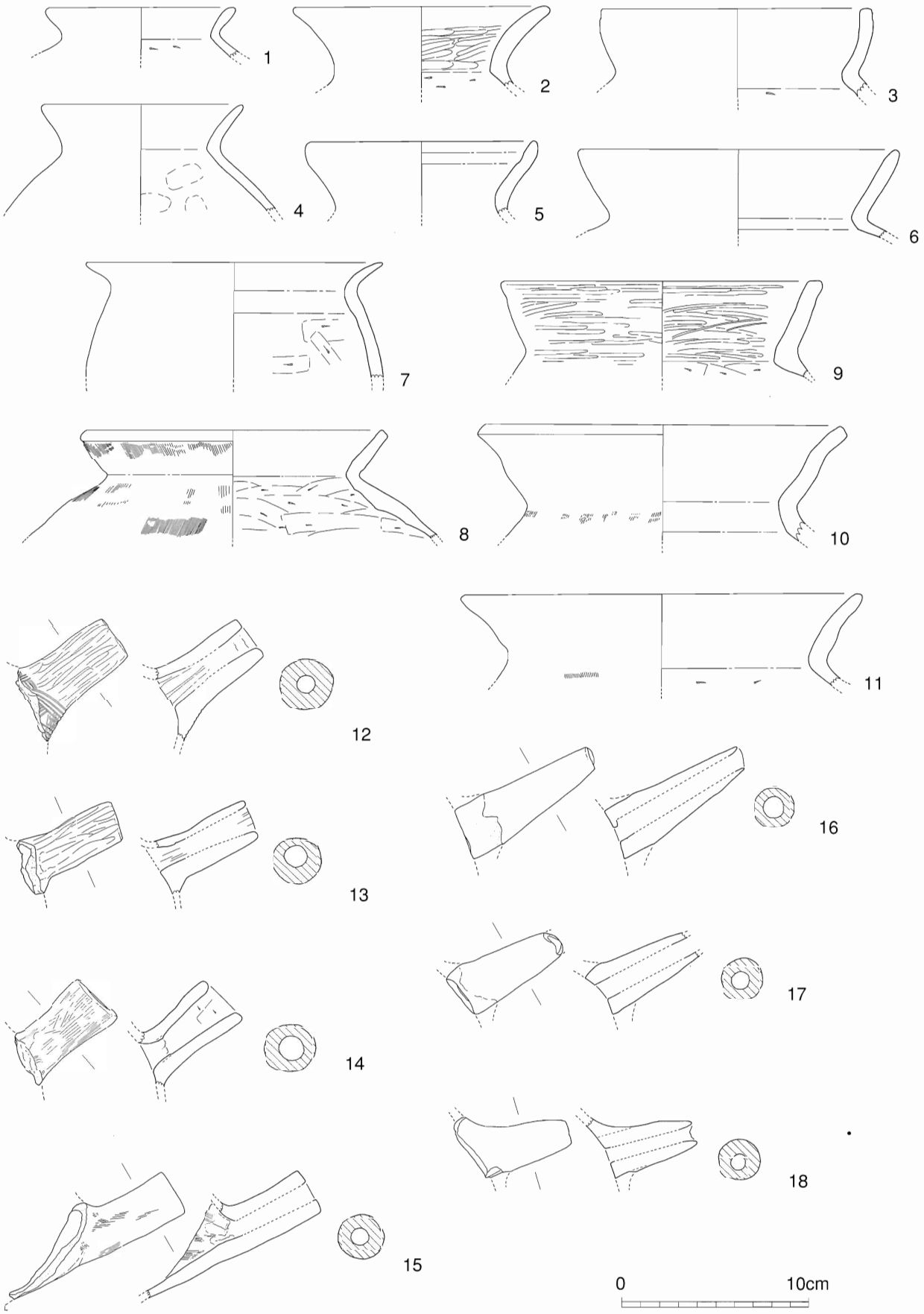
第26図　遺物実測図（13）



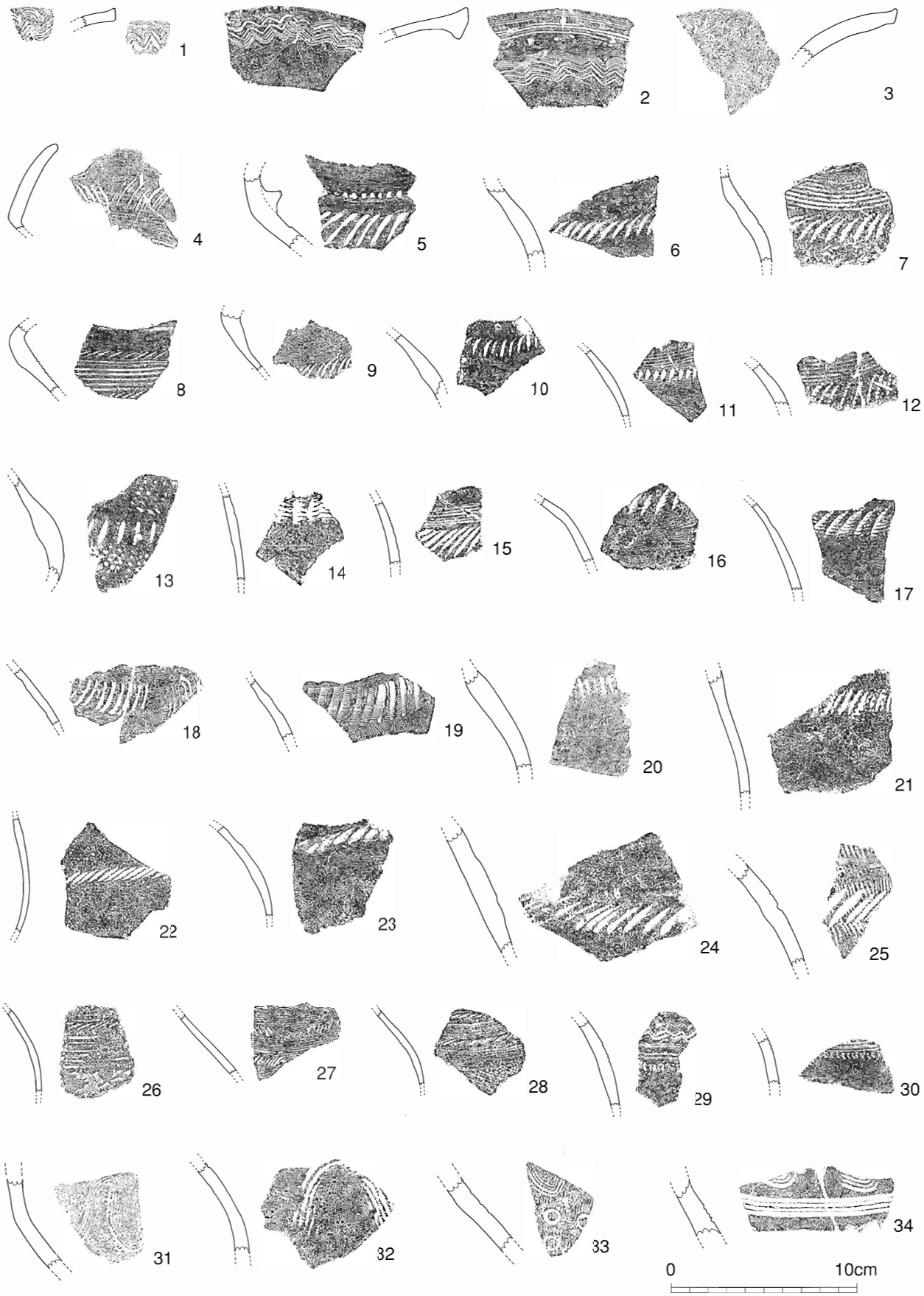
第27図　遺物実測図（14）



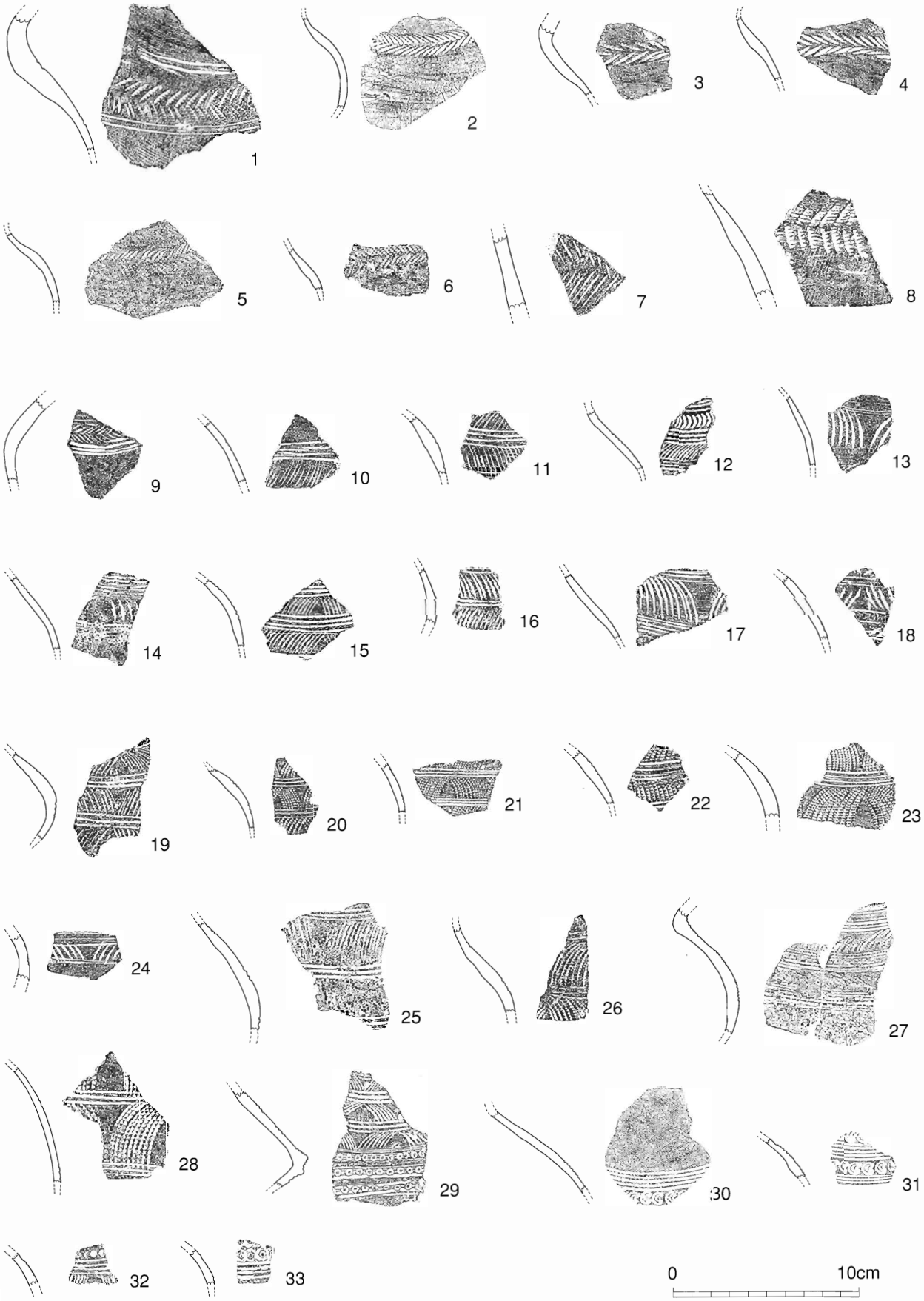
第28図　遺物実測図（15）



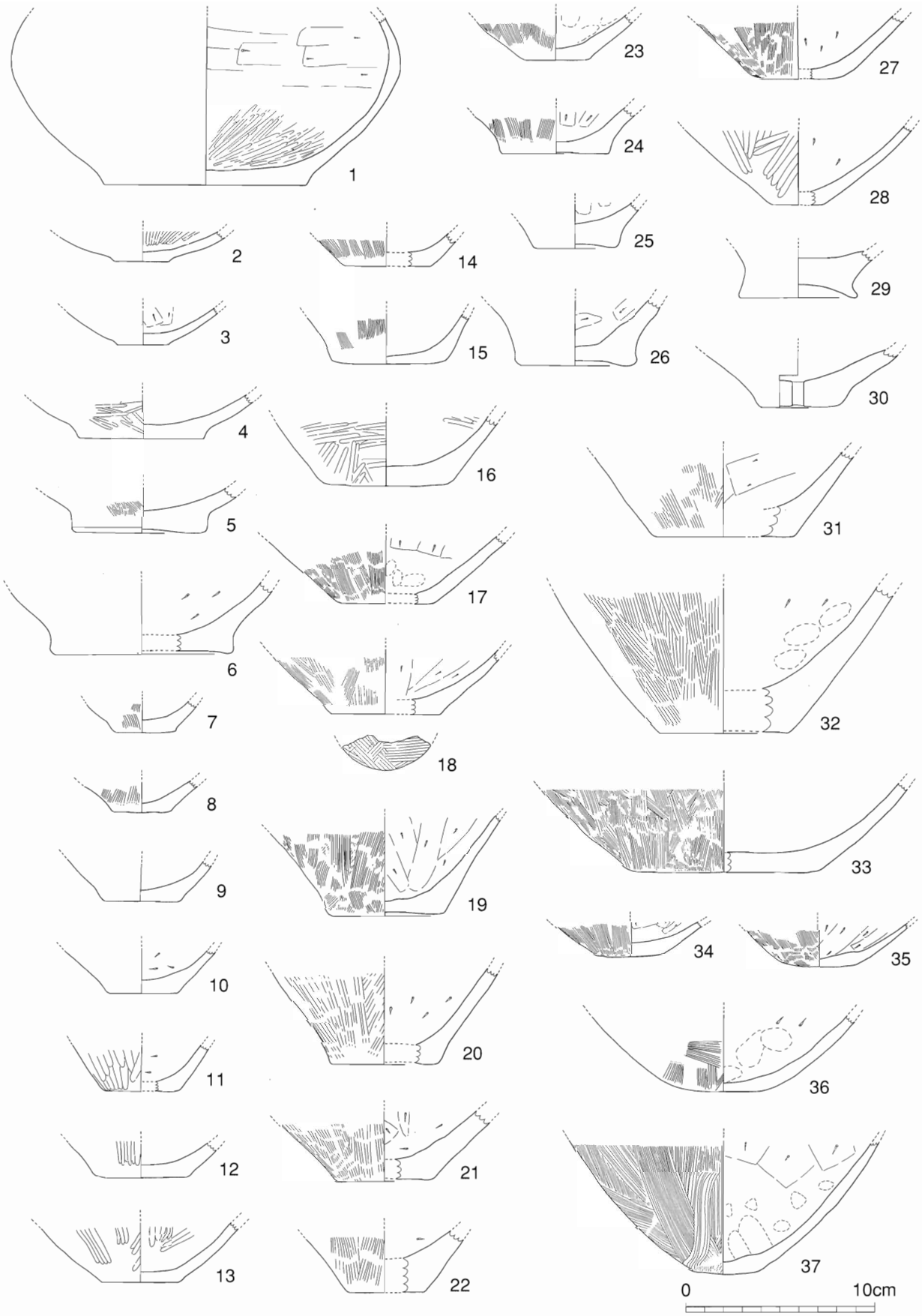
第29図　遺物実測図（16）



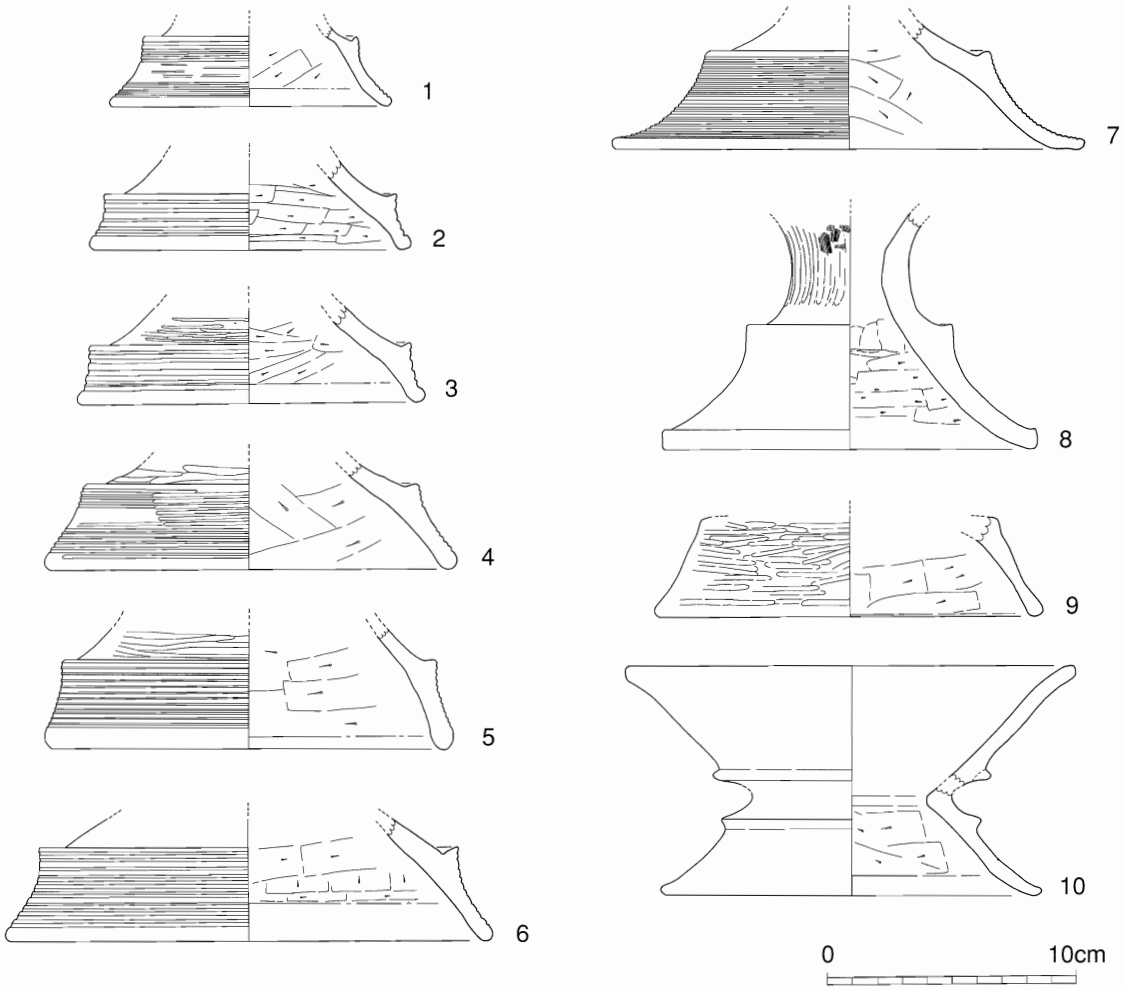
第30図　遺物実測図（17）



第31図　遺物実測図（18）



第32図　遺物実測図（19）

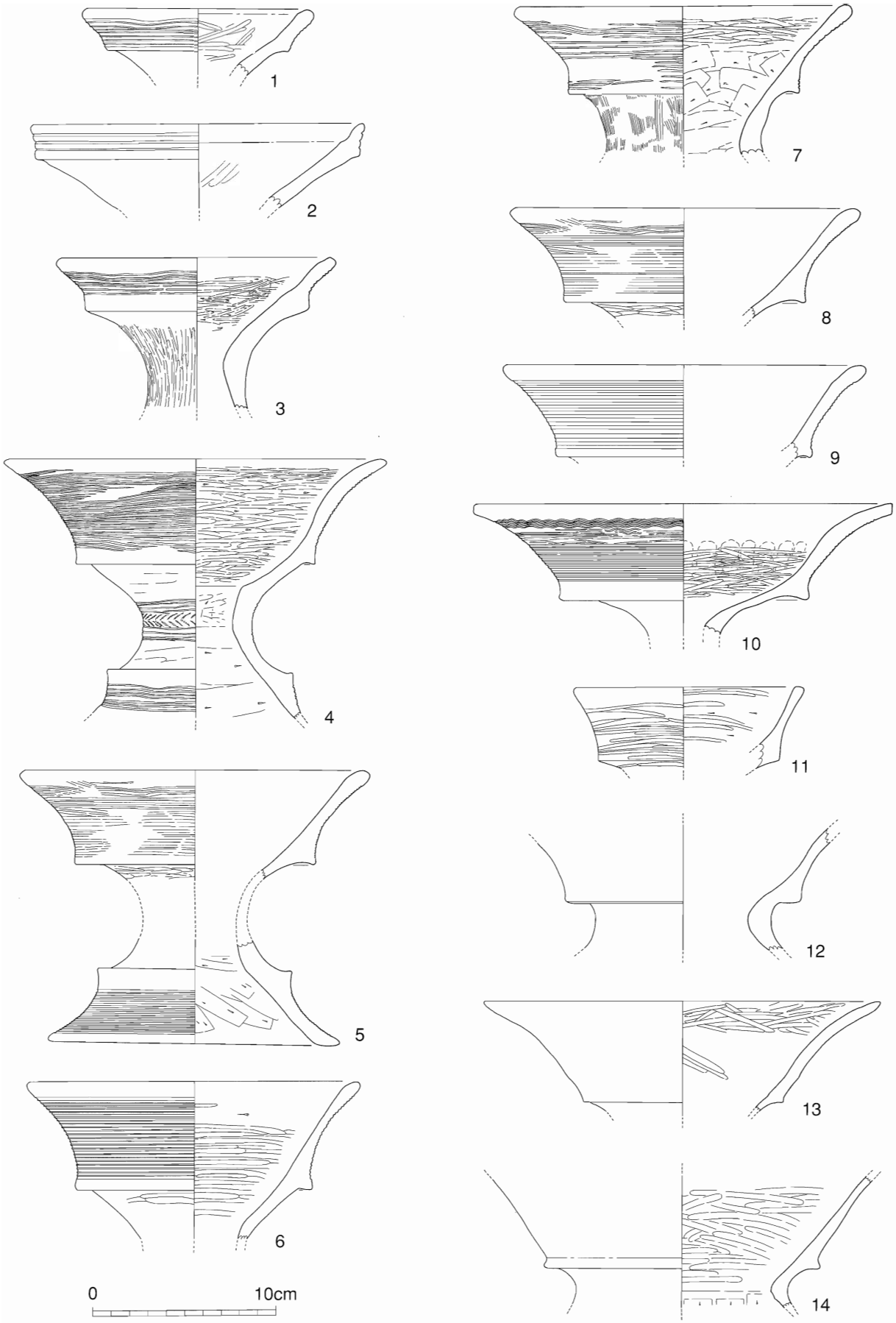


第34図　遺物実測図（21）

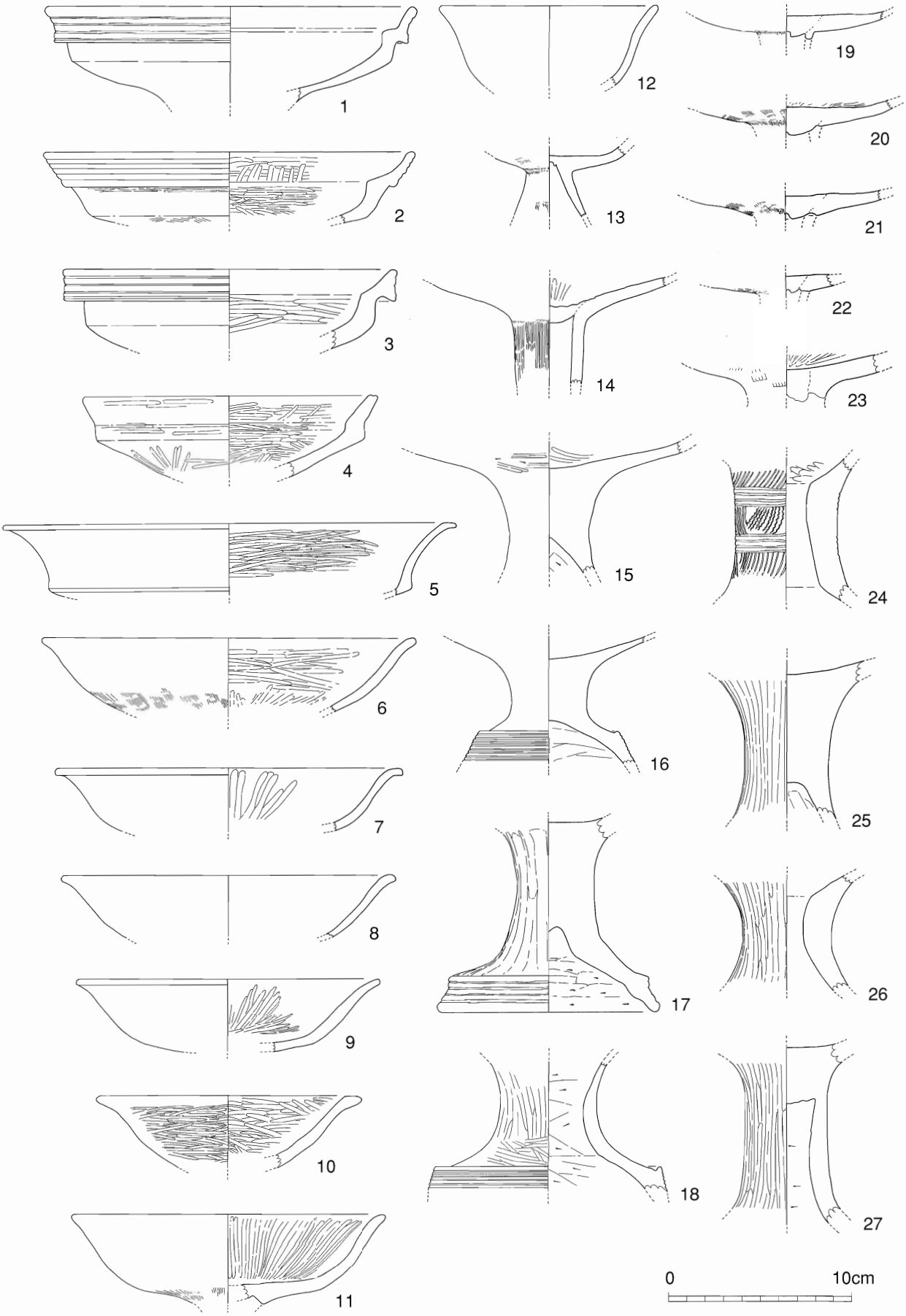
～40図２）が出土した。また、剝片も第40図３～９掲載以外にも多数が出土している。これらの石器群は前記した土器に先行するものと思われるが、正確な時期は不明である。

木製品は、主として旧河道群中のしがらみ状の場所から出土した。

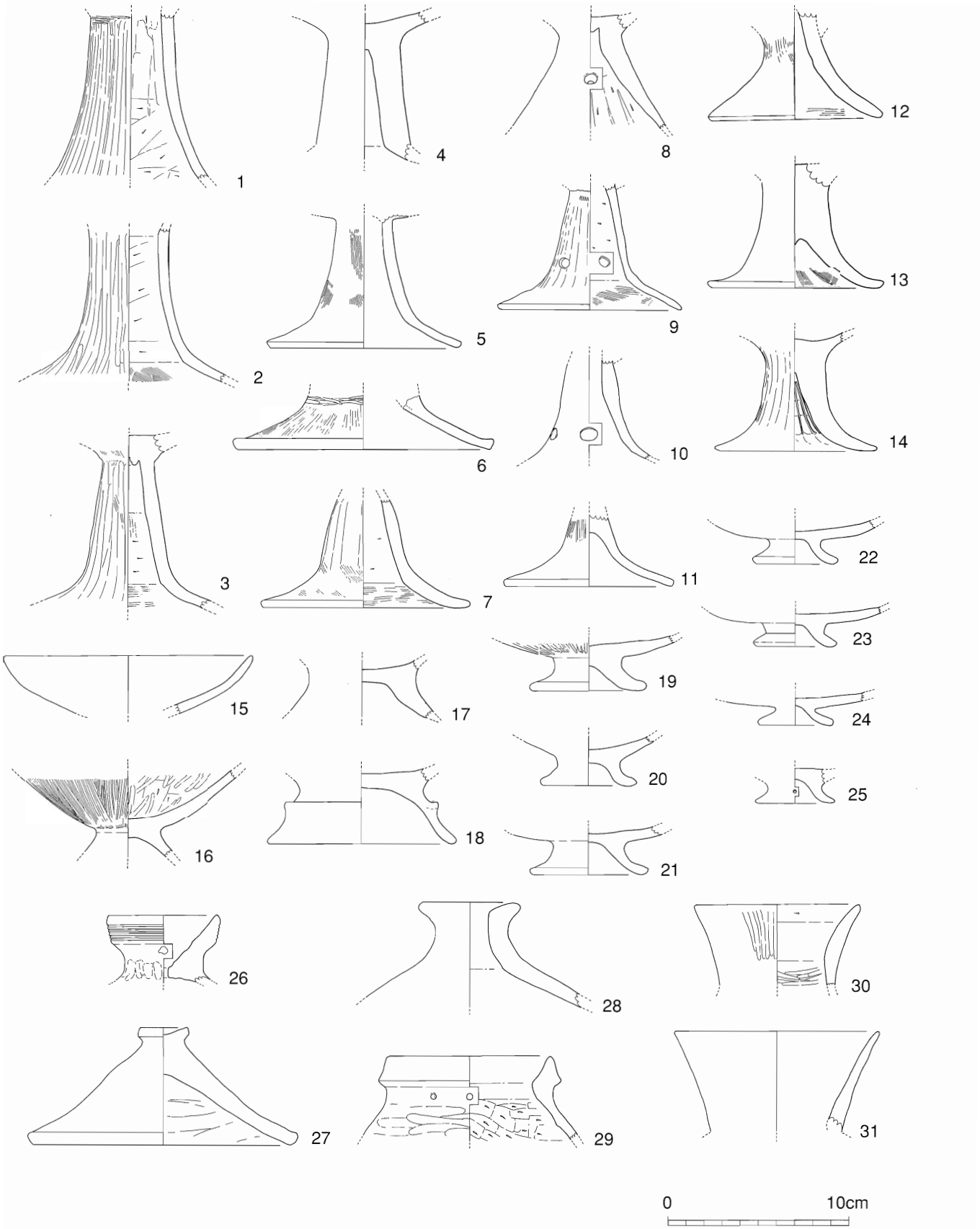
第41図１は椀の一部である。２は三角形の頭部と２本の棒が削り出されたものであるが、用途は不明である。３も用途不明品である。５、６は立ったまま出土した杭である。杭の先端は鉈状の刃物で加工されたと思われる。７は桜の皮を双子状に丸めたもので、桜皮の保管状況がよく分かる。４と第42図１、２は板材である。刳り込みや抉りが見られる。第42図３は大小の抉りを持つ材であるが、用途は不明である。杭以外の木製品については、弥生時代後期から古墳時代前期の土器群と共伴するものと思われる。



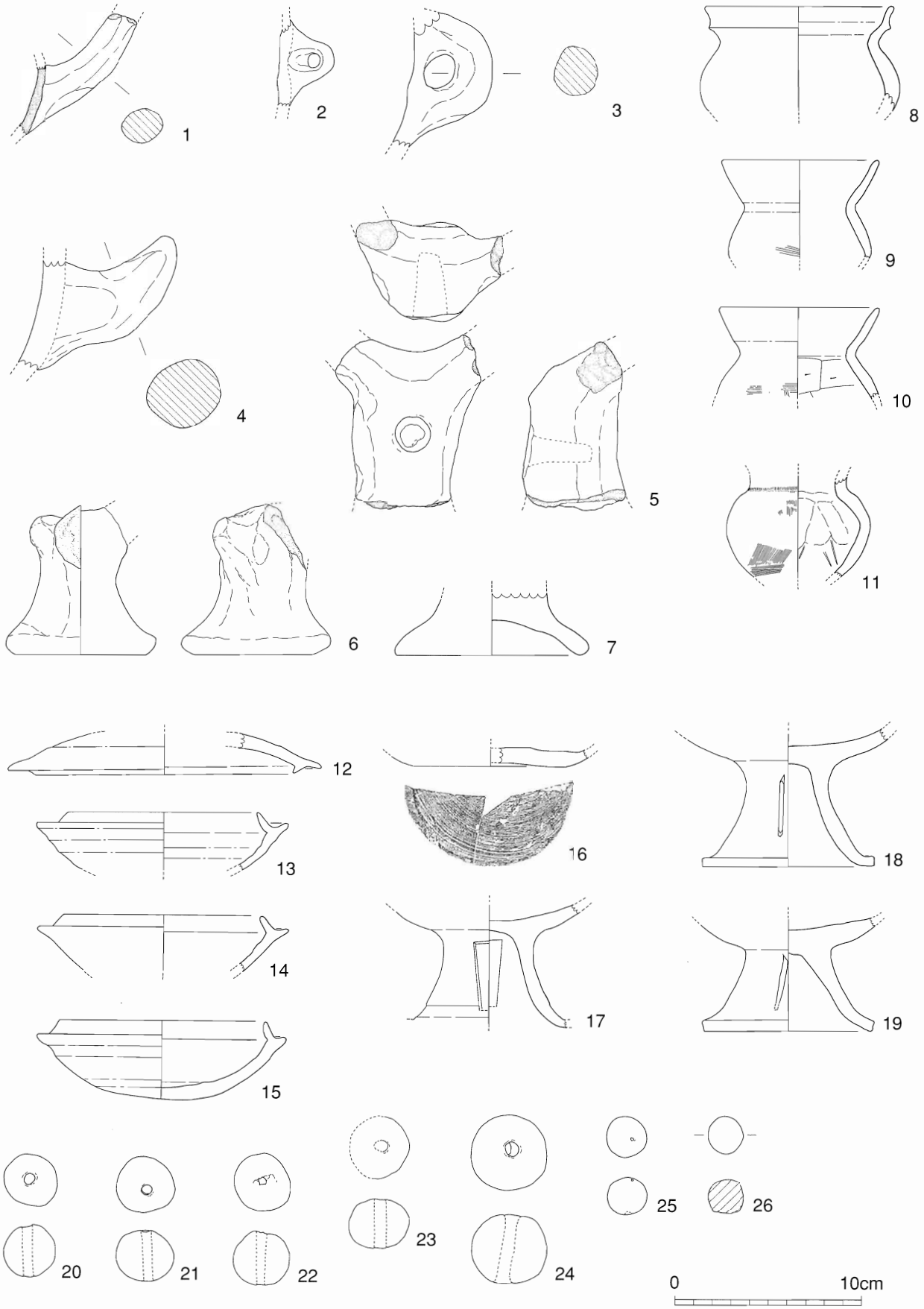
第33図　遺物実測図（20）



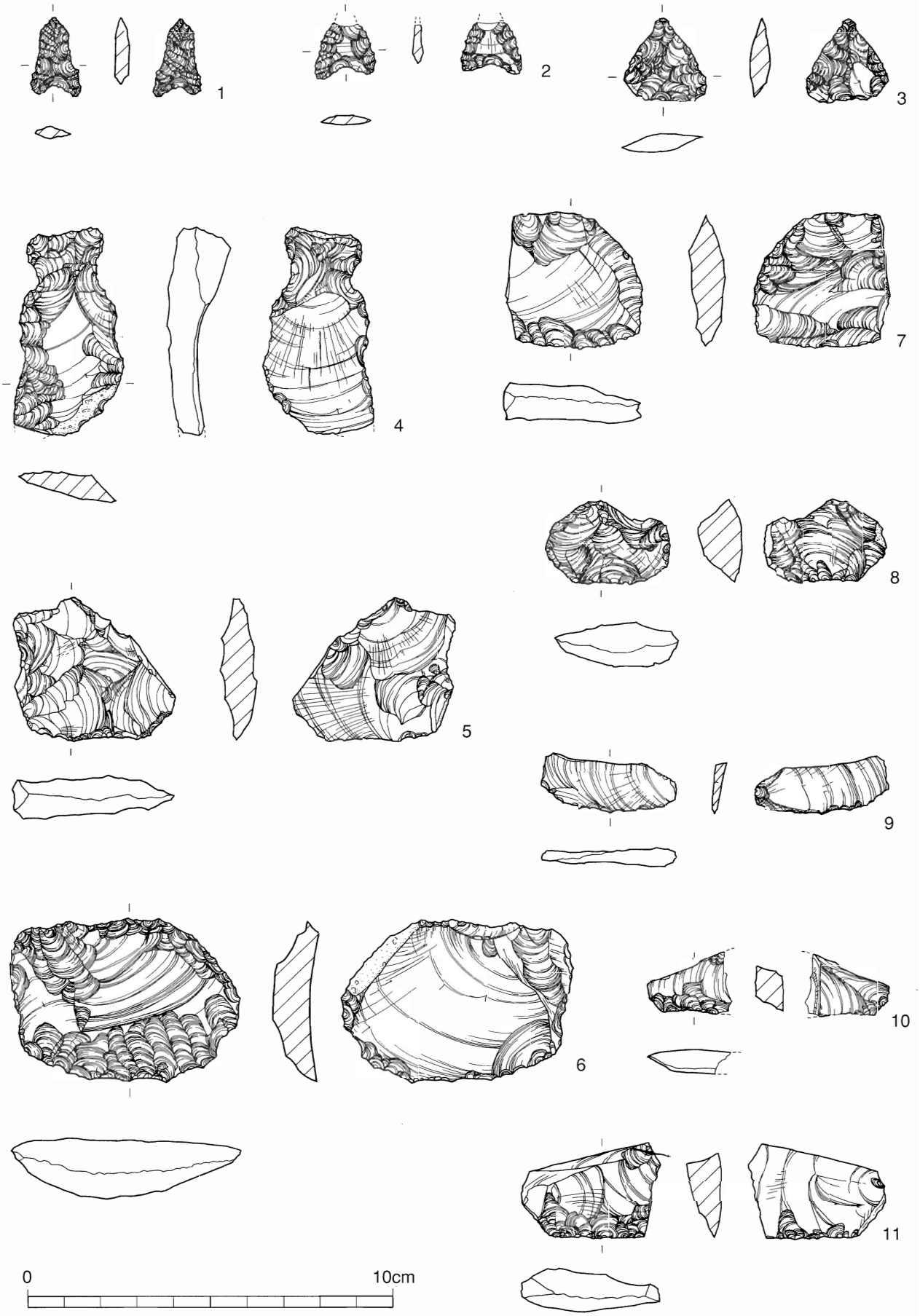
第35図　遺物実測図（22）



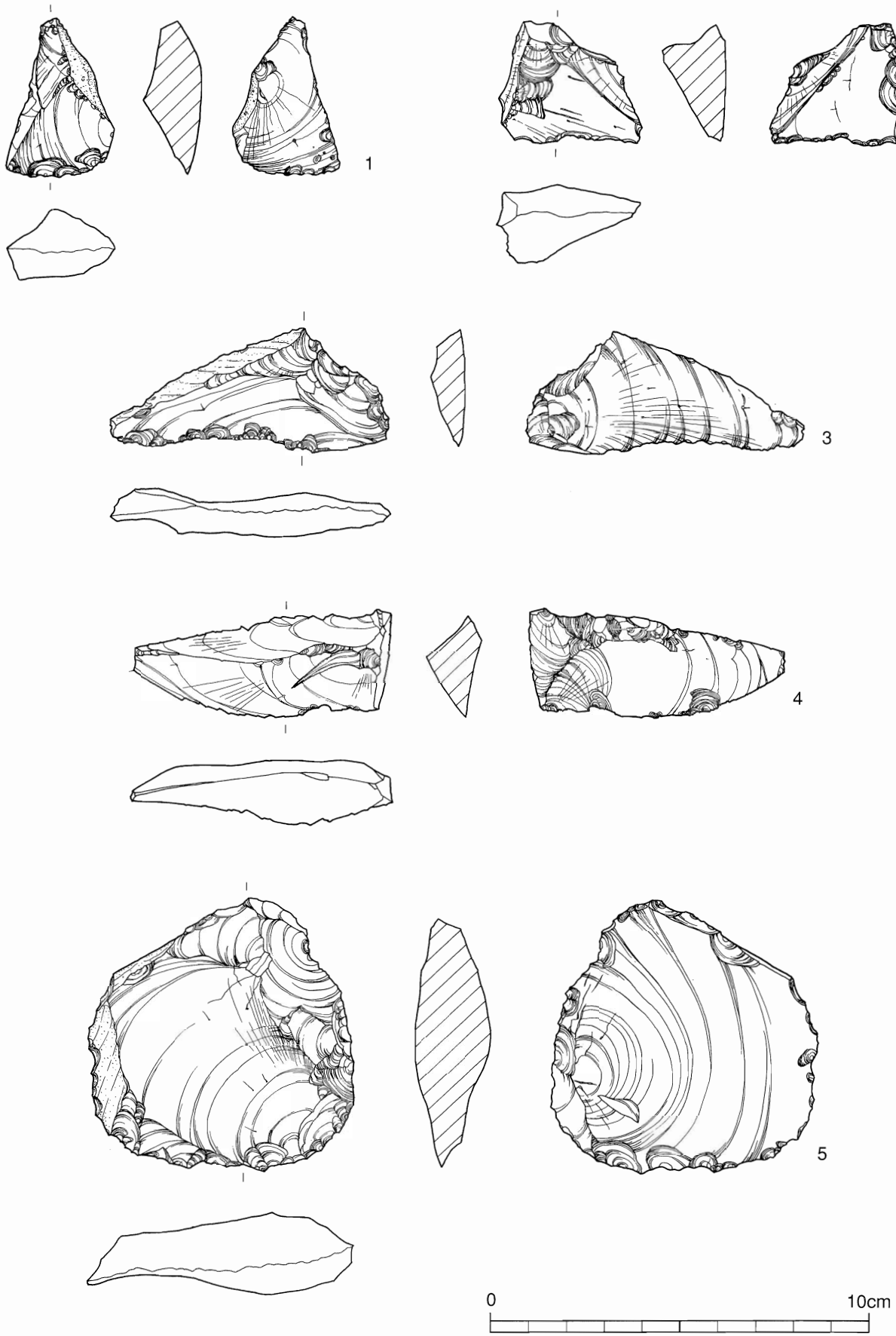
第36図　遺物実測図（23）



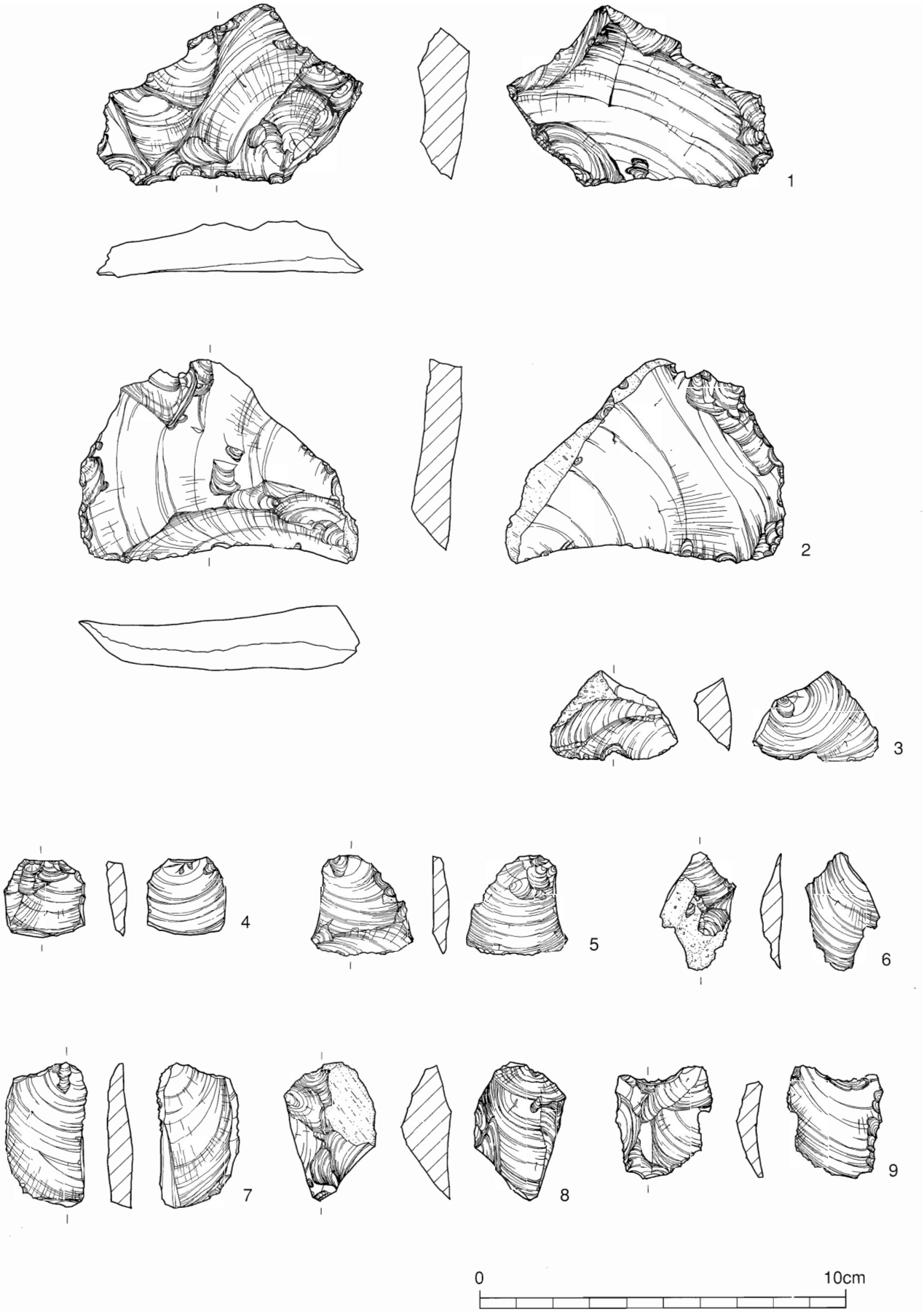
第37図　遺物実測図（24）



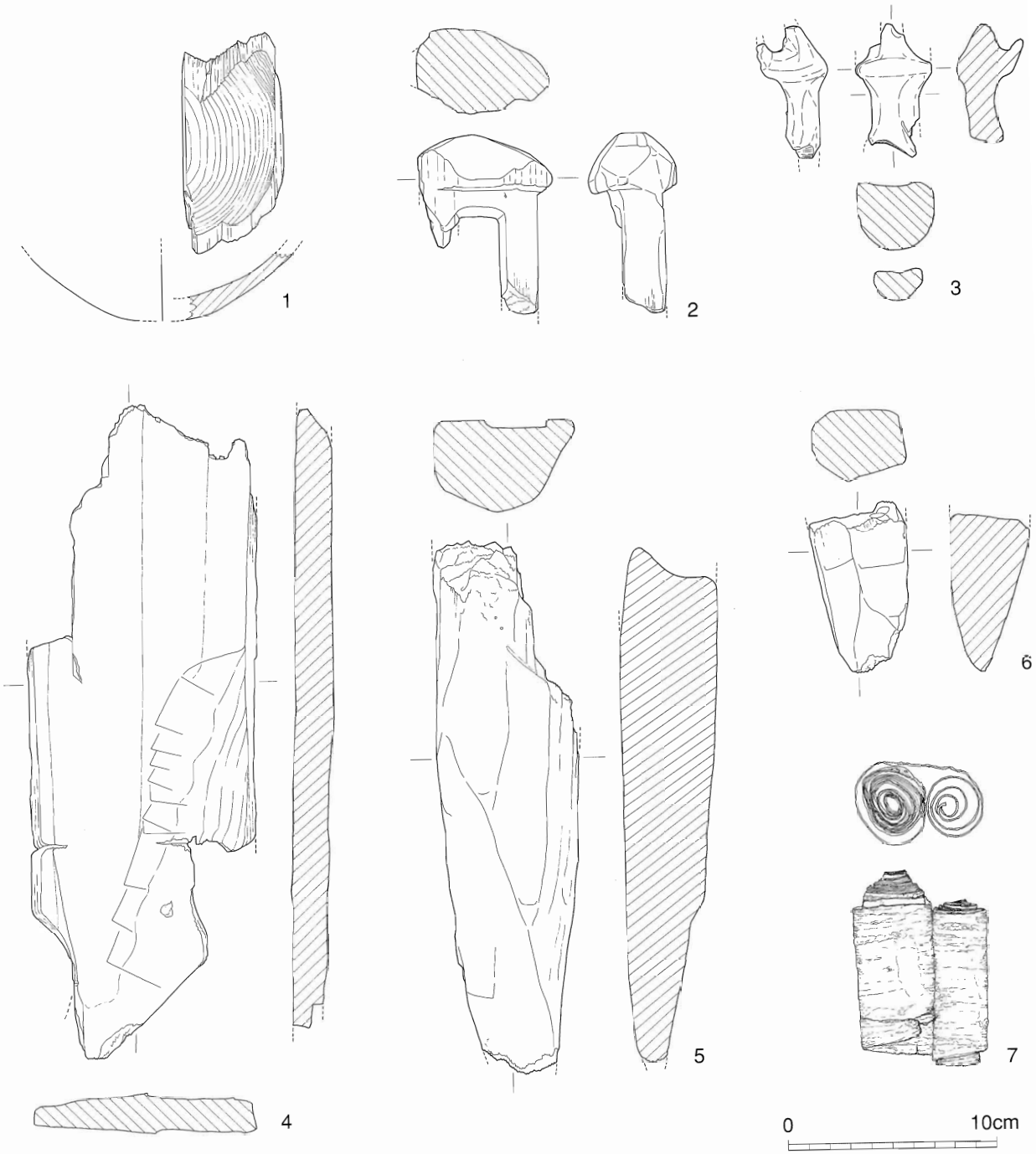
第38図　遺物実測図（25）



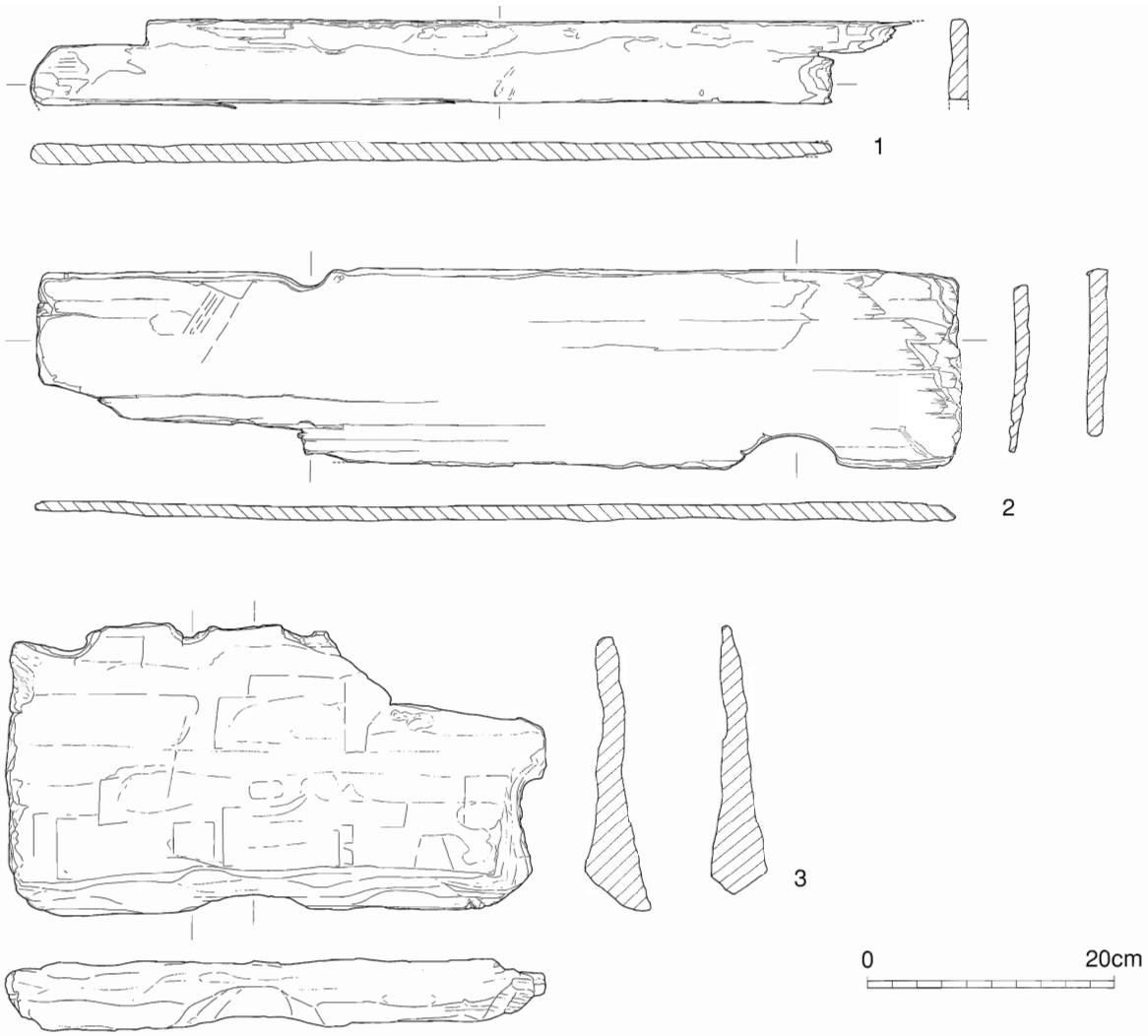
第39図　遺物実測図（26）



第40図　遺物実測図（27）



第41図　遺物実測図（28）



第42図　遺物実測図（29）

Ⅵ．結　　語

田中谷遺跡Ⅵ区は、谷の中流に位置する掘立柱建物と大量の遺物を包含する自然河道からなる遺跡であった。

遺構としては掘立柱建物３棟を確認した。時期は弥生時代後期で、周辺に多量の炭や土器片を含む浅い土坑や溝を伴っていたことから、住居であった可能性が高い。遺構は調査区の南西角からも検出されたため、遺跡は周辺のさらに広い範囲に広がっているものと推察される。本調査区のように狭い谷底の中央付近に営まれた集落はめずらしいが、すぐ近くには谷川が流れていて生活の便は良かったと思われる。しかし、遺構面が大小の礫に覆われて土器小片が散乱していた状況から、谷底という立地の悪さゆえ、最終的には谷全面を押し流すような大水にあって短期間で終焉をとげたものと考えられる。

谷の東端の自然河道は、あたかも１本の川のように検出されたが、セクションを詳細に観察すると大小の川の流れが多く切り合っている状況が確認できた。田中谷のような小さな谷を流れる川は、通常では幅狭で水量も少ないものであるが、大量の降雨があった後には一時的に地面がえぐられて幅の広い川となり流路も変化していくことは当然である。このような現象が降雨のたびに繰り返され、その痕跡が旧河道群のセクションとして現在に残っていると解釈してよいだろう。旧河道の堆積土中からは、比較的浅いレベルの層をはじめ深いレベルからも高い密度で土器片が出土した。また、しがらみ状の流木に混じって若干の木製品も出土した。土器の時期は弥生時代後期が中心で、調査区南端付近では古墳時代前期の土器も若干出土した。木製品もこの時期の遺物と判断してよいであろう。旧河道の切り合い関係は非常に複雑で、層序から土器や木製品の新旧を判断することはできなかったが、河道群の東端の浅いレベルに限定して須恵器片がわずかに出土したことから、残存する河道の中で一番新しい流路は調査区東端を流れており、その時期は古墳時代後期であったことがうかがえる。須恵器の出土場所は自然流路に限定され、谷中央付近からは出土していないことから、その時期の遺構は東側丘陵上にあり、そこの遺物が転落して河道に埋没したものと推測される。田中谷遺跡の本調査区では、東端を除いては土器の時期幅が限定できることから、ここで出土した土器は弥生後期から古墳時代前期にかけての土器のバリエーションとして良好な資料となり得るであろう。

以上のとおり、田中谷遺跡の本調査区では弥生時代後期から古墳時代前期の遺物と遺構および古墳時代後期の遺物が若干出土したが、その後の遺構、遺物は検出されなかった。遺構面や旧河道群の上には灰色粘質土の厚い堆積層が見られたことから、この地は古墳時代後期を過ぎると、一時人工的なため池の時期を経た後、現在のような豊富な谷水を利用した水田として利用されてきたものと推察される。田中谷遺跡は本調査区以外の場所についても、島根県埋蔵文化財調査センターが広く発掘調査を実施しており、現在その成果がまとめられつつある。田中谷という小さな谷の歴史的変遷が明らかにされる日は近いと思われる。

土　器　観　察　表

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
14図－ 1	弥生	壺	口径16.1(推) 頸径12.0(推)	0.5㎜以下の石英・長石を含む	良好	(外) 淡灰色～淡黄茶色 (内) 黒色 (断) 淡灰色	(外) 横ナデ、ナデ後多条凹線、ハケ目 (内) 横ナデ後荒いミガキ、ケズリ	E－3区砂礫層
14図－ 2	弥生	壺	口径15.6(推) 頸径 9.4(推)	1㎜以下の砂粒を含む	良好	(外) 淡茶灰色 (内) 淡茶灰色	(外) 横ナデ、ナデ後多条凹線　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
14図－ 3	弥生	壺	口径 (14.8) 頸径 (9.9)	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡褐色 (内) スス付着黒色、淡灰色	(外) ハケ後ヘラミガキ　(内) 横ナデヘラミガキ	F－3区砂礫層
14図－ 4	弥生	壺	口径 (20.5) 頸径 (13.2)	2㎜前後の石英、長石を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ、ハケ目　(内) ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
14図－ 5	弥生	壺	口径 (21.0) 頸径 (14.6)	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
14図－ 6	弥生	壺	口径 (19.9) 頸径 (13.2)	2㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) ハケ目　(内) ハケ目、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
14図－ 7	弥生	壺	口径 (11.4) 頸径 (7.7)	1㎜前後の石英粒を多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色 (断) 淡褐色	(外) ナデ後多条凹線、ナデ一部ハケ目、ハケ目　(内) ナデ、ハケ目後ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
14図－ 8	弥生	壺	頸径 (8.2)	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着黒色 (内) 淡橙灰色	(外) 横ナデ　(内) ヘラミガキ	B－3区砂礫層
14図－ 9	弥生	壺	口径 (17.2) 頸径 (12.0)	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙褐色	(外) 横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
14図－10	弥生	壺	頸径 (7.2)	密2～3㎜の砂粒を含む	良好	(外) 黒色 (内) 暗灰褐色	(外) 凹線、ナデ、ミガキ　(内) ナデ、ケズリ	D－3区砂礫層
14図－11	弥生	壺	口径 (14.8) 頸径 (11.6)	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙灰色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
14図－12	弥生	壺	口径 (11.0)	1.5㎜程度の石英を多く含む	良好	(外、内) 一部明灰色～浅黄 (断) 浅黄・灰褐色・浅黄の三層	(外) 擬凹線文その他風化で不明　(内) 風化で不明	E－2区遺跡検出面
14図－13	弥生	壺	口径 (16.5) 頸径 (11.9)	1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 横ナデ後ハケ　(内) 横ナデ後ハケ目	E－3区砂礫層
14図－14	弥生	壺	口径 (22.2) 頸径 (16.5)	1～2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙白褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ヘラミガキ、ナデ	B－3区砂礫層
14図－15	弥生	壺	口径 (21.0) 頸径 (16.0)	1㎜程度の長石、石英を多く含む	良好	(外) 灰白褐色 (内) 淡灰黄褐色 (断) 灰白褐色	(外) ナデ後多条凹線、ナデ　(内) ナデ (風化が著しい)	E－2区遺跡検出面
14図－16	弥生	壺	口径 (17.3) 頸径 (10.5)	1㎜以下の長石、石英を若干含む	良好	(外) 褐色一部スス付着 (内) 褐色スス付着少々あり (断) 黒灰色	(外) 横ナデ後多条凹線、ハケ後横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、従方向の指ナデ痕	C－3区砂礫層
15図－ 1	弥生	壺	口径 (12.6) 頸径 (9.0)	1㎜強の石英、長石を多く含む	良好	(外、内) 赤橙色 (断) 黒色	(外) 横ナデ後擬凹線文、横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ一部ミガキ、タテナデ、ケズリ後軽くナデ	C－3区砂礫層
15図－ 2	弥生	壺	口径 14.6 頸径 9.7	1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡黄白色 (内) 淡灰褐色	(外) 磨耗が激しい擬凹線文　(内) 横ナデ	C－3区砂礫層
15図－ 3	弥生	壺	口径 15.6 頸径 8.1	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 擬凹線、ナデ後ハケ目　(内) 横ナデ、不定方向ナデ	E－4区砂礫層
15図－ 4	弥生	壺	口径 16.4 頸径 10.4	0.5～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色一部スス付着 (内) 淡橙褐色	(外) 横ナデ　(内) ヘラミガキ、ケズリ、横ナデ	C－3区砂礫層
15図－ 5	土師器	壺	口径 (13.5)	1～2㎜程の長石、石英を含む	良好	(外、内) 淡橙色 (断) 灰白色	(外) 口縁部と頸部に連続刺突文他風化により不明	E－2区包含層上面
15図－ 6	土師器	壺	口径 16.4 頸径 12.1	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外、内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ヘラケズリ	G－4区砂礫層
15図－ 7	弥生	壺	口径 34.3	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外、内) 淡茶褐色	(外、内) 風化により調整不明	E－3区砂礫層
15図－ 8	弥生	壺		1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	(外、内、断) 灰白色	(外) ハケ目、多条凹線　(内) ハケ目、指ナデ、ケズリ	F－4区砂礫層
15図－ 9	弥生	壺		密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒スス付着 (内) 淡茶褐色	(外) ミガキ、ハケ後ミガキ、ミガキ　(内) ヘラミガキ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
15図－10	弥生	壺		密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒～淡茶褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ミガキ、ハケ目　(内) ヘラケズリ	E杭ライン畦
15図－11	弥生	壺		1～3㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着黒色、淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) ハケ目　(内) ヘラケズリ	E－3区砂礫層
16図－ 1	弥生	甕	口径 (11.5) 頸径 (9.4)	0.5㎜以下の長石、石英を多く含む	良好	(外) 灰黄褐色 (内) 灰黄褐色	(外) ナデ後擬凹線文、ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリと思われるが風化により不明	E杭畦
16図－ 2	弥生	甕	口径 (12.4) 頸径 (9.7)	密2～3㎜の白石砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 暗灰茶色	(外) 口縁部凹線文、頸部ナデ　(内) 口縁部ナデ、胴部ケズリ	G－3区砂礫層
16図－ 3	弥生	甕	口径 (10.2) 頸径 (9.4)	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	(外) 口縁部擬凹線文 (風化により不明)、頸部ナデ　(内) 口縁部ナデ、頸部ケズリ	E－2区遺構面

(法量欄の ( ) は復原数値を表す)

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
16図－ 4	弥生	甕	口径（11.4） 頸径（ 9.5）	石英、長石微粒を密に含む	良	（外、内、断）淡灰褐色	（外、内）風化により調整不明	E杭畦
16図－ 5	弥生	甕	口径　12.7 頸径　10.0	1～2㎜の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡茶褐色	（外）擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ハケ目	C－3区砂礫層
16図－ 6	弥生	甕	口径（13.2） 頸径（11.1）	1㎜弱の石英、長石粒を多く含む	良好	（外、内、断）淡褐色～黒色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、横ナデ後ミガキ、ナデ一部ミガキ、ケズリ	B－3区砂礫層
16図－ 7	弥生	甕	口径（13.1）	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	暗灰褐色	（外）口縁部擬凹線文（風化のため一部不明） （内）口縁部ナデ	G－2区遺構面
16図－ 8	弥生	甕	口径（15.3） 頸径（11.4）	長石、石英微粒を少々含む	良好	（外）暗褐色 （内）黒褐色 （断）暗褐色	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ、ハケ後ナデ　（内）一種のミガキか工具痕顕著、横ナデ、ケズリ	D－3区砂礫層
16図－ 9	弥生	甕	口径　15.2 頸径　12.1	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 一部スス付着の黒色、淡灰褐色 (内) 淡灰褐色 (断) 灰色	（外）横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
16図－10	弥生	甕	口径（15.6） 頸径（13.0）	長石、石英微粒を多く含む	良好	（外）淡褐色、スス付着著しい （内、断）淡褐色	（外）ナデ後ヘラ描凹線、横ナデ、ハケ目 （内）横ナデ、ミガキ、ケズリ後ナデ	G－3区砂礫層
16図－11	弥生	甕	口径（16.8） 頸径（13.8）	石英、長石微粒をわずかに含む	良好	（外）黒色 （内、断）淡褐色～暗褐色	（外）横ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ、一部ハケ目、ケズリ	G－3区砂礫層
16図－12	弥生	甕	口径（17.8） 頸径（12.8）	1～2㎜石英、長石をやや多く含む	良好	(外) 淡黄褐色、一部スス付着 (内) 黄褐色 (断) 淡茶褐色	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
16図－13	弥生	甕	口径（18.2） 頸径（14.6）	1㎜前後の石英、長石粒を多く含む	良	（外）淡褐色、スス付着著しい （内）淡褐色	（外）横ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
16図－14	弥生	甕	口径（17.6） 頸径（14.2）	1～1.5㎜程度の長石、石英を含む	良好	（外、内、断）淡茶灰色	（外）横ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）横ナデ、ミガキ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
16図－15	弥生	甕	口径（17.0） 頸径（12.0）	1㎜程度の長石、石英を少々含む	良好	（外）淡橙灰色 （内）淡橙白灰色 （断）濃灰色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ、一部ナデ後ミガキ、ケズリ	C－3区砂礫層
16図－16	弥生	甕	口径（18.1） 頸径（12.8）	1～1.5㎜の長石、石英を含む		（外、内）一部スス付着、黄茶灰色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ、ハケ目　（内）横ナデ、ナデ後ミガキ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
16図－17	弥生	甕	口径（15.2） 頸径（10.5）	1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	（外）淡黒褐色一部スス付着 （内）淡黒褐色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ ヘラケズリ	包含層
16図－18	弥生	甕	口径（18.8） 頸径（16.0）	石英、長石微粒を多く含む	良好	（外、内、断）黒灰色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	G－3区砂礫層
16図－19	弥生	甕	口径（19.8） 頸径（15.1）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	(外) 橙灰色一部灰色 (内) 橙灰色～橙褐色一部灰色 (断) 灰色	（外）横ナデ、ナデ後多条凹線　（内）ナデ後ミガキ、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
16図－20	弥生	甕	口径（20.4） 頸径（16.8）	0.5㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	（外、内）灰褐色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ、ハケ目　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－2区砂礫層
16図－21	弥生	甕	口径（22.6） 頸径（20.2）	密1～2㎜前後の白色砂粒を含む	良好	（外）暗褐色 （内）褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	E－3区砂礫層
16図－22	弥生	甕	口径（24.5） 頸径（21.4）	1～2㎜の石英、長石をわずかに含む	良好	（外、内）黄褐色 （断）淡黄褐色	（外）ナデ後ヘラ描凹線、ナデ　（内）横ナデ、ヘラミガキ、ケズリ	E－3区砂礫層
16図－23	弥生	甕	口径（26.8） 頸径（24.0）	1～2㎜の長石をやや多く含む	良好	（外）灰褐色 （内）暗茶褐色 （断）淡灰色	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	B－3区砂礫層
16図－24	弥生	甕	口径（37.4）	1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	（外）橙色 （内、断）淡灰褐色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ	E－2区遺構検出面
17図－ 1	弥生	甕	口径（13.2） 頸径（11.1）	密2～3㎜の白石砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）明褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）口縁部ナデ、胴部ミガキ	包含層
17図－ 2	弥生	甕	口径（13.9） 頸径（10.7）	0.5㎜前後の石英少しと長石を多く含む	良好	（外）黄褐色 （内）黄褐色	（外）ナデ後擬凹線文（風化が著しい）、横ナデ （内）横ナデ、ヘラケズリ	E－2区遺構面
17図－ 3	弥生	甕	口径（13.4） 頸径（ 9.4）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外) 大部分がスス付着の黒色 (内) 茶灰色 (断) 茶灰色	（外）横ナデ、ケズリ　（内）ナデ後多条凹線、ナデ後ハケ目	E－3区砂礫層
17図－ 4	弥生	甕	口径（14.2） 頸径（10.7）	石英、長石粒を少々含む	良好	（外）淡褐色 （内）淡褐色 （断）淡褐色	（外）横ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ後ナデ	F－3区砂礫層
17図－ 5	弥生	甕	口径（14.7） 頸径（11.5）	1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	（外）淡橙褐色 （内）淡灰黄褐色	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリと思われるが風化の為不明	E－2区遺構検出面
17図－ 6	弥生	甕	口径（15.4） 頸径（11.6）	0.5㎜以下の長石、石英を若干含む	良好	(外) 淡灰褐色一部スス付着黒色 (内) 淡灰褐色一部スス付着	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ、ヘラケズリ （内）横ナデ、ヘラケズリ	G－3区砂礫層
17図－ 7	弥生	甕	口径（16.4） 頸径（11.5）	1～2㎜の石英、長石をやや多く含む	良好	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色一部スス付着 (断) 淡黄褐色	（外）ナデ後擬凹線文（風化が著しい）、ナデ （内）横ナデ、ケズリ	包含層
17図－ 8	弥生	甕	口径（15.2） 頸径（13.0）	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	（外）淡橙茶色 （内）淡茶褐色		B－3区砂礫層
17図－ 9	弥生	甕	口径（17.0） 頸径（13.8）	密2～3㎜前後の白色砂粒を含む	良好	褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ、胴部浪状文 （内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	F－4区砂礫層
17図－10	弥生	甕	口径（17.8） 頸径（14.7）	長石、石英微粒を多く含む	良好	(外) 黒褐色～淡褐色 (内) 明褐色 (断) 淡褐色	（外）ナデ後擬凹線２段階　（内）横ナデ、ヘラ先の押当、ナデ後ミガキ、ナデ	E－3区砂礫層
17図－11	弥生	甕	口径（38.0） 頸径（26.3）	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	（外）淡橙褐色 （内）淡灰褐色	（外）ナデ　（内）ナデ	E－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　土	焼成	色　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
17図－12	弥生	甕	口径（26.3） 頸径（22.1）	2～3㎜の石英、長石をやや多く含む	良好	（外）黄白色 （内）黄褐色 （断）黄白色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
17図－13	弥生	甕	口径（26.4） 頸径（22.7）	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	（外）淡灰色 （内）淡橙褐色	（外）ハケ後横ナデ　（内）ナデ	F－3区砂礫層
17図－14	弥生	甕	口径（26.1） 頸径（21.5）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	（外）淡茶灰色 （内）淡茶灰色 （断）淡茶灰色	（外）横ナデ、ナデ後擬凹線文　（内）横ナデ、ヘラケズリ（ヘラ描の線あり）	D－3区砂礫層
17図－15	弥生	甕	口径（25.0） 頸径（20.6）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）白褐色 （内）濁白褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
17図－16	弥生	甕	口径（23.8） 頸径（18.4）	石英、長石微粒を多く含む	良好	（外、内、断）淡褐色	（外）ナデ後ヘラ描き凹線、横ナデ、ナデ一部ミガキあり　（内）横ナデ（横ナデ部分にミガキ）、ケズリ部分にミガキあり	C－3区砂礫層
17図－17	弥生	甕	口径　23.3 頸径　20.1	2㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	（外）全体的にススが多く付着、淡茶褐色 （内）淡茶褐色	（外）口縁部擬凹線文、ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
17図－18	弥生	甕	口径（21.7） 頸径（17.6）	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）全体的にスス付着、淡茶褐色 （内）淡茶褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、風化により不明	F－4区砂礫層
17図－19	弥生	甕	口径（22.4） 頸径（18.0）	1～2㎜の砂粒をわずかに含む	良好	（外）一部にスス付着、淡橙褐色 （内）淡灰褐色、淡橙褐色	（外）ナデ　（内）不明	G－3区砂礫層
18図－ 1	弥生	甕	口径（15.0） 頸径（11.8）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	（外）全体にスス付着の黒色 （内）茶灰色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ，ヘラケズリ	B－3区砂礫層
18図－ 2	弥生	甕	口径（15.8） 頸径（11.8）	1㎜程度の長石、石英を少し含む	良好	（外）部分的にスス付着の黒色、灰褐色 （内）灰黄褐色 （断）灰黄褐色	（外）横ナデ、ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ミガキ、ハケ目、ミガキ	E－3区砂礫層
18図－ 3	弥生	甕	口径（15.8） 頸径（13.2）	0.5㎜以下の砂粒を少し含む	良好	（外）橙褐色 （内）淡橙褐色	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリと思われるが不明	E－2区遺構検出面
18図－ 4	弥生	甕	口径　16.4 頸径　13.2	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）口縁部スス付着黒色、淡橙褐色 （内）淡茶褐色	（外）擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	F－3区砂礫層
18図－ 5	弥生	甕	口径（17.2） 頸径（13.7）	1㎜強の石英、長石粒を少々含む	良好	（外、内、断）淡褐色	（外）ナデ後２段の擬凹文　（内）横ナデ、ケズリ	D－3区砂礫層
18図－ 6	弥生	甕	口径（16.5） 頸径（13.4）	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、淡灰褐色 （内）淡灰褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
18図－ 7	弥生	甕	口径（16.9） 頸径（13.8）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	（外）一部スス付着の黒色、黄茶灰色 （内）黄茶灰色 （断）黄茶灰色～茶褐色	（外）横ナデ、ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
18図－ 8	弥生	甕	口径（18.4） 頸径（15.2）	1㎜前後の石英粒を少々含む	良好	（外）淡褐色 （内、断）黒褐色	（外）擬凹線後横ナデ、横ナデ　（内）ミガキ、ケズリ	B－3区砂礫層
18図－ 9	弥生	甕	口径（18.3）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外、内、断）淡灰白茶色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）（口縁内部風化）、ケズリ	Bライン畦
18図－10	弥生	甕	口径（19.6） 頸径（16.0）	1～2㎜の石英、長石をやや多く含む	良好	（外）黒褐色 （内）褐色 （断）黒褐色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ（風化が著しい）	E－3区砂礫層
18図－11	弥生	甕	口径（19.8） 頸径（16.0）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外）淡黒褐色～淡黄灰色 （内）淡黄灰色 （断）淡黄灰色	（外）ナデ後多条凹線、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－2区砂礫層
18図－12	弥生	甕	口径（17.4） 頸径（12.8）	0.5㎜前後の長石、石英を少々含む	良好	（外）スス付着、淡橙灰褐色 （内）淡灰褐色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ミガキ後横ナデ，ヘラケズリ	F－3区砂礫層
18図－13	弥生	甕	口径　17.5 頸径　14.7	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）淡橙白色一部スス付着 （内）淡橙白色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
18図－14	弥生	甕	口径（19.4） 頸径（15.0）	1㎜程度の長石、石英を含む	良好	（外、内）茶灰色 （断）淡茶灰色	（外）横ナデ、ナデ後２段の擬凹線、横ナデ （内）横ナデ	E－3区砂礫層
18図－15	弥生	甕	口径（19.8） 頸径（16.4）	0.5㎜前後の長石を多く含む	良好	（外）褐色、ススが多く付着（黒色） （内）褐色	（外）ナデ後多条凹線，横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	G－3区砂礫層
18図－16	弥生	甕	口径　20.0 頸径　16.2	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）淡橙灰色一部スス付着 （内）淡橙褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
18図－17	弥生	甕	口径　21.0 頸径　18.0	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）口縁部分一部黒色、淡橙灰色 （内）淡橙褐色	（外）凹線、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
18図－18	弥生	甕	口径　21.1 頸径　17.1	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡灰褐色	（内）横ナデ	不明
18図－19	弥生	甕	口径（20.4） 頸径（17.0）	2～3㎜の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、淡灰褐色 （内）淡灰褐色	（内）ナデ	F－3区砂礫層
18図－20	弥生	甕	頸径（18.8）	1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	（外）灰黄白色～淡灰褐色 （内）灰黄白色 （断）淡黄褐色	（外）多条凹線，横ナデ　（内）風化	F－2区包含層上面
19図－ 1	弥生	甕	口径（13.8） 頸径（10.8）	1㎜以下の砂粒を含む		（外）淡灰茶色ススが付着 （内）淡灰茶色	（外）擬凹線文（浅い）、三条の沈線、貝殻による施紋　（内）ナデ後ミガキ、ケズリ	D－3区砂礫層
19図－ 2	弥生	甕	口径（13.6） 頸径（10.1）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）全体的にスス付着黒色、淡橙色 （内）淡橙茶色	（外）ハケ目　（内）横ナデ、ヘラケズリ	G－2区 SK－01 No9
19図－ 3	弥生	甕	口径　14.6 頸径　12.1	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外）淡灰褐色 （内）淡灰褐色	（外）擬凹線文、横ナデ　（内）ミガキ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
19図－ 4	弥生	甕	口径　14.2 頸径　11.6	1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	（外）一部スス付着黒色、淡茶褐色 （内）淡茶灰色	（外）擬凹線文、横ナデ貝殻刺突文　（内）ヘラケズリ	D－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
19図－ 5	弥生	甕	口径　13.7 頸径　10.2	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 一部スス付着、黒色、淡灰褐色 (内) 全体的にスス付着、黒色	(外) 多条凹線（磨耗が著しい）、横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
19図－ 6	弥生	甕	口径（16.0） 頸径（12.7）	0.5～1㎜前後の長石、石英を多く含む	良好	(外) 淡黄茶色 (内) 淡黄茶色～淡黄茶灰色 (断) 淡灰色～淡黄茶色	(外) ナデ後多条凹線、ナデ後列点紋　(内) 風化により不明	B－3区砂礫層
19図－ 7	弥生	甕	頸径（12.1）	1㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 一部スス付着の黒色 (内) 淡灰白茶色 (断) 淡灰色～淡灰白茶色	(外) ナデ後多条凹線、横ナデ、貝殻刺突紋 (内) ミガキ、横ナデ、ケズリ	G－3区砂礫層
19図－ 8	弥生	甕	口径（16.8） 頸径（14.4）	石英、長石粒を密に含む	良	(外、内、断) 淡褐色	(外) ナデ後凹線（一条ずつ引く）、ナデ、ヘラ刺突　(内) ナデらしいが風化により不明	G－4区砂礫層
19図－ 9	弥生	甕	口径　16.8 頸径　13.0	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ、ハケ目　(内) ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
19図－10	弥生	甕	口径　18.0 頸径　15.0	1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡茶灰色	(外) 擬凹線文、横ナデ　(内) 横ナデ、横ナデ	B－3区砂礫層
19図－11	弥生	甕	口径　22.2 頸径　17.3	0.5㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡茶褐色	(外) 擬凹線文　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
19図－12	弥生	甕	口径（19.6） 頸径（19.0）	1㎜程の石英、長石をわずかに含む	良好	(外) 茶褐色、前面にスス付着 (内) 淡茶褐色 (断) 灰茶褐色	(外) ナデ後擬凹線文、横ナデ　(内) 横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
19図－13	弥生	甕	口径（19.5） 頸径（15.9）	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、淡茶褐色 (内) 淡茶褐色、淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
19図－14	弥生	甕	口径　17.0 頸径　13.3	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色一部スス付着、黒色 (内) 淡灰褐色	(外) 多条凹線、横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
19図－15	弥生	甕	頸径（16.2）	1.5㎜程度の長石、石英を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 灰色 (断) 灰褐色	(外) ナデ後多条凹線、横ナデ、ハケ状工具による連続刺突文　(内) 横ナデ、ミガキ、ケズリ	B－3区砂礫層
19図－16	弥生	甕	口径　16.2 頸径　13.0	1～4㎜までの砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色、淡黄褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 擬凹線文、横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
20図－ 1	弥生	甕	口径　13.3 頸径　11.2	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、淡橙灰色 (内) 淡橙褐色	(外) ハケ目　(内) ケズリ、横ナデ	C－3区砂礫層
20図－ 2	弥生	甕	口径（13.6） 頸径（10.1）	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 暗灰褐色	(外) 口縁部凹線文	F－2区包含層
20図－ 3	弥生	甕	口径　14.5 頸径　10.2	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ　(内) ナデ、調整不明	E－3区砂礫層
20図－ 4	弥生	甕	口径（13.8） 頸径（10.5）	1㎜程度の長石、石英をわずかに含む	良好	(外) 大部分スス付着の黒色～淡黄茶白色 (内、断) 淡黄茶白色	(外) ナデ後2段の擬凹線、横ナデ　(内) 横ナデ、ミガキ、ケズリ	C－3区砂礫層
20図－ 5	弥生	甕	口径（14.4） 頸径（ 9.6）	1㎜以下の長石を若干含む	良好	(外) 淡黄褐色、スス付着黒色 (内) 淡黄褐色一部スス付着	(外) ナデ後擬凹線文、横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	G－3区砂礫層
20図－ 6	弥生	甕	口径（16.1） 頸径（12.8）	0.5～2㎜までの砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡茶褐色一部黒色	(外) ナデ、ハケ目　(内) ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
20図－ 7	弥生	甕	口径　15.1 頸径　11.5	1～2㎜の石英、長石を多く含む	良好	(外) 淡黄白褐色、口縁部にスス付着 (内) 淡黄白褐色 (断) 淡灰色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
20図－ 8	弥生	甕	口径（15.4） 頸径（12.8）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	(外) 橙灰色 (内) 淡灰褐色 (断) 淡灰色	(外) ナデ後擬凹線文、横ナデ　(内) ミガキ、横ナデ、ケズリ	B－3区砂礫層
20図－ 9	弥生	甕	口径（16.6） 頸径（11.7）	石英、長石粒（1㎜弱）を少々含む	良好	(外) 淡褐色～淡橙褐色 (内) 濁淡褐色 (断) 濁淡褐色	(外) 横ナデ後擬凹線文、横ナデ　(内) 横ナデ、ケズリ後ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
20図－10	弥生	甕	口径（17.6） 頸径（13.3）	石英、長石微粒を少々含む	良好	(外) 淡褐色スス付着 (内、断) 淡褐色	(外) 横ナデ後擬凹線文、横ナデ	E－3区砂礫層
20図－11	弥生	甕	口径（17.5） 頸径（14.3）	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) ちゃ褐色	(外) 口縁部擬凹線文　(内) 口縁部ナデ、胴部ミガキ	Eライン畦
20図－12	弥生	甕	口径　19.5 頸径　15.3	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 一部スス付着、黒色、淡茶褐色 (内) 淡灰褐色		E－3区砂礫層
20図－13	弥生	甕	口径（19.2） 頸径（15.0）	1㎜弱の石英と長石を若干含む	良好	(外、内) 淡灰褐色	(外) ナデ後2段の擬凹線、ナデ　(内) 横ナデ、ナデ後、ミガキ、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
20図－14	弥生	甕	口径　18.7 頸径　14.3	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外、内) 淡橙灰色	(外) 擬凹線文、ハケ目　(内) 横ナデ、工具跡、ヘラミガキ、ハケ目、ヘラケズリ	F－3区砂礫層
20図－15	弥生	甕	口径（24.0） 頸径（18.4）	1㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 淡橙灰色～茶灰色 (内) 茶褐色 (断) 淡茶褐色	(外) 横ナデ、ナデ後擬凹線文、横ナデ　(内) 横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	G－3区砂礫層
20図－16	弥生	甕	口径（24.0） 頸径　19.5	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡黄灰色		C－3区砂礫層
20図－17	弥生	甕	口径（22.6） 頸径（19.2）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、淡灰褐色 (内) 淡茶褐色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
21図－ 1	弥生	甕	口径（12.6） 頸径（ 9.5）	0.1～0.2㎜程度の石英、長石を含む	良好	(外) 全体にスス付着の黒色、淡茶灰色 (内) 淡茶灰色	(外) 横ナデ、擬凹線文、横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
21図－ 2	弥生	甕	口径（13.7） 頸径（10.2）	石英、長石微粒を少々含む	良好	(外、内、断) 淡褐色	(外) 横ナデ後、擬凹線（上下2段）、横ナデ (内) ナデ、ミガキ、ケズリ	Bライン畦
21図－ 3	弥生	甕	口径（15.6） 頸径（11.4）	石英、長石微粒を多く含む	良好	(外) 暗褐色、スス付着著しい (内) 暗褐色～淡褐色 (断) 淡褐色	(外) 横ナデ後擬凹線文、横ナデ、肩部に多条凹線　(内) ミガキ、ケズリ	E－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
21図－ 4	弥生	甕	口径（16.5） 頸径（12.7）	1～1.5㎜程度の長石、石英を多く含む	良好	(外) スス付着の黒色～褐色 (内) ちゃ褐色～淡茶褐色～淡灰色 (断) 褐色～淡茶褐色	(外）横ナデ、ナデ後擬凹線文、横ナデ、ナデ後多条凹線　（内）風化のため不明、ケズリ	B－3区砂礫層
21図－ 5	弥生	甕	口径　16.7 頸径　12.5	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) スス付着の黒色、淡褐色 (内) 淡灰褐色、全体的にスス付着、黒色	(外）ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
21図－ 6	弥生	甕	口径　16.7 頸径　12.8	2㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色、淡灰褐色 (内) 一部黒色、淡橙灰色	(外）ナデ、ハケ目　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
21図－ 7	弥生	甕	口径（17.1） 頸径（13.6）	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外）一部にスス付着、淡灰褐色 (内）淡灰褐色	(外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
21図－ 8	弥生	甕	口径　18.0 頸径　14.6	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外）全体的にスス付着、黒色 (内）淡灰茶色	(外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
21図－ 9	弥生	甕	口径（18.4） 頸径（14.5）	1㎜弱の石英、長石粒を少々含む	良好	(外、内、断）淡褐色～淡黒褐色	(外）横ナデ後擬凹線文（貝殻か？）横ナデ (内）横ナデ、ミガキ、ケズリ	F－3区砂礫層
21図－10	弥生	甕	口径（20.0） 頸径（16.3）	0.1～0.5㎜の石英、長石を含む	良好	(外）淡橙灰色 (内）橙灰褐色～黒色	(外）横ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラミガキ、ケズリ後ミガキ	F－3区砂礫層
21図－11	弥生	甕	口径（20.4） 頸径（16.9）	密1～2㎜の白色砂粒を含む	良好	(外）褐色～黒色 (内）暗褐色	(外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ後ミガキ	E－3区砂礫層
21図－12	弥生	甕	口径（19.4） 頸部（13.8）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外）スス付着の黒色 (内）淡茶灰色 (断）茶灰色	(外）ナデ後擬凹線文　（内）横ナデ、粗くミガキ、ケズリ	D－3区砂礫層
21図－13	弥生	甕	口径　15.2 頸径　11.9	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外）全体にスス付着の黒色 (内）淡橙褐色	(外）横ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
21図－14	弥生	甕	口径（18.0） 頸径（14.1）	石英、長石微粒を少々含む	良好	(外）灰色～淡褐色 (内、断）淡褐色	(外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラによる面とり、ケズリ	C－3区砂礫層
21図－15	弥生	甕	口径　18.4 頸径　13.4	0.5㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）淡橙褐色 (内）暗灰褐色	(外）ナデ　（内）ヘラケズリ、ナデ	C－3区砂礫層
21図－16	弥生	甕	口径（18.7） 頸径（15.6）	密2～3㎜前後の白色砂粒を含む	良好	(外）黒色～褐色 (内）淡褐色	(外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	D－3区砂礫層 Bライン畦
21図－17	弥生	甕	口径（19.7） 頸径（16.3）	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外）淡灰褐色一部スス付着 (内）淡橙褐色	(外）擬凹線文ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
21図－18	弥生	甕	口径（25.3） 頸径（19.7）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）全体的にスス付着、黒色 (内）淡茶褐色	(外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
22図－ 1	弥生	甕	口径　11.2 頸径　8.7 器高　10.8	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）全体的スス付着、暗灰褐色 (内）淡橙褐色	(外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
22図－ 2	弥生	甕	口径（12.1） 頸径（ 8.6）	1.5㎜程度の長石、石英を多く含む	良好	(外）大部分スス付着の黒色、灰黄淡褐色 (内）灰黄淡褐色～黒褐色 (断）灰黄淡褐色	(外）ナデ後擬凹線文、横ナデ、貝殻刺突紋、ミガキ、スス多量付着で不明　（内）横ナデ、ミガキ、ケズリ	C－3区砂礫層
22図－ 3	弥生	甕	口径　12.9 頸径　8.2	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）全体的にスス付着、黒色 (内）全体的にスス付着、暗茶褐色	(外）擬凹線文、ミガキ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
22図－ 4	弥生	甕	口径（12.4） 頸径（ 9.8）	0.5㎜以下の長石、石英をわずかに含む	良好	(外）一部スス付着、茶灰色～淡橙灰色 (内）全体的にスス付着の黒色～暗茶灰色	(外）ナデ後擬凹線文、ナデ、刺突　（内）横ナデ、ナデ後ミガキ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
22図－ 5	弥生	甕	口径（15.7） 頸径（10.1）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	(外）一部スス付着の黒色、茶褐色 (内）茶褐色 (断）淡茶褐色	(外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ（指押えか？）ケズリ	D－3区砂礫層
22図－ 6	弥生	甕	口径（17.0） 頸径（12.5）	1～2㎜の石英、長石を含む	良好	(外）黒褐色、スス付着著しい (内）褐色 (断）淡褐色	(外）ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）横ナデ、ヘラミガキ、はり付け粘土、ケズリ	C－3区砂礫層
22図－ 7	弥生	甕	口径　17.2 頸径　12.3	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外）全体にスス付着、黒色、暗灰褐色 (内）淡灰褐色	(外）ナデ　（内）ケズリ、横ナデ	C－3区砂礫層
22図－ 8	弥生	甕	口径（19.0） 頸径（14.3）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	(外）全体的にスス付着の黒色 (内、断）淡茶灰色	(外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ミガキ、ケズリ	B－3区砂礫層
22図－ 9	弥生	甕	口径（19.8） 頸径（14.5）	1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外）全体にスス付着、黒色 (内）暗灰褐色	(外）スス付着の為不明　（内）横ナデ、ケズリ	B－3区砂礫層
22図－10	弥生	甕	口径　21.6 頸径　15.7	0.5㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外）淡灰褐色一部スス付着（黒色） (内）淡橙褐色	(外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
22図－11	弥生	甕	口径　18.3 頸径　13.7	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）淡橙褐色一部スス付着、黒色 (内）淡橙褐色	(外）ナデ、ハケ目　（内）ヘラケズリ、ナデ	C－3区砂礫層
22図－12	弥生	甕	口径（16.7） 頸径（13.6）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外、内、断）淡茶灰色	(外）横ナデ、ナデ後擬凹線文　（内）横ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
22図－13	弥生	甕	口径（18.0） 頸径（13.5）	密1～2㎜前後の白色砂粒を含む（6㎜強もあり）	良好	(外）黒（スス付着） (内）褐色	(外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ、胴ハケ目 (内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	E－3区砂礫層
22図－14	弥生	甕	口径（19.4） 頸径（14.2）	密1㎜の砂粒を含む	良好	(外）黒 (内）暗褐色	(外）口縁部擬凹線文　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	B－3区砂礫層
22図－15	弥生	甕	口径（23.5） 頸径（17.2）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	(外）茶褐色一部スス付着の黒色 (内）淡茶褐色 (断）淡茶褐色～茶褐色	(外）横ナデ、肩部はナデ後三段の凹線、横ナデ、ナデ後多条凹線　（内）横ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
23図－ 1	弥生	甕	口径（14.0） 頸径（10.6）	1㎜以下の長石を多く含む	良好	(外）灰黄褐色 (内）灰黄褐色一部スス付着	(外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
23図－ 2	弥生	甕	口径（14.4） 頸径（11.0）	0.1～1㎜の長石、石英を含む	良好	(外）一部スス付着、淡灰色～灰褐色 (内）一部スス付着、淡灰色～褐色 (断）灰褐色	(外）ナデ後二段の擬凹線、横ナデ　（内）横ナデ、ナデ後ミガキ、ケズリ	Bライン畦

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
23図－ 3	弥生	甕	口径（11.8） 頸径（ 9.1）	密1㎜以下の砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）明褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）口縁部（上部）ナデ（下部）ミガキ、胴部ケズリ後ミガキ	E－3区砂礫層
23図－ 4	弥生	甕	口径（15.0） 頸径（11.3）	0.5～1㎜の長石、石英を多く含む	良好	（外）全体的にススが付着の黒色 （内、断）茶灰色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	D－3区砂礫層
23図－ 5	弥生	甕	口径（16.6） 頸径（11.1）	0.5㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外）一部ススが付着の黒色、淡橙灰色 （内）褐色 （断）淡灰褐色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ、肩部多条凹線 （内）横ナデ、ナデ後ミガキ、ケズリ一部ミガキ	C－3区砂礫層
23図－ 6	弥生	甕	口径　16.8 頸頸　13.6	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外）淡橙褐色一部黒灰色 （内）淡褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
23図－ 7	弥生	甕	口径　17.7 頸径（12.0）	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡灰色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
23図－ 8	弥生	甕	口径（18.0） 頸径（13.9）	1㎜以下の石英を1～2㎜程の長石少々含む	良好	（外）黄褐色 （内、断）黄褐色、頸部の辺りにスス付着	（外）ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）ナデ、ミガキ、ケズリ	E－4区砂礫層
23図－ 9	弥生	甕	口径　17.8 頸径　13.4	0.5～2㎜の砂粒を多く含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）茶褐色一部スス付着、黒色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラミガキ	E－3区砂礫層
23図－10	弥生	甕	口径　16.0 頸径　11.0	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外）一部スス付着、黒色、淡灰褐色 （内）淡灰褐色	（外）横ナデ、擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
23図－11	弥生	甕	口径（16.2） 頸径（11.7）	0.5㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外）スス付着の黒色、淡茶灰色 （内、断）淡茶灰色	（外）ナデ後擬凹線文、横ナデ、肩部多条凹線 （内）ナデ後ミガキ、ケズリ	E－3区砂礫層
23図－12	弥生	甕	口径（18.2） 頸径（13.7）	1～2㎜の石英、長石をわずかに含む	良好	（外）黒褐色 （内）褐色 （断）淡褐色	（外）ナデ後擬凹線文　（内）横ナデ、ヘラミガキ	E－3区砂礫層
23図－13	弥生	甕	口径　16.7 頸径　12.0	1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡橙褐色	（外）擬凹線文、ナデ　（内）ヘラミガキ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
23図－14	弥生	甕	口径（16.8） 頸径（12.4）	1㎜前後の長石、石英を含む	良好	（外）全体にスス付着の黒色 （内、断）茶灰色～黄茶灰色	（外）ナデ後凹線、横ナデ　（内）横ナデ、ミガキ、ケズリ	C－3区砂礫層
23図－15	弥生	甕	口径　17.5 頸径　12.9	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡灰褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ヘラケズリ	E杭ライン畦中
23図－16	弥生	甕	口径（18.3） 頸径（12.9）	0.5㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外、内、断）白茶灰色	（外）ナデ後二段の擬凹線、肩部貝殻刺突文 （内）横ナデ、ナデ後ミガキ、ケズリ	E－3区砂礫層
23図－17	弥生	甕	口径（19.6） 頸径（14.4）	1～2㎜の石英を多く長石、雲母少々含む	良好	（外）淡灰褐色、ススが多く付着 （内、断）淡灰褐色	（外）ナデ後擬凹線文、工具で波状文　（内）ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
24図－ 1	弥生	甕	口径（16.8） 頸径（13.4）	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）淡褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ、胴部低形刺突文　（内）口縁部ナデ、頸部不明	Bライン畦
24図－ 2	弥生	甕	口径　17.2 頸径　12.6	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡灰褐色一部黒色	（外）ナデ　（内）ハケ目、ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
24図－ 3	弥生	甕	口径　18.3 頸径　14.5	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色 （内）淡茶褐色	（外）擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
24図－ 4	弥生	甕	口径　18.6 頸径　15.4	石英、長石微粒を多く含む	良好	（外）淡褐色、ススの付着著しい （内、断）淡褐色	（外）横ナデ後擬凹線文、横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	F－3区砂礫層
24図－ 5	弥生	甕	口径（18.9） 頸径（14.4）	1～2㎜の石英、長石を含む	良好	（外）橙灰色一部スス付着 （内）淡橙灰色一部灰色	（外）横ナデ後擬凹線文　（内）横ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
24図－ 6	弥生	甕	口径　19.1 頸径　14.8	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）全体的にスス付着、黒色、淡橙褐色 （内）淡橙褐色一部黒色	（外）ハケ目　（内）ナデ、ヘラケズリ	F－3区砂礫層
24図－ 7	弥生	甕	口径　19.3 頸径　15.4	0.5～2㎜までの砂粒をわずかに含む	良好	（外）淡橙灰色 （内）淡茶灰色	（外）擬凹線文、横ナデ、肩部に多条凹線（磨耗）　（内）横ナデ、ヘラケズリ	Aライン畦
24図－ 8	弥生	甕	口径（16.7） 頸径（14.2）	1㎜程度の長石、石英を含む	良好	（外）大部分がススが付着の黒色 （内）灰黄淡褐色～黒褐色 （断）淡橙灰色と灰色の二層	（外）擬凹線文後ナデ、横ナデ、ハケ目　（内）横ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
24図－ 9	弥生	甕	口径（17.5） 頸径（13.1）	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）褐色	（外）口縁部擬凹線文、胴部ハケ目　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	F－3区砂礫層
24図－10	弥生	甕	口径（19.7） 頸径（14.9）	密1～3㎜程度の砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）ナデ	C－3区砂礫層
24図－11	弥生	甕	口径（20.5） 頸径（14.5）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外）全体的にスス付着の黒色、淡茶褐色 （内）一部黒褐色～淡茶褐色 （断）灰褐色	（外）横ナデ後擬凹線文、ナデ　（内）ヘラミガキ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
24図－12	弥生	甕	口径（20.8） 頸径（16.8）	密1㎜前後の白色砂粒を含む	良好	褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	E－3区砂礫層
24図－13	弥生	甕	口径　21.6 頸径　17.4	0.5㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）淡橙褐色、全体的にスス付着、黒色 （内）淡灰色	（内）ヘラケズリ、横ナデ	E－3区砂礫層
24図－14	弥生	甕	口径　25.2 頸径　21.2	0.5㎜以下の砂粒を密に含む	良好	（外、内）淡橙灰色	（外）ナデ　（内）横ナデ	E－4区砂礫層
25図－ 1	弥生	甕	口径　22.5 頸径　18.7	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）淡灰褐色一部スス （内）淡茶灰色	（外）横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
25図－ 2	弥生	甕	口径　22.5 頸径　18.7	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）黒（スス付着） （内）褐色	（外）口縁部擬凹線文、頸部ナデ、胴部ナデ （内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	B－3区砂礫層
25図－ 3	弥生	甕	口径　26.8 頸径　21.7	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）淡橙灰色 （内）暗灰色	（外）ハケ目　（内）ヘラケズリ	E－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
25図－ 4	弥生	甕	口径　29.1 頸径　22.3	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰色 (内) 淡橙色	(内) 横ナデ	C－3区砂礫層
25図－ 5	弥生	甕	口径　31.6 頸径　26.5	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色一部スス付着 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ　(内) ヘラケズリ、ナデ	C－3区砂礫層
26図－ 1	弥生	甕	口径 (13.5) 頸径 (9.3)	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	褐色	(内) 口縁部ナデ、胴部ケズリ	Bライン畦
26図－ 2	弥生	甕	口径 (15.0) 頸径 (12.2)	1㎜程度の石英、長石粒を多く含む	良好	(外) 濁褐色スス付着著しい (内、断) 濁褐色	(外) 横ナデ、スス付着著しく調整不明　(内) 横ナデ、ミガキ、ケズリ	D－3区砂礫層
26図－ 3	弥生	甕	口径　14.5 頸径　11.4	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙白色 (内) 淡橙白褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
26図－ 4	弥生	甕	口径 (13.6) 頸径 (11.1)	0.5㎜以下の長石、石英を若干含む	良好	(外) 淡褐色一部スス付着 (内) 淡褐色 (断) 淡黒色	(外) 横ナデ、従方向のハケ目　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	F－4区砂礫層
26図－ 5	弥生	甕	口径　20.0 頸径　11.8	密	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色一部淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
26図－ 6	弥生	甕	口径 (18.3) 頸径 (12.0)	1㎜程の石英、長石をわずかに含む	良好	(外) 暗褐色、全体にスス付着著しい (内) 茶褐色 (断) 茶褐色	(外) 横ナデ　(内) 横ナデ、ケズリ	A－3区砂礫層
26図－ 7	弥生	甕	口径 (20.6) 頸径 (17.0)	密1～2㎜の砂粒を含む	良好	淡褐色	(外) 口縁部風化のため不明、頸部ナデ、胴部ハケ目　(内) 口縁部風化のため不明、胴部ケズリ	C－3区砂礫層
26図－ 8	弥生	甕	口径　13.3 頸径　10.0	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色、暗灰色 (内) 全体的にスス付着、黒色、暗赤色	(外) 横ナデ、横ナデ　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
26図－ 9	弥生	甕	口径 (14.3) 頸径 (12.1)	0.5㎜以下の石英、長石を含む	良好	(外) 一部スス付着の黒色、淡茶灰色 (内) 淡茶灰色 (断) 淡茶灰色	(外) 横ナデ、肩部に多条凹線　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
26図－10	弥生	甕	口径 (17.2) 頸径 (14.4)	0.5㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外) 一部スス付着の黒色、淡茶灰色 (内) 淡茶灰色と黒灰色の二層 (断) 黒灰色～茶黒灰色	(外) 横ナデ、肩部に多条凹線（磨耗）　(内) 横ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕あり	F－4区砂礫層
26図－11	弥生	甕	口径 (17.5) 頸径 (13.7)	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外) 全体的にスス付着の黒色、橙灰色 (内) 灰茶色～灰色 (断) 橙灰色	(外) 横ナデ　(内) 横ナデ、ケズリ	F－3区砂礫層
26図－12	弥生	甕	口径　19.8 頸径　16.2	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色一部黒色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	F－3区砂礫層
26図－13	弥生	甕	口径　21.3 頸径　17.5	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 淡灰褐色	(外) 横ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
27図－ 1	弥生	甕	口径　14.9 頸径　11.2	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色、淡茶灰色 (内) 淡茶灰色	(外) 横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
27図－ 2	弥生	甕	口径　16.5 頸径　12.4	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色、淡黄色 (内) 淡橙褐色	(外) 横ナデ、肩部に多条凹線、波状文　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
27図－ 3	弥生	甕	口径　15.9 頸径　12.5	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色、全体的にスス付着 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
27図－ 4	弥生	甕	口径　15.4 頸径　10.9	0.5㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色一部暗灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
27図－ 5	弥生	甕	口径　16.7 頸径　12.0	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色、全体的にスス付着 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ、ハケ後ナデ　(内) ヘラケズリ、ナデ	B－3区砂礫層
27図－ 6	弥生	甕		0.5㎜程度の長石、石英、他の砂粒を含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色、淡黄褐色 (内) 淡灰黄褐色～灰黄褐色 (断) 淡灰黄褐色	(外) 横ナデ、肩部に多条凹線、波条文、ハケ目 (内) ケズリ	F－3区砂礫層
27図－ 7	弥生	甕	口径　15.3 頸径　11.8	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ、ハケ目　(内) ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
27図－ 8	弥生	甕	口径 (20.4) 頸径 (16.7)	1㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 全体にスス付着の黒色 (内) 茶灰色～茶褐色 (断) 茶灰色	(外) 横ナデ後肩部に櫛描波状紋　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	D－3区砂礫層
27図－ 9	弥生	甕	口径　19.9 頸径　16.6	0.5㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) 一部スス付着、黒色、淡黄褐色	(外) 横ナデ、肩部に多条凹線、ハケ目　(内) 横ナデ	F－3区砂礫層
27図－10	弥生	甕	口径　21.3 頸径　17.9	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 橙褐色	(外) 横ナデ、ハケ目、肩部に多条凹線、波状文、ハケ目　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	C－3区砂礫層
27図－11	弥生	甕	口径 (26.2) 頸径 (22.3)	1㎜程の石英がやや含まれる	良好	(外) 淡茶白色一部スス付着 (内、断) 淡茶白色	(外) 肩部に横ナデ多条凹線　(内) 横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
28図－ 1	弥生	甕	口径　24.3 頸径　19.7	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色一部黒色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ、ハケ目　(内) ナデ、ヘラケズリ	Bライン畦
28図－ 2	弥生	甕	口径 (17.5)	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	黒、褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	C－3区砂礫層 E－3区砂礫層
28図－ 3	弥生	甕	口径 (15.0) 頸径 (12.7)	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 暗茶褐色	ナデ	D－3区砂礫層
28図－ 4	弥生	甕	口径 (15.0)	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	赤茶褐色	ナデ	D－3区砂礫層
28図－ 5	弥生	甕	口径 (15.7) 頸径 (13.9)	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
28図－ 6	弥生	甕	口径 (18.4) 頸径 (14.2)	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙色一部黒色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
28図－ 7	弥生	壺・甕	口径（17.8）	1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）褐色	ナデ	E－3区砂礫層
28図－ 8	弥生	甕	口径（17.9） 頸径（14.7）	0.5㎜以下の長石、石英を少々含む	良好	（外）一部スス付着、黒色、灰黄褐色 （内）灰黄淡褐色、暗灰色 （断）灰黄淡褐色	（外）横ナデ　（内）横ナデ、指ナデ、ケズリ	A－3区砂礫層
28図－ 9	弥生	甕	口径（15.4） 頸径（11.5）	1㎜程の石英がやや多く含まれる	良好	（外）淡黄褐色、胴面にススが付着 （内）黄褐色 （断）淡茶褐色	（外）横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
28図－10	土師器	甕	口径（13.0） 頸径（10.6）	石英、長石、微粒をわずかに含む	良	（外）黒色 （内、断）淡褐色	口唇に凹線あり　（外）横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
28図－11	土師器	甕	頸径（12.4）	1㎜以下の長石、石英を含む	良好	（外、内）淡褐色 （断）灰白色	（外）連続刺突文あり、他は風化　（内）風化	E－2区包含層上
28図－12	土師器	甕	口径（14.2） 頸径（11.2）	石英、長石、微粒をわずかに含む	良好	（外、内）淡褐色 （断）黒色	口唇に凹線あり　（外）横ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
28図－13	弥生	甕	口径（17.8） 頸径（14.8）	0.5㎜以下の長石、石英を若干含む	良好	（外）灰黄褐色 （内）灰黄褐色	（外）横ナデ　（内）横ナデ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
28図－14	弥生	甕	口径（20.6） 頸径（15.9）	1～2㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	黒黄灰色	（外）回転ナデ　（内）ヘラケズリ	F－3区砂礫層
28図－15	弥生	甕	口径（20.3） 頸径（14.9）	0.5㎜以下の長石、石英を少々含む	良好	（外）一部スス付着の黒色、淡灰黄褐色 （内、断）淡灰黄褐色	（外）横ナデ　（内）横ナデ（指ナデあり）、ケズリ	E－3区砂礫層
28図－16	弥生	甕	口径（21.0） 頸径（17.1）	0.5㎜以下の長石、石英を若干含む	良好	（外）淡灰褐色一部スス付着、黒色 （内）淡褐色一部スス付着	（外）横ナデ　（内）横ナデ	包含層
28図－17	弥生	甕	口径（23.0） 頸径（17.8）	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）橙褐色 （内）淡橙褐色	（外）ナデ　（内）ナデ	E－3区砂礫層
29図－ 1	弥生	甕	口径（10.2） 頸径（ 8.4）	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）茶褐色	（外）ナデ　（内）口縁部ナデ、胴部ケズリ	C－3区砂礫層
29図－ 2	弥生	甕	口径（13.7） 頸径（ 9.2）	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	（外）黒 （内）茶褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ミガキ、ケズリ	B－3区砂礫層
29図－ 3	弥生	甕	口径（14.6） 頸径（13.1）	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）暗茶褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、ケズリ	D－3区砂礫層
29図－ 4	弥生	甕	口径（10.7） 頸径（ 8.5）	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）乳褐色	（外）ナデ　（内）ナデ、指頭圧痕	E－3区砂礫層
29図－ 5	弥生	甕	口径（12.4） 頸径（ 9.2）	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）茶褐色	（外）ナデ	D－3区砂礫層
29図－ 6	弥生	甕	口径（17.2） 頸径（13.8）	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）茶褐色	（外）ナデ、風化のため調整不明	E－4区砂礫層
29図－ 7	弥生	甕	口径（15.7） 頸径（13.0）	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）橙褐色	（外）風化のため不明　（内）ケズリ	F－4区砂礫層
29図－ 8	弥生	甕	口径　16.3 頸径　13.3	0.5～2㎜の砂粒をわずかに含む	良好	（外）淡灰色 （内）淡橙褐色	（外）ハケ後横ナデ、ナデ　（内）横ナデ、ケズリ	Aライン畦
29図－ 9	弥生	甕	口径（17.2） 頸径（14.5）	0.5㎜以下の長石、石英をわずかに含む	良好	（外、内、断）淡茶灰色	（外）ナデ後ミガキ　（内）ナデ後ミガキ、ヘラケズリ	E－3区砂礫層
29図－10	弥生	甕	口径　19.7 頸径　14.4	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	（外、内）淡橙色	（外）ナデ、ハケ目　（内）ナデ、ヘラケズリ	G－4区砂礫層
29図－11	弥生	甕	口径（21.4） 頸径　17.0	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	（外、内）暗茶褐色	（外）ナデ、ハケ目　（内）ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
29図－12	弥生	注口土器		1㎜前後の砂粒を含む		淡灰茶一部橙褐色、下半はスス炭化物付着、黒色	（外）ミガキ、文様あり　（内）上部ヘラで横方向のナデ、横方向のケズリ、棒状の工具を押しあてた跡	C－3区砂礫層
29図－13	弥生	注口土器		1～2㎜の砂粒を含む		灰白茶色（一部橙茶色をおびる）	（外）ヘラミガキ　（内）ヘラケズリ、工具によるタテ方向のスジ目あり	F－3区砂礫層
29図－14	弥生	注口土器		1㎜前後の砂粒を含む		黒褐色	（外）粗いハケ目　（内）注口・・ヘラケズリ、胴部・・ヘラケズリ	G－3区砂礫層
29図－15	弥生	注口土器		1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	（外）スス付着の黒色、淡橙色 （内）淡橙灰色	（外）ハケ目　（内）ハケ目	E杭ライン畦
29図－16	弥生	注口土器		1㎜前後の砂粒を多く含む		淡橙白色	（外）風化により不明　（内）横方向のケズリ	G－4区砂礫層
29図－17	弥生	注口土器		細砂を多く含む		黄灰白色	風化により不明	包含層
29図－18	弥生	注口土器		細砂を多く含む		黄白茶、半分黒褐色	風化により不明	F－4区砂礫層
30図－ 1	弥生	壺		1㎜以下の砂粒を含む		（外）黄灰色 （内）黄灰黒色	波状文	B－3区砂礫層
30図－ 2	弥生	壺		1㎜以下の細砂を含む		（外、内）黄灰茶色 （断）灰色	波状文、クシ状工具による凹線	B－3区砂礫層
30図－ 3	弥生	壺		1㎜前後の砂粒を多く含む		（外、内）橙色おびた黄白色（内面一部灰色）	（外）波状文　（内）ナデ、風化により調整不明	F－4区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
30図－ 4	弥生	甕		1㎜前後の白黒、赤色の砂粒を含む		(外) 灰黒色 (内) 淡茶	(外) 貝殻による文様あり　(内) ナデ	E－3区砂礫層
30図－ 5	弥生	壺		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黄白茶色 (内) 黒灰色	(外) きざみ目、ヘラによる斜線文　(内) ナデ	C－3区砂礫層
30図－ 6	弥生	甕		1㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 一部スス付着の黒色, 褐灰色 (内) 暗灰色 (断) 褐色	(外) ナデ後貝殻による連続刺突文　(内) ケズリ	D－3区砂礫層
30図－ 7	弥生	甕		1～1.5㎜の長石、石英を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着の黒色 (内、断) 灰黄褐色	(外) 多条凹線、貝殻による連続刺突文　(内) ケズリ	D杭畦
30図－ 8	弥生	甕		1㎜以下の砂粒を含む		(外) 黒色（スス付着） (内) 茶色	(外) クシ状工具による凹線、貝殻による斜線 (内) ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
30図－ 9	弥生	甕		1㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 全体的にスス付着の黒色、灰褐色 (内、断) 灰黄褐色	(外) ナデ後貝殻による連続刺突文　(内) ケズリ	E－4区砂礫層
30図－10	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着の黒色 (内) 淡茶褐色		D－3区砂礫層
30図－11	弥生	甕		0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色、一部スス付着、黒色 (内) 淡灰茶色		F－3区砂礫層
30図－12	弥生	甕		2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着の黒色 (内) 灰褐色		F－4区砂礫層
30図－13	弥生	壺		1～2㎜の砂粒を多く含む		(外、内) 白茶色 (断) 灰色	(外) 列点紋、斜線文（貝殻か？）列点文 (内) ケズリ	F－4区砂礫層
30図－14	弥生	甕		1㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 灰褐色 (断) 灰黄褐色	(外) ヘラ状工具による刺突文ミガキ？　(内) ケズリ	Bライン畦
30図－15	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黒褐色 (内) 黄灰褐色	(外) クシ描凹線、貝殻文　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
30図－16	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色、スス付着黒色 (内) 淡茶灰色		D－3区砂礫層
30図－17	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡黄灰色 (内) 淡黄灰色		C－3区砂礫層
30図－18	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を含む		(外) スス付着 (内) 淡黄茶色	(外) クシ目による横線、貝殻による爪形文、下部スス付着により不明　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
30図－19	弥生	甕		1㎜程度の長石、石英を少し含む	良好	(外) 黒色～灰褐色 (内) 暗褐色 (断) 灰褐色	(外) ハケ状工具による連続刺突文、ハケ目 (内) ケズリ	G－3区砂礫層
30図－20	弥生	甕		1㎜前後の白色砂粒を含む		(外、内) 灰黒色 (断) 灰色	(外) クシ状工具による連続刺突文、ナデ後粗いミガキ　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
30図－21	弥生	甕		1㎜位の長石、石英を多く含む	良好	(外) 灰褐色、一部スス付着の黒色 (内) 灰褐色 (断) 淡黄褐色	(外) ナデ後貝殻による連続刺突文　(内) ケズリ	F－3区砂礫層
30図－22	弥生	甕		1～1.5㎜程の長石、石英を多く含む	良好	(外) 部分的にスス付着の黒色、淡灰黄褐色 (内、断) 淡灰黄褐色	(外) ハケ目、ヘラ状工具による連続刺突文 (内) ケズリ	E－3区砂礫層
30図－23	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡黄褐色、スス付着、黒色 (内) 淡茶灰色		D－3区砂礫層
30図－24	弥生	甕		1～1.5㎜程度の長石、石英をまばらに含む	良好	(外、内) 淡灰褐色 (断) 灰褐色	(外) ハケ目、貝殻による連続刺突文　(内) ハケ目	F－4区砂礫層
30図－25	弥生	甕		2㎜前後の砂粒を多く含む		(外、内) 灰白茶色	(外) 粗いハケ目、斜線文（クシか？）粗いハケ目後ミガキか？　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
30図－26	弥生	甕		1～2㎜程の砂粒を含む	良好	(外) 一部スス付着の黒色、橙灰色 (内、断) 橙灰色	(外) 貝殻による連続刺突文、多条凹線　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
30図－27	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を多く含む		(外) 黒（多量のスス、炭化物付着） (内) 白茶	(外) 浅い凹線文、貝殻文ツメ型　(内) ケズリ後ナデ	D－3区砂礫層
30図－28	弥生	甕			良好	(外) 部分的にスス付着の黒色、灰白色 (内、断) 灰白色	(外) 貝殻による連続刺突文、ハケ目　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
30図－29	弥生	甕		1㎜以下の砂粒を含む		(外、内) 白橙色	(外) 波状紋、凹線（風化）一同じ工具使用か？3本のクシによる連続刺突文　(内) 風化により不明	E－3区砂礫層
30図－30	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外、内) 白橙色	(外) 凹線、3本のクシによる連続刺突文、ミガキか？　(内) 風化により不明	C－3区砂礫層
30図－31	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外、内) 灰白茶色	(外) タテ方向のハケ目後波状文（大きな山形） (内) ケズリ	E－3区砂礫層
30図－32	弥生	壺		1～2㎜の白色砂粒（石英）を多く含む		(外) 黄白灰色 (内) 黒灰色	(外) 表面風化ハケ目か？波状文と思われるが連続するかは不明　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
30図－33	弥生	壺		1㎜前後の砂粒を含む		(外、内) 灰白茶色	(外) 粗いハケ目の上に円形刺突文、下部に波状文　(内) ハケ目	E－3区砂礫層
30図－34	弥生	壺		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黄白茶色 (内) 灰茶	(外) 波状文の下部が残る、4条の凹線　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
31図－ 1	弥生	壺		1㎜前後の砂粒を含む		(外、内) 灰白茶色（下部は灰茶）	(外) ナデ、貝殻による羽状文、2条の凹線 (内) ケズリ	G－4区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　土	焼成	色　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
31図－ 2	弥生	壷		1㎜以下の砂粒を含む		(外) 灰色～黒褐色(炭化物付着) (内) 灰色～黒褐色	(外) 貝殻による羽状文、下部は横方向のミガキ (内) ケズリ	E－3区砂礫層
31図－ 3	弥生	甕				(外) 黒褐色 (内) 灰茶	(外) 貝殻による羽状文　(内) ナデ、ケズリ	F－3区砂礫層
31図－ 4	弥生	甕		1㎜以下の砂粒を含む		(外、内) 灰茶色(所々スス付着)	(外) 貝殻による羽状文　(内) ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
31図－ 5	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黒(多量のスス、炭化物付着) (内) 褐色	(外) 貝殻による羽状文、ミガキ　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
31図－ 6	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黒褐色 (内) 濃褐色	(外) ナデ、貝殻による羽状文　(内) ナデ、ケズリ	C－3区砂礫層
31図－ 7	弥生	甕		1㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外) 灰黄白色 (内) 褐色 (断) 灰黄白色	(外) ヘラ状工具による斜線文　(内) ケズリ	F－2区包含層
31図－ 8	弥生	甕		1.5㎜程度の長石、石英を含む	良好	(外) 灰白色 (内) 灰白色と淡灰色の二層 (断) 灰白色	(外) ナデ後貝殻による連続刺突文、ハケ目 (内) ケズリ	F－4区砂礫層
31図－ 9	弥生	器台		細砂を含む		(外、内) 淡茶～黒褐色	(外) 4条の凹線、貝殻による羽状文、2条の凹線(風化で浅い)　(内) 風化により不明	C－3区砂礫層
31図－10	弥生	甕		1㎜以下の砂粒を含む		(外) 黒褐色、スス付着 (内) 灰褐色	(外) 貝殻文、4条のヘラ描沈線、ミガキ　(内) ケズリ	D－3区砂礫層
31図－11	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を多く含む		(外) 灰白茶色 (内) 灰褐色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	D－3区砂礫層
31図－12	弥生	甕		1㎜以下の細砂を含む		(外、内) 灰茶色 ※赤色顔料付着	(外) 貝殻文、沈線　(内) ケズリ	D－3区砂礫層
31図－13	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黄褐色、スス付着 (内) 黄褐色	(外) 貝殻文、下部にも文様あるが不明　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
31図－14	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を多く含む		(外、内) 灰黒褐色	(外) 貝殻文様、風化により凹線の数不明 (内) ケズリ	D－3区砂礫層
31図－15	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 灰黒色(スス、炭化物付着) (内) 灰黒茶色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	F－4区砂礫層
31図－16	弥生	甕		1㎜以下の砂粒をわずかに含む		(外) 黒(スス、炭化物付着) (内) 灰褐色	(外) 凹線、貝殻文　(内) ナデ、ケズリ	D－3区砂礫層
31図－17	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を多く含む		(外、内) 灰黄茶色	(外) 貝殻文、クシ状工具による凹線　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
31図－18	弥生	甕		2㎜前後の白色砂粒(石英)を含む		(外) 灰白茶色(下部茶色、顔料か？ (内) 灰白色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
31図－19	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 黒(スス付着) (内) 灰茶～黒褐色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
31図－20	弥生	甕		1㎜以下の砂粒を少し含む		(外) 濃茶 (内) 黒灰茶	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
31図－21	弥生	甕				(外) 淡茶(一部スス付着) (内) 灰黒色	(外) 貝殻文　(内) ナデ	C－3区砂礫層
31図－22	弥生	甕		細砂を含む		(外、内) 淡橙灰色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
31図－23	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を含む		(外) 灰白茶色(一部黒斑あり) (内) 灰白茶色	(外) 貝殻文、4条の凹線　(内) ケズリ	D－3区砂礫層
31図－24	弥生	甕		2㎜前後の白色砂粒を含む		(外) 茶色(スス付着) (内) 灰白色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
31図－25	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を含む		(外) 黒色～黒褐色(炭化物付着) (内) 黒色～黒褐色	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
31図－26	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を含む		(外、内) 黄茶(一部橙色おびる)	(外) ヘラ描による沈線、貝殻文　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
31図－27	弥生	甕		1～2㎜の砂粒を多く含む		(外) 黒褐色～黒色(炭化物付着) (内) 黒褐色～黒色	(外) 貝殻文(炭化物の付着により不明瞭) (内) ナデ、ケズリ	E－3区砂礫層
31図－28	弥生	甕		1㎜前後の砂粒を少し含む		(外) 黒褐色 (内) 濃茶	(外) 貝殻文　(内) ケズリ	B－3区砂礫層
31図－29	弥生	注口土器		1㎜前後の白色砂粒を含む		(外、内) 灰白茶色	(外) 貝殻文、凹線の上に円形連続刺突文 (内) ケズリ	C－3区砂礫層
31図－30	弥生	壷		1㎜以下の砂粒をわずかに含む		(外、内) 灰白茶色	(外) ミガキ、5条の凹線、連続した勾玉状の文様　(内) ミガキ、ケズリ	E－3区砂礫層
31図－31	弥生	壷		1㎜以下の砂粒をわずかに含む		(外、内) 灰白茶色	(外) 連続勾玉文、凹線　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
31図－32	弥生	壷		1㎜以下の細砂を含む		(外) 黒褐色 (内) 灰茶	(外) 円形刺突文、貝殻文　(内) ケズリか不明	D－3区砂礫層
31図－33	弥生	壷		1㎜以下の砂粒を含む		(外、内) 黒褐色	(外) 二重の円形文が亀甲状に連続、凹線 (内) ケズリ	C－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
32図－ 1	弥生	壺	底径（10.8） 残存高 9.0	1～3㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色、一部スス付着、黒色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ　(内) ヘラケズリ、ヘラミガキ	E－3区砂礫層
32図－ 2	弥生	壺	底径（ 2.8） 残存高 1.6	緻密1㎜以下の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 茶褐色	(内) ミガキ	F－3区砂礫層
32図－ 3	弥生	壺	底径（ 2.6） 残存高 2.0	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的にスス付着、黒色 (内) スス付着、黒色	(外) スス付着調整不明　(内) ヘラケズリ	D－3区砂礫層
32図－ 4	弥生	壺	底径（ 6.6） 残存高 2.4	緻密1㎜以下の砂粒を含む	良好	黒	(外) ミガキ	C－3区砂礫層 Bライン畦
32図－ 5	弥生	壺	底径（ 7.0） 残存高 2.3	密2～3㎜の砂粒を含む	良好	(外) 黒～暗茶褐色 (内) 茶褐色	(外) 底部ハケ目	G－4区砂礫層
32図－ 6	弥生	壺	底径（ 9.6） 残存高 3.8	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	赤褐色～淡茶褐色	(内) ケズリ	F－3区砂礫層
32図－ 7	弥生	甕	底径（ 3.4） 残存高 1.7	密2～3㎜の砂粒を含む	良好	黒	(外) ハケ目	E－3区砂礫層
32図－ 8	弥生	甕	底径（ 3.2） 残存高 2.2	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 淡茶褐色 (内) 淡赤褐色	(外) ハケ目	Bライン畦
32図－ 9	弥生	甕	底径（ 4.1） 残存高 2.2	密2～3㎜の砂粒を含む	良好	茶褐色	風化のため不明	F－4区砂礫層
32図－10	弥生	甕	底径（ 3.8） 残存高 2.2	密2～3㎜の砂粒を含む	良好	黒	(内) ケズリ	D－3区砂礫層
32図－11	弥生	甕	底径（ 4.0） 残存高 2.5	密1～2㎜の砂粒を含む	良好	(外) 暗黄褐色 (内) 黒	(外) ミガキ（一部その後ナデ）　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
32図－12	弥生	甕	底径（ 5.0） 残存高 1.8	密1～2㎜前後の砂粒を含む		暗灰褐色	(外) ミガキ　(内) 不明	C－3区砂礫層
32図－13	弥生	甕	底径（ 4.2） 残存高 3.2	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	黒	(外) ミガキ　(内) ミガキ	E－3区砂礫層
32図－14	弥生	甕	底径（ 4.8） 残存高 1.8	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 淡橙褐色～黒	(外) ハケ目　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
32図－15	弥生	甕	底径（ 6.1） 残存高 2.7	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	(外) ハケ目	G－4区砂礫層
32図－16	弥生	甕	底径（ 6.9） 残存高 3.8	1㎜程度の長石、石英を多く含む	良好	(外) 黒～白茶灰色 (内) 白茶灰色 (断) 灰色～白茶灰色	(外) ミガキ　(内) ナデ後一部ミガキ、横ナデ	D－3区砂礫層
32図－17	弥生	甕	底径（ 5.2） 残存高 3.6	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 暗茶褐色	(外) ハケ目　(内) 指頭圧痕	E－3区砂礫層
32図－18	弥生	甕	底径（ 6.0） 残存高 3.5	1㎜以下の長石、石英を多く含む	良好	(外) 灰褐色、スス付着 (内) 灰褐色	(外) ハケ目　(内) ヘラケズリ　(底面) ハケナデ	E－3区砂礫層
32図－19	弥生	甕	底径（ 6.2） 残存高 5.3	1～1.5㎜程度の長石、石英を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色～茶褐色～黒（かなりまだら） (内) 茶褐色～黒 (断) 淡橙灰色	(外) ナデ後ハケ目　(内) ヘラケズリ　(底面) 不定方向のナデ	E－3区砂礫層
32図－20	弥生	甕	底径（ 5.8） 残存高 5.1	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 暗灰褐色 (内) 灰褐色	(外) ミガキ（表面が少し剝離）　(内) ケズリ	G－3区砂礫層
32図－21	弥生	甕	底径（ 5.4） 残存高 3.7	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	黒	(外) ミガキ　(内) ケズリ	F－3区砂礫層
32図－22	弥生	甕	底径（ 4.3） 残存高 3.2	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 暗茶褐色	(外) ハケ目　(内) ケズリ	F－4区砂礫層
32図－23	弥生	甕	底径（ 3.8） 残存高 2.3	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 暗灰褐色 (内) 黒	(外) ハケ目　(内) 指頭圧痕	D－3区砂礫層 F－4区砂礫層
32図－24	弥生	甕	底径（ 5.8） 残存高 3.3	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	暗茶褐色	(外) ハケ目　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
32図－25	弥生	甕	底径（ 4.6） 残存高 2.3	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 茶褐色	(外) ナデ　(内) 指頭圧痕	E－3区砂礫層
32図－26	弥生	甕	底径（ 6.4） 残存高 3.5	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	乳褐色	(外) 風化のため不明　(内) 胴部ケズリ	F－4区砂礫層
32図－27	弥生	甕	底径（ 5.0） 残存高 3.3	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	黒～暗灰褐色	(外) ハケ目　(内) ケズリ	C－3区砂礫層 D－3区砂礫層
32図－28	弥生	甕	底径（ 3.0） 残存高 4.1	密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 黒 (内) 灰褐色	(外) ミガキ　(内) ケズリ	C－3区砂礫層
32図－29	弥生	甕	底径（ 6.4） 残存高 2.6	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡橙褐色	不明	C－3区砂礫層
32図－30	弥生	甕	底径（ 4.5） 残存高 3.1	密1㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 乳白色 (内) 暗灰褐色	不明	G－4区砂礫層
32図－31	弥生	甕	底径（ 7.8） 残存高 4.3	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 暗灰茶色	(外) ハケ目　(内) ヘラケズリ	G－3区砂礫層
32図－32	弥生	甕	底径（ 7.0） 残存高 7.8	密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 茶褐色～橙褐色～黒 (内) 淡灰褐色	(外) ハケ目　(内) 指頭圧痕、ケズリ	F－4区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　土	焼成	色　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
32図－33	弥生	甕	底径（10.1） 残存高 4.8	1㎜前後の石英、長石を少し含む	良好	(外) 全体的にスス付着、淡茶褐色 (内) 灰褐色 (断) 淡灰褐色	(外）ハケ目　（内）ケズリ後ナデ	F－4区砂礫層
32図－34	弥生	甕	底径（ 3.7） 残存高 1.8	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）全体的にスス付着、黒色 (内）暗茶褐色	(外）ハケ目　（内）ヘラケズリ	C－3区砂礫層
32図－35	弥生	甕	底径（ 3.8） 残存高 2.3	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外）全体的にスス付着、黒色、暗茶色 (内）淡灰褐色	(外）ハケ目　（内）ヘラケズリ	A－3区砂礫層
32図－36	弥生	甕	底径（ 4.0） 残存高 4.1	密1㎜以下の砂粒を含む	良好	(外）黒 (内）暗茶褐色	(外）ハケ目　（内）指頭圧痕、ケズリ	D－3区砂礫層
32図－37	弥生	甕	底径（ 3.7） 残存高 7.2	1㎜くらいの石英、長石をわずかに含む	良好	(外）淡褐色（ススが著しく付着） (内）淡褐色	(外）ハケ目　（内）指頭圧痕、ケズリ	D－3区砂礫層
33図－ 1	弥生	器台	口径（12.0）	1㎜前後の砂粒を含む	良好	(外）淡茶色 (内）淡茶色	(外）ナデ、凹線　（内）ケズリ後ミガキ	C－3区砂礫層
33図－ 2	弥生	器台	口径（17.8）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）淡灰橙色 (内）淡灰橙色	(外）ナデ、凹線　（内）ナデ、ミガキ	C－3区砂礫層
33図－ 3	弥生	器台	底径（14.2）	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外）赤色顔料付着、朱色 (内）淡灰褐色	(外）ミガキ、脚擬凹線文　（内）ケズリ後ミガキ	G－3区砂礫層
33図－ 4	弥生	器台	口径　19.4	2㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外）淡灰褐色 (内）淡灰褐色一部黒色	(外）坏ナデ後擬凹線文、ミガキ、脚擬凹線文 (内）坏ケズリ後ミガキ、脚ケズリ	G－3区砂礫層
33図－ 5	弥生	器台	底径（13.2）	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外）淡灰褐色 (内）淡橙褐色	(外）ナデ　（内）ケズリ、ナデ	G－3区砂礫層
33図－ 6	弥生	器台	口径（18.0）	石英、長石微粒をわずかに含む				G－3区砂礫層
33図－ 7	弥生	器台	底径（17.4）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）淡灰褐色 (内）淡灰褐色	(外）ハケ目、凹線　（内）ミガキ、ケズリ	F－3区砂礫層
33図－ 8	弥生	器台	口径（17.8）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）淡橙褐色 (内）淡橙褐色	(外）ミガキ　（内）ナデ	E－3区砂礫層
33図－ 9	弥生	器台	口径（19.7）	0.5㎜前後の石英、長石を多く含む	良好	(外）黄灰色 (内）黄灰色	(外）ナデ後擬凹線文　（内）風化の為不明	C－3区砂礫層
33図－10	弥生	器台	口径（22.4）	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外）赤色顔料付着	(外）ナデ、擬凹線文　（内）ナデ、指ナデ後ミガキ	C－3区砂礫層
33図－11	弥生	器台	口径（12.5）	石英、長石微粒をわずかに含む	良好	(外）淡褐色、赤色顔料 (内）淡褐色、赤色顔料	(外）ケズリ後ナデ後ミガキ　（内）ケズリ後ミガキ	F－4区砂礫層
33図－12	弥生	器台		1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外）暗橙茶色 (内）淡橙茶褐色	(外）ナデ　（内）ナデ	F－4区砂礫層
33図－13	弥生	器台	口径（20.8）	0.5～1㎜の石英、長石を多く含む	良好	(外）淡橙褐色 (内）淡橙褐色、一部黒色	(外）ナデ　（内）ミガキ、ケズリ後ミガキ	C－3区砂礫層
33図－14	弥生	器台	頸径（11.3）	密	良好	(外）淡灰褐色～灰褐色 (内）淡灰褐色、一部黒色	(外）ナデ　（内）ナデ後ミガキ、ケズリ	Dライン畦
34図－ 1	弥生	器台	底径（10.6）	1㎜前後の砂粒を含む	良好	(外）灰白茶色 (内）灰白茶色	(外）擬凹線文　（内）ケズリ、ナデ	E－3区砂礫層
34図－ 2	弥生	器台	底径（12.0）	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外）淡黄白色 (内）全体的に黒色	(外）ナデ、擬凹線文　（内）ケズリ	F－4区砂礫層
34図－ 3	弥生	器台	底径（13.8）	石英、長石微粒をわずかに含む	良好	(外）淡褐色、赤色顔料若干残る (内）黒色	(外）ミガキ、ナデ後凹線文　（内）ケズリ	E－3区砂礫層
34図－ 4	弥生	器台	底径（16.4）	1㎜強の石英少々、石英、長石微粒を密に含む	良好	(外）淡褐色～淡橙色 (内）黒色～赤橙色	(外）ミガキ、ナデ後擬凹線文　（内）ケズリ	B－3区砂礫層
34図－ 5	弥生	器台	底径（16.2）	石英、長石微粒をわずかに含む	良好	(外）淡褐色 (内）黒褐色	(外）ミガキ、ナデ後擬凹線文　（内）ケズリ	D－3区砂礫層
34図－ 6	弥生	器台	底径（19.2）	1㎜前後の石英、長石を含む	良好	(外）灰褐色 (内）灰褐色	(外）ナデ、ナデ後擬凹線文　（内）ケズリ、横ナデ	D－3区砂礫層
34図－ 7	弥生	器台	底径（18.0）	1～2㎜前後の白色砂粒を含む	良好	(外）灰白茶色 (内）灰白茶色	(外）9本のクシ状の工具で3回にわたり擬凹線 (内）ケズリ、ナデ	E－3区砂礫層
34図－ 8	弥生	器台	底径（14.4）	1～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外）淡橙色 (内）淡橙色	(外）ナデ、ハケ目、ケズリ　（内）ケズリ	C－3区砂礫層
34図－ 9	弥生	器台	底径（15.2）	1㎜前後の石英、長石を含む	良好	(外）淡赤褐色 (内）灰黄褐色 (断）灰赤褐色	(外）粗いミガキ、ナデ　（内）ケズリ、ナデ	E－3区砂礫層
34図－10	弥生	器台	口径（20.8） 底径（14.4）	1.5㎜以下の長石、石英を含む	良好	(外）淡橙白色 (内）淡橙白色	(外）ナデ　（内）坏、風化、裾、ケズリ、ナデ	F－4区砂礫層
35図－ 1	弥生	高坏	口径（19.6）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外）淡橙色 (内）淡橙色	(外）ナデ　（内）ナデ	G－4区砂礫層
35図－ 2	弥生	高坏	口径（20.3）	1㎜前後の石英、長石を多く含む	良好	(外）褐灰白色 (内）褐灰白色	(外）ミガキ、ハケ目、ナデ　（内）ミガキ	E－3区砂礫層
35図－ 3	弥生	高坏	口径（17.6）	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外）淡橙白色 (内）淡橙白色	(外）ヨコナデ　（内）ヨコナデ、ヘラミガキ	E－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　　土	焼成	色　　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
35図－ 4	弥生	高坏	口径（16.1）	1～2㎜の石英、長石をまばらに含む	良好	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色 (断) 灰褐色	(外) ミガキ　(内) ミガキ	C－3区砂礫層
35図－ 5	弥生	高坏	口径（23.2）	密	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 暗灰茶色、一部黒色	(外) ナデ　(内) ミガキ	D－3区砂礫層
35図－ 6	土師器	高坏	口径（19.6）	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) ハケ後ナデ　(内) ミガキ	B－3区砂礫層
35図－ 7	土師器	高坏	口径（18.0）	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色（一部黒色）	(外) ナデ　(内) ミガキ	E－3区砂礫層
35図－ 8	土師器	高坏	口径（17.4）	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
35図－ 9	土師器	高坏	口径（16.4）	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ミガキ	G－4区砂礫層
35図－10	土師器	高坏	口径（13.0）	1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 暗茶褐色	(外) ミガキ　(内) ミガキ	C－3区砂礫層
35図－11	土師器	高坏	口径（16.4）	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ、ハケ目　(内) ミガキ	E－3区砂礫層
35図－12	土師器	高坏	口径（11.8）	1㎜前後の石英をわずかに含む	良好	(外) 褐色 (内) 淡褐色 (断) 淡茶褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－4区砂礫層
35図－13	土師器	高坏		1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	(外) ハケ後ナデ　(内) ナデ	A－3区砂礫層
35図－14	弥生	高坏		2㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡茶褐色 (内) スス付着、黒色	(外) ハケ目　(内) 坏、ミガキ、筒、ナデ	C－3区砂礫層
35図－15	弥生	高坏		1～2㎜の白色砂粒を含む	良好	(外) 灰白茶色 (内) 灰白茶色	(外) ケズリ後ミガキ　(内) 筒、ケズリ　坏、ミガキ中央部ナデ	E－3区砂礫層
35図－16	弥生	高坏		2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) ナデ　(内) ヘラケズリ	C－3区砂礫層
35図－17	弥生	高坏	底径（11.4）	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) ヘラミガキ　(内) ケズリ後ナデ	E－3区砂礫層
35図－18	弥生	高坏		1～3㎜の砂粒を含む	良好	(外) 灰茶色、一部黒色 (内) 淡茶色	(外) ミガキ　(内) ケズリ	E－3区砂礫層
35図－19	土師器	高坏		1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 橙褐色 (断) 暗灰色	(外) ハケ後ナデ　(内) ミガキ	G－4区砂礫層
35図－20	土師器	高坏		0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙茶色	(外) ハケ後ナデ　(内) ミガキ	F－4区砂礫層
35図－21	土師器	高坏		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡褐色	(外) ハケ後ナデ　(内) ミガキ	F－4区砂礫層
35図－22	土師器	高坏		0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡茶褐色	(外) ハケ後ナデ　(内) ミガキ	E－3区砂礫層
35図－23	土師器	高坏		1㎜前後の石英、長石を多く含む	良好	(外) 灰黄淡褐色 (内) 浅黄～灰褐色 (断) 灰褐色	(外) ハケ目　(内) ミガキ	F－4区砂礫層
35図－24	弥生	高坏		1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 橙褐色 (内) 橙褐色	(外) ミガキ後施紋　(内) 坏、ミガキ、裾、しぼり後ナデ	F－4区砂礫層
35図－25	弥生	高坏		1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 橙褐色 (内) 坏、橙褐色、裾、黒色	(外) ミガキ　(内) 坏、ミガキ、裾、ケズリ	E杭ライン畦
35図－26	弥生	高坏		2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡黄灰色	(外) ミガキ　(内) 筒、ナデ	C－3区砂礫層
35図－27	弥生	高坏		1㎜前後の白色砂粒を含む	良好	(外) 灰茶色 (内) 灰黒色	(外) ミガキ　(内) 坏、ミガキ、筒、ケズリ	E－3区砂礫層
36図－ 1	弥生	高坏		1㎜前後の石英、0.5㎜以下の長石、雲母を含む	良好	(外) 淡灰黄褐色 (内) 淡灰黄褐色	(外) ミガキ　(内) ケズリ	D－3区砂礫層
36図－ 2	弥生	高坏		1㎜前後の白色砂粒を含む	良好	(外) 灰白茶色 (内) 灰白茶色	(外) ミガキ　(内) 筒、ケズリ、裾、ハケ目	G－4区砂礫層
36図－ 3	土師器	高坏		1㎜以下の白色砂粒を含む	良好	(外) 灰白茶色 (内) 橙色	(外) ハケ後ミガキ　(内) ケズリ、裾、ハケ目	D－3区砂礫層
36図－ 4	土師器	高坏		1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰褐色 (内) 暗灰色	(外) 風化の為不明　(内) ナデ	D－3区砂礫層
36図－ 5	土師器	高坏	底径（10.2）	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ハケ目　(内) ナデ	G－4区砂礫層
36図－ 6	土師器	高坏	底径（13.8）	密	良好	(外) 暗灰茶色、一部黒色 (内) 全体的に黒色、暗灰茶色	(外) ミガキ、ハケ後ナデ　(内) ナデ	C－3区砂礫層
36図－ 7	土師器	高坏	底径（11.8）	密	良好	(外) 橙褐色 (内) 淡橙灰色	(外) ミガキ、ハケ後ナデ　(内) ハケ目、ケズリ	G－3区砂礫層
36図－ 8	土師器	高坏		1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰白色 (内) 淡橙白色	(外) 風化の為不明　(内) ケズリ	C－3区砂礫層

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　土	焼成	色　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
36図－ 9	土師器	高坏	底径（ 9.8)	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 橙褐色	(外) ハケ目、ミガキ、裾ナデ　(内) 筒、ケズリ、裾、ハケ目	E－3区砂礫層
36図－10	土師器	高坏		1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙白色 (内) 淡橙白色	(外) 風化の為不明　(内) ナデ	F－3区砂礫層
36図－11	土師器	高坏	底径（ 8.8)	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙色	(外) ハケ目、ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
36図－12	土師器	高坏	底径（ 9.2)	密	良好	(外) 橙褐色 (内) 橙褐色	(外) ハケ目、ナデ　(内) ハケ目	E－3区砂礫層
36図－13	土師器	高坏	底径（ 9.4)	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 風化の為不明　(内) ハケ目	B－3区砂礫層
36図－14	土師器	高坏	底径（ 9.0)	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡黄色 (内) 淡黄灰色	(外) ミガキ、ナデ　(内) しぼり	重機削作中表土より
36図－15	土師器	底脚坏	口径（13.8)	1～2㎜の石英、長石をわずかに含む	良好	(外) 褐色 (内) 褐色 (断) 淡黄褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
36図－16	土師器	底脚坏		1㎜前後の石英、長石を多く含む	良好	(外) 淡黄灰褐色 (内) 淡黒褐色～灰黄褐色 (断) 淡黄灰褐色	(外) ハケ目、ナデ　(内) ケズリ後ミガキ	D－3区砂礫層
36図－17	土師器	底脚坏		1～1.5㎜の石英、長石を多く含む	良好	(外) 淡橙灰褐色 (内) 淡橙灰褐色、一部橙灰色	(外) ナデ　(内) 風化の為不明	包含層
36図－18	弥生	底脚坏	底径　10.0	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡黄茶色 (内) 淡黄茶色	(外) ナデ　(内) 坏、ミガキ、裾、ナデ	E－3区砂礫層
36図－19	土師器	底脚坏	底径　6.5	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ、ミガキ　(内) ナデ	F－3区砂礫層
36図－20	土師器	底脚坏	底径　5.2	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 風化の為不明　(内) 風化の為不明	E－3区砂礫層
36図－21	土師器	底脚坏		密	良好	(外) 淡白灰色 (内) 淡白灰色	(外) ナデ　(内) ナデ	G－3区砂礫層
36図－22	土師器	底脚坏	底径　4.2	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	G－3区砂礫層
36図－23	土師器	底脚坏	底径　4.6	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色、一部黒色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
36図－24	土師器	底脚坏	底径　4.2	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙褐色	(外) 風化の為不明　(内) 風化の為不明	F－4区砂礫層
36図－25	土師器	底脚坏	底径　2.9	1㎜以下の石英、長石を含む	良好	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－2区砂礫層
36図－26	弥生	蓋		2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
36図－27	弥生	蓋	底径　14.0	0.5～2㎜の砂粒を多く含む	良好	(外) 暗灰色～淡灰色 (内) 暗灰色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
36図－28	弥生	蓋		1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 全体的に黒色 (内) 全体的に黒色	(外) 風化の為不明　(内) 風化の為不明	Eライン畦
36図－29	弥生	壷	口径　8.8	2㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡茶褐色、一部黒色 (内) 淡茶褐色、全体的に黒色	(外) ミガキ　(内) ケズリ	F－3区砂礫層
36図－30	弥生	壷	口径　9.0	1～2㎜の砂粒を含む	良好	(外) 朱色、赤色顔料 (内) 朱色、赤色顔料	(外) ミガキ　(内) ケズリ、ミガキ	E－3区砂礫層
36図－31	弥生	壷	口径　11.2	密	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
37図－ 1	弥生	(把手)		密1㎜前後の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	ケズリ	D－3区砂礫層
37図－ 2	弥生			密1～2㎜の砂粒を含む	良好	(外) 赤色（朱塗りか？） (内) 淡黄灰色	ケズリ	C－3区砂礫層
37図－ 3	弥生	甑形土器		密2～3㎜前後の砂粒を含む	良好	(外) 灰褐色 (内) 黒	(外) ケズリ後ナデ　(内) ナデ	E－3区砂礫層
37図－ 4		(把手)		密1～2㎜前後の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	ケズリ	C－3区砂礫層
37図－ 5	土製品	土製支脚		密2～3㎜の砂粒を含む	良好	淡黄褐色		B－3区砂礫層
37図－ 6	土製品	土製支脚		1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	淡褐色		B－3区砂礫層
37図－ 7	土製品	土製支脚	底径　10.3	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡黄茶褐色 (内) 淡黄褐色 (断) 暗灰色		B－3区砂礫層
37図－ 8	土製品	小型丸底壷	口径（10.0) 頸径（ 8.4)	0.5㎜以下の石英、長石を若干含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡灰褐色 (断) 灰褐色	(外) ナデ　(内) 横ナデ	B－3区砂礫層
37図－ 9	土製品	小型丸底壷	口径（ 8.4) 頸径（ 5.9)	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	(外) 横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、横ナデ	E杭畦

挿図番号	種類	器　種	法量(cm)	胎　土	焼成	色　調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
37図－10	土製品	小型丸底壷	口径　8.4 頸径　6.2	1㎜前後の砂粒を多く含む	良好	(外) 淡灰褐色一部スス付着、黒色 (内) 淡橙灰色	(外) 横ナデ、ハケ目　(内) 横ナデ、ヘラケズリ	B－3区砂礫層
37図－11	土製品	小型丸底壷	頸径 (5.1)	密0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外) 橙褐色 (内) 橙色	(外) ハケ後ナデ	B－3区砂礫層
37図－12	須恵器	蓋	口径 (16.7)	密	良好	(外) 部分的にスス付着の黒色～灰色 (内) 暗灰褐色 (断) 淡灰黄色	(外) 回転ナデ　(内) 回転ナデ	D－3区砂礫層
37図－13	須恵器	坏	口径 (10.1) 受部径(13.4)	密	良好	(外、内、断) 淡灰色	(外) 回転ナデ　(内) 回転ナデ	B－3区砂礫層
37図－14	須恵器	坏	口径 (10.6) 受部径(13.4)	密	良好	(外、内) 灰色	(外) 横ナデ　(内) 横ナデ	F－4区砂礫層
37図－15	須恵器	坏	口径　11.0 受部径13.2	緻密1㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	灰色	(外) 底部ーヘラきり、ヘラケズリ　(内) 回転ナデ	B－3区砂礫層
37図－16	須恵器	坏	底径 (8.0)	1㎜以下の長石をわずかに含む	良好	(外、内、断) 淡灰色	(外) 回転ナデ、不定方向のナデ、底部糸切痕 (内) ナデ	A－3区砂礫層
37図－17	須恵器	高坏	くびれ部径4.7	1㎜以下の長石、石英を多く含む	良好	(外) 灰色 (内、断) 淡灰色	(外) 回転ナデ、不定方向のナデ、底部糸切痕 (内) 回転ナデ	E－3区砂礫層
37図－18	須恵器	高坏	底径　9.2	緻密1㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	暗灰色	(外) 回転ナデ　(内) ナデ、成形ーロクロ	E－3区砂礫層
37図－19	須恵器	高坏	底径　9.2	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	(外、内) 灰色	(外) ナデ　(内) ナデ	E－4区砂礫層
37図－20	土製品	土玉	直径　4.0	2㎜前後の砂粒を多く含む	良好	淡橙灰色		C－3区砂礫層
37図－21	土製品	土玉	直径　3.1	密	良好	淡橙灰色		F－3区砂礫層
37図－22	土製品	土玉	直径　2.9	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	淡灰色		F－3区砂礫層
37図－23	土製品	土玉	直径　2.1	0.5㎜以下の砂粒をわずかに含む	良好	淡灰色		D－3区砂礫層
37図－24	土製品	土玉	直径　3.0	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰色		G－4区砂礫層
37図－25	土製品	土玉	直径　3.3	2㎜前後の砂粒をわずかに含む	良好	褐色	刺突痕は2ヶ所あるが孔は貫通していない	E－2区包含層上面
37図－26	土製品	土玉	直径　1.85	密	良好	灰黄褐色～一部橙灰色	孔無し	E－3区砂礫層

石　器　観　察　表

挿図番号	種類	法　量 (cm,g)	石材	備　考	出土区・層
38図－ 1	鏃	縦 2.1　横 1.35　厚さ 0.38　重さ 0.76	黒曜石		C－3区砂礫層
38図－ 2	鏃	縦 1.5　横 1.6　厚さ 0.25　重さ 0.55	黒曜石	一部欠損	包含層
38図－ 3	鏃未製品	縦 2.3　2.3　横 0.55　厚さ 0.25　重さ 2.37	黒曜石		包含層
38図－ 4	スクレイパー	縦 5.7　3.0　横 1.3　厚さ 0.25　重さ 17.04	黒曜石		E－3区砂礫層
38図－ 5	スクレイパー	縦 3.7　3.8　横 1.0　厚さ 0.25　重さ 16.71	黒曜石		包含層上面
38図－ 6	スクレイパー	縦 3.9　4.5　横 0.9　厚さ 0.25　重さ 16.24	黒曜石		砂礫層
38図－ 7	スクレイパー	縦 4.5　6.5　横 1.0　厚さ 0.25　重さ 37.61	黒曜石		G－4区砂礫層
38図－ 8	スクレイパー	縦 2.2　3.35　横 1.2　厚さ 0.25　重さ 8.80	黒曜石		G－3区砂礫層
38図－ 9	スクレイパー	縦 1.3　3.6　横 0.3　厚さ 0.25　重さ 2.27	黒曜石		F－3区砂礫層
38図－10	スクレイパー	縦 1.7　2.3　横 0.8　厚さ 0.25　重さ 2.47	黒曜石	一部欠損	E－2区包含層上面
38図－11	スクレイパー	縦 2.6　3.8　横 1.0　厚さ 0.25　重さ 10.32	黒曜石		包含層

挿図番号	種類	法　　量（cm,g）	石材	備　　考	出土区・層
39図－ 1	スクレイパー	縦 4.2　横 2.85　厚さ 1.5　重さ 12.87	黒曜石		E－3区包含層上面
39図－ 2	スクレイパー	縦 3.2　横 3.8　厚さ 1.7　重さ 16.69	黒曜石		G－2区遺構面
39図－ 3	スクレイパー	縦 3.2　横 7.4　厚さ 0.9　重さ 19.10	黒曜石		F－4区砂礫層
39図－ 4	スクレイパー	縦 2.7　横 6.8　厚さ 1.3　重さ 22.44	黒曜石		D－3区砂礫層
39図－ 5	スクレイパー	縦 7.2　横 7.0　厚さ 2.0　重さ 100.71	黒曜石		D－2区遺構面
40図－ 1	スクレイパー	縦 4.9　横 8.2　厚さ 1.4　重さ 40.33	黒曜石		E－4区砂礫層
40図－ 2	スクレイパー	縦 5.6　横 7.7　厚さ 1.1　重さ 54.14	黒曜石		C－3区砂礫層
40図－ 3	剝片	縦 2.5　横 3.4　厚さ 0.9　重さ 5.43	黒曜石		Aライン畦
40図－ 4	剝片	縦 2.2　横 2.2　厚さ 0.5　重さ 2.32	黒曜石		G－2区遺構検出面
40図－ 5	剝片	縦 2.7　横 2.8　厚さ 0.4　重さ 3.83	黒曜石		F－4区砂礫層
40図－ 6	剝片	縦 3.2　横 2.1　厚さ 0.6　重さ 2.44	黒曜石		G－2区遺構検出面
40図－ 7	剝片	縦 4.0　横 2.2　厚さ 0.7　重さ 7.00	黒曜石		E－3区砂礫層
40図－ 8	剝片	縦 3.8　横 2.5　厚さ 1.4　重さ 11.44	黒曜石		F－4区砂礫層
40図－ 9	剝片	縦 3.1　横 2.6　厚さ 0.5　重さ 3.97	黒曜石		G－4区砂礫層

木　製　品　観　察　表

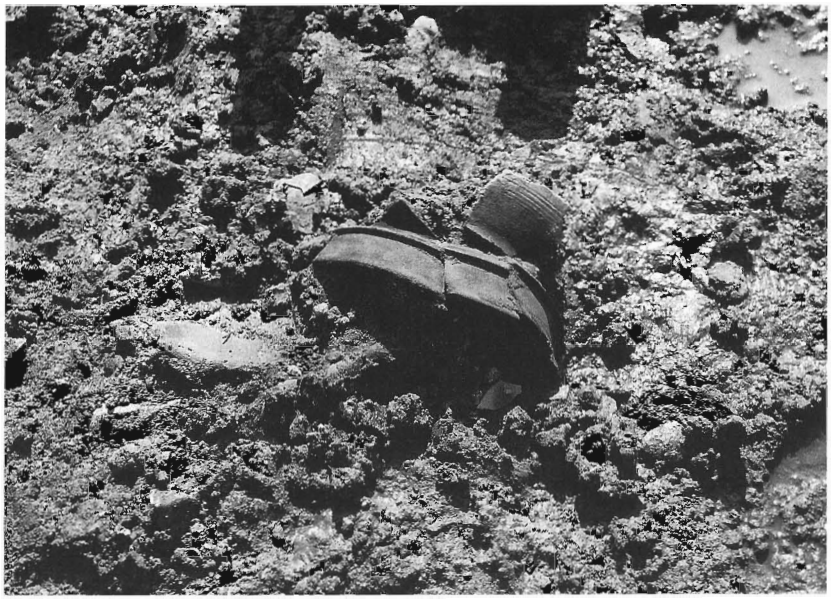
挿図番号	種類	法　　量（cm）	樹　種	形　態　の　特　徴　・　そ　の　他	出土区・層
41図－ 1	椀	全長 9.5　幅 4.7　厚さ 1.05			F－4区砂礫層
41図－ 2	不明	残存長 8.6　幅 6.3　厚さ 4.1			F－4区砂礫層
41図－ 3	不明	残存長 6.4　幅 3.7　厚さ 3.2			F－4区砂礫層
41図－ 4	板材	残存長 31.2　幅 11.0　厚さ 1.9			F－4区砂礫層
41図－ 5	杭	残存長 25.3　幅 6.7　厚さ 4.6			D－3区 No20
41図－ 6	杭	残存長 8.0　幅 4.6　厚さ 3.8			D－3区 No21
41図－ 7	桜の皮	全長 9.35　幅 6.4　厚さ 3.9	桜		E－3区砂礫層
42図－ 1	板材	残在長 78.0　幅 6.8　厚さ 1.5			砂礫層
42図－ 2	板材	全長 74.2　幅 16.0　厚さ 1.5			砂礫層
42図－ 3	不明	全長 43.2　幅 23.5　厚さ 5.5			砂礫層

図　　版

図版 1

田中谷遺跡調査前全景

田中谷遺跡調査前全景



遺物出土状況

遺物出土状況

遺物出土状況

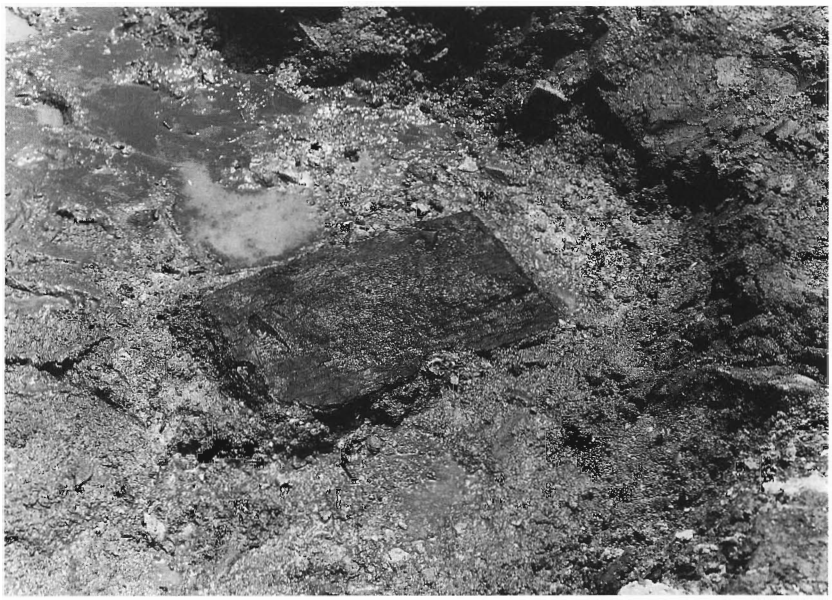
図版 3

流木検出状況

流木検出状況

旧河道土層断面

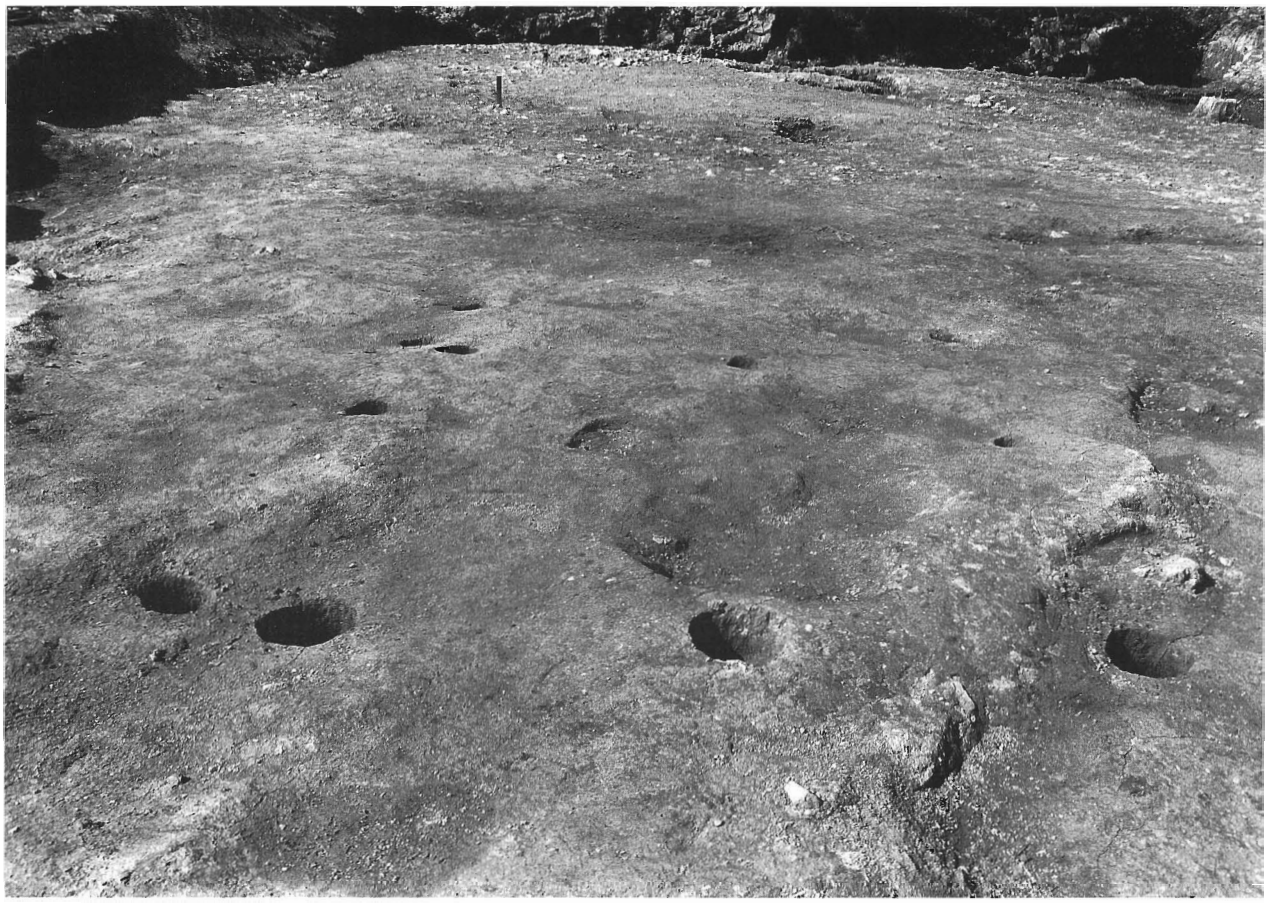
木製品出土状況



木製品出土状況

木製品出土状況

図版 5

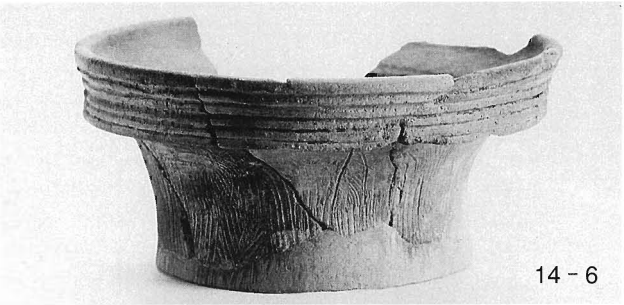


北区ＳＢ-01・ＳＫ-01完掘状況

北区完掘状況

北区完掘状況

図版 7


14 - 6

14 - 1

19 - 2

20 - 1

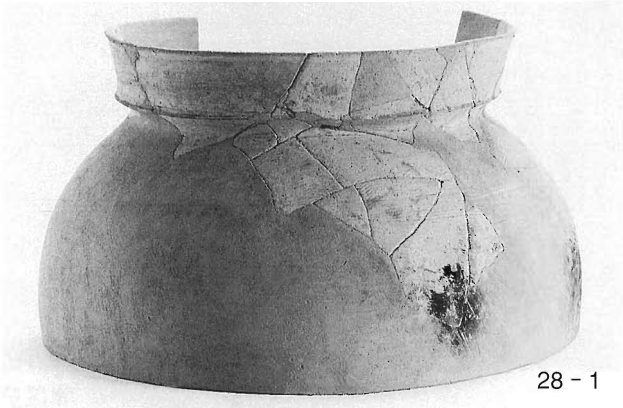
22 - 1

22 - 2

22 - 3

22 - 7

22 - 11


28 - 1

26 - 12

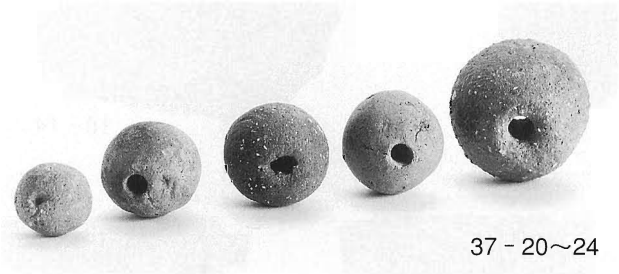
27 - 3

33 - 4

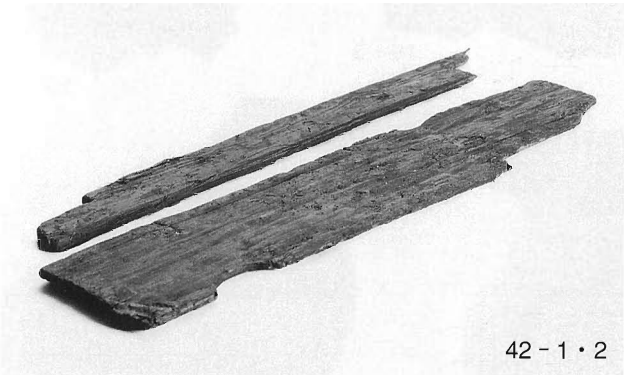
34 - 8

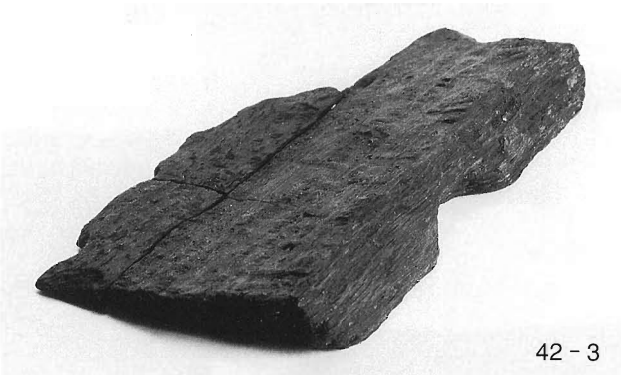
35 - 17

36 - 27

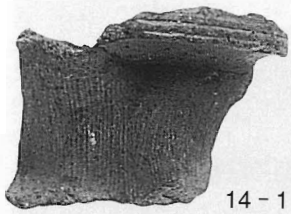

37 - 20～24

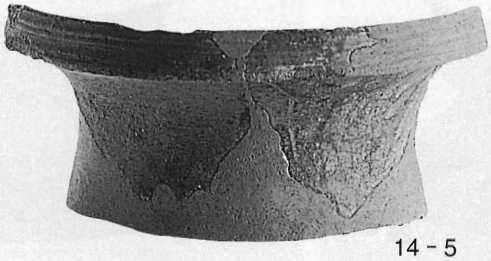
41 - 7


42 - 1・2

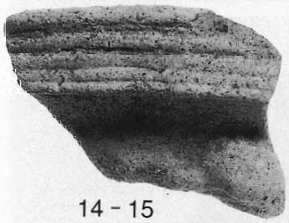

42 - 3

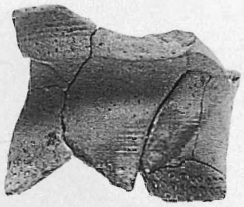
図版 9


14 - 1

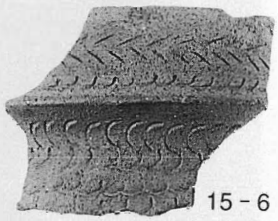

14 - 5

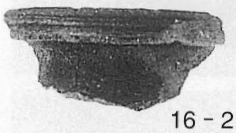
14 - 13

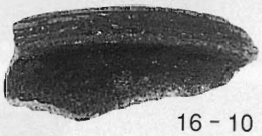

14 - 15

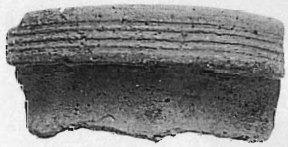

15 - 2

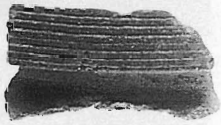
15 - 4

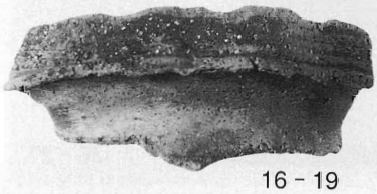

15 - 6


16 - 2

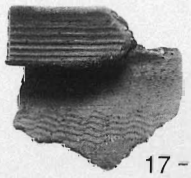

16 - 10

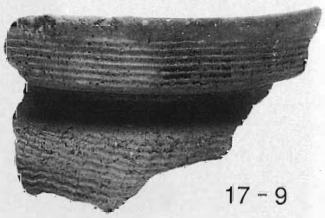

16 - 14


16 - 18


16 - 19

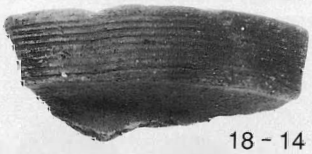
16 - 22

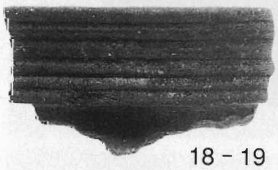

17 - 8


17 - 9

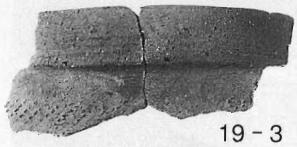
17 - 19

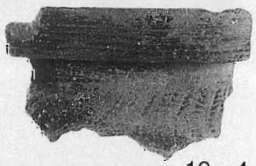
18 - 9

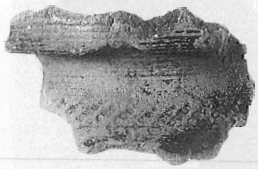

18 - 14


18 - 19

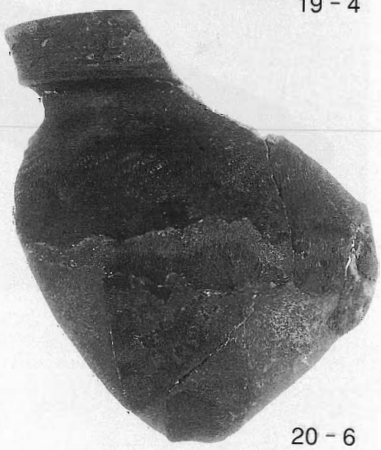
19 - 1

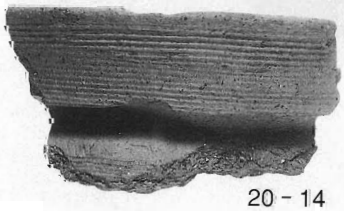

19 - 3

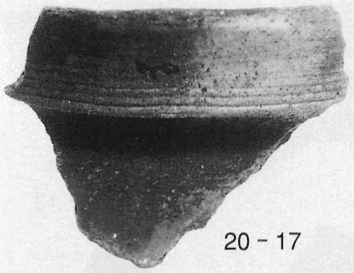

19 - 4

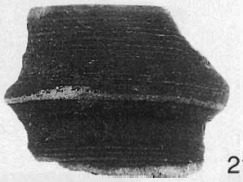

19 - 7

19 - 9

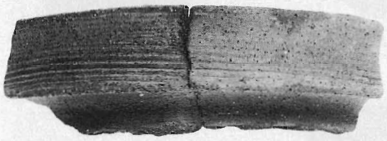

20 - 6


20 - 14

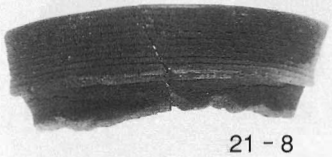

20 - 17

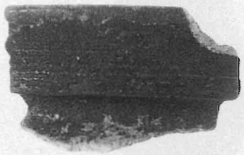

21 - 3

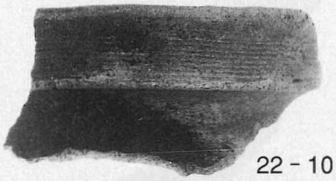
21 - 7

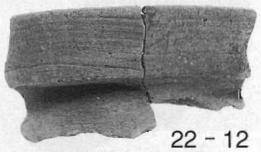

21 - 10

21 - 15


21 - 8

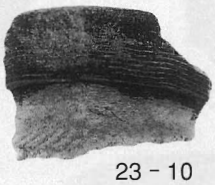

22 - 8


22 - 10

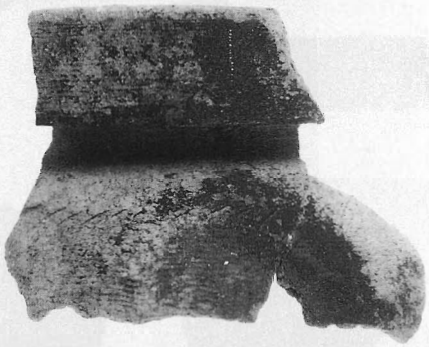

22 - 12

21 - 16

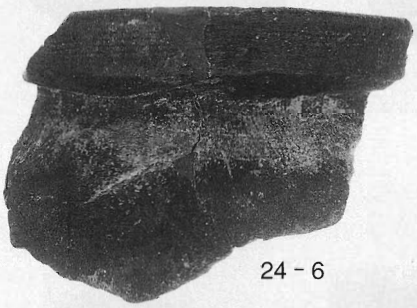
23 - 5

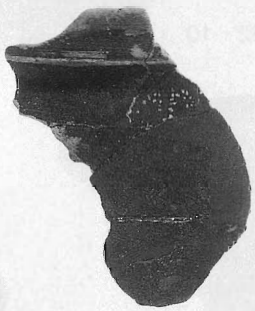

23 - 10

23 - 16


23 - 17

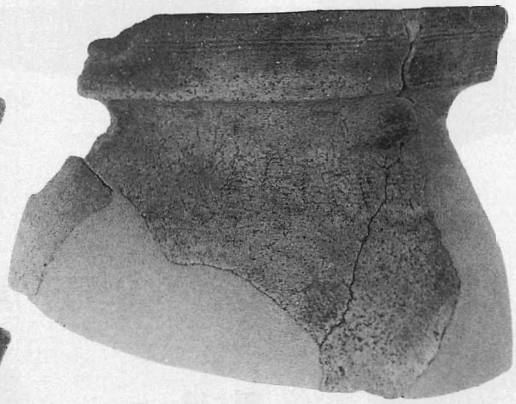
24 - 2


24 - 6

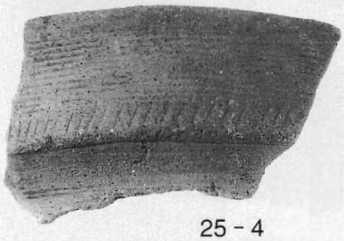

24 - 8

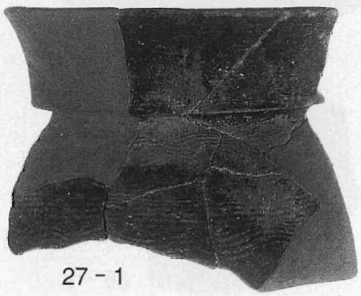
24 - 11

25 - 2

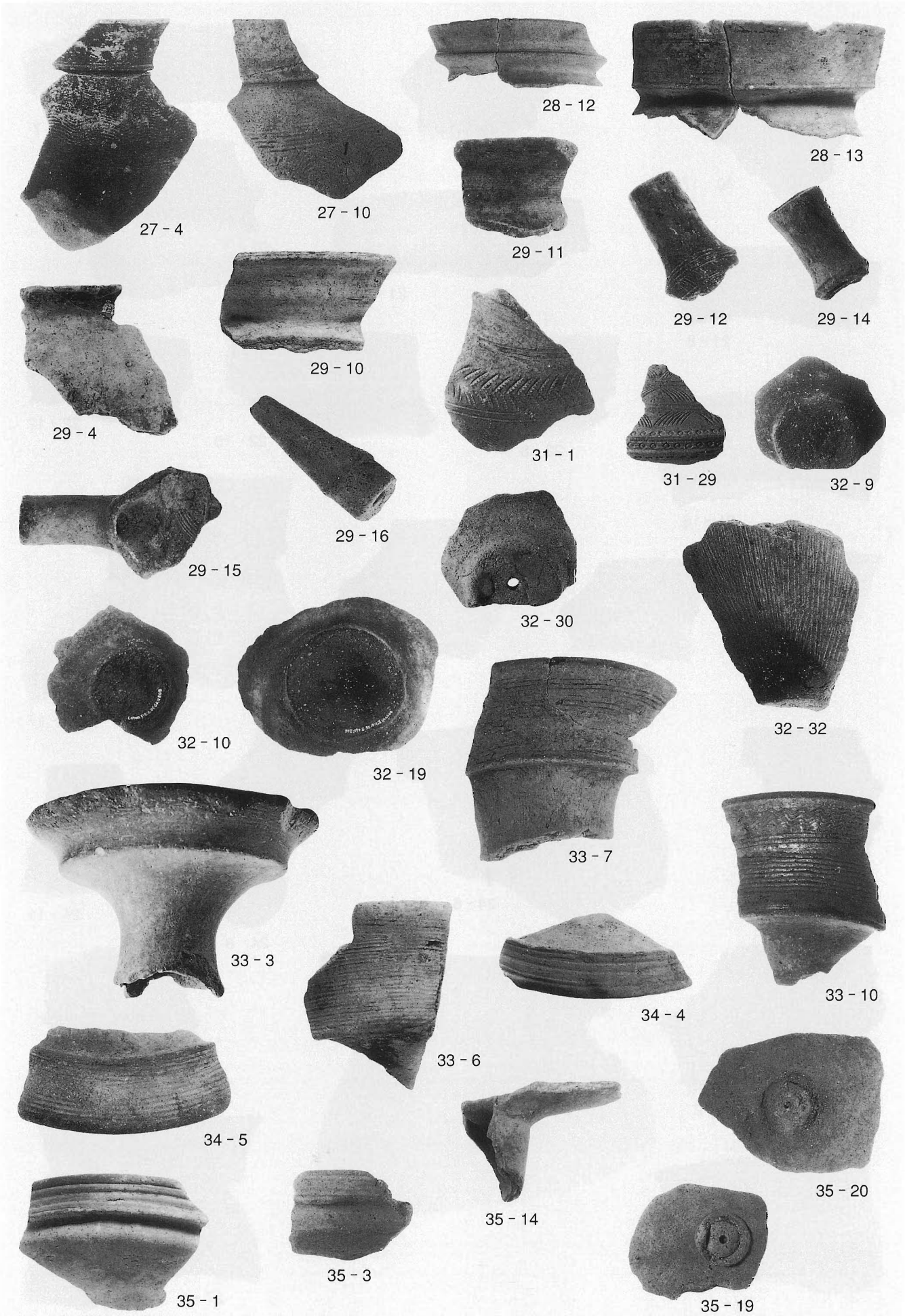

25 - 3

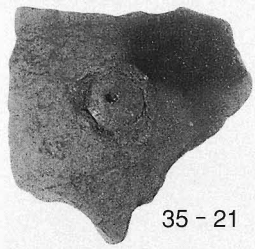
26 - 1

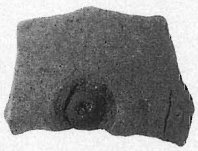

25 - 4


27 - 1

図版11


27 - 4
27 - 10
28 - 12
28 - 13
29 - 11
29 - 12
29 - 14
29 - 10
29 - 4
31 - 1
31 - 29
32 - 9
29 - 16
29 - 15
32 - 30
32 - 32
32 - 10
32 - 19
33 - 7
33 - 3
33 - 10
34 - 4
33 - 6
34 - 5
35 - 20
35 - 14
35 - 3
35 - 1
35 - 19

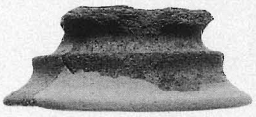

35 - 21


35 - 22

35 - 24

36 - 3

36 - 8


36 - 18

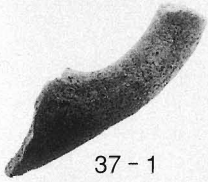
36 - 10

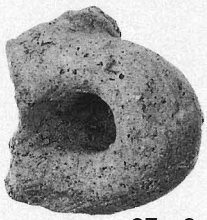
36 - 21

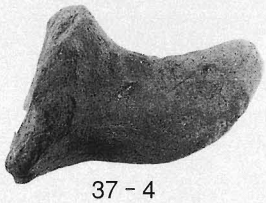
36 - 22

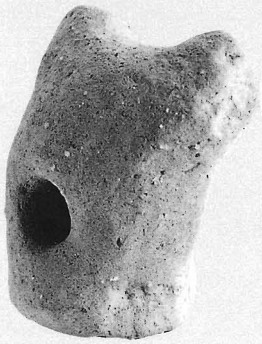
36 - 23

36 - 24


37 - 1

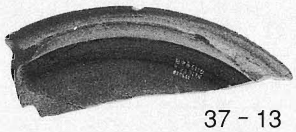

37 - 3

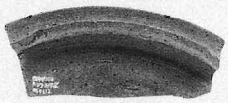

37 - 4


37 - 5

37 - 6

37 - 12


37 - 13


37 - 14

37 - 9

37 - 15

37 - 18

37 - 19

38 - 1

38 - 2

38 - 3

38 - 4

38 - 6

38 - 11

39 - 4

39 - 5

40 - 1

40 - 2

報　告　書　抄　録

フリガナ	たなかだにいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	田中谷遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
編集名	江川幸子・石川　崇
編集機関	財団法人松江市教育文化振興事業団
所在地	松江市母衣町180－21
発行年月日	2001年３月

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
田中谷遺跡	島根県 松江市 法吉町	32201	K-042	35° 29′ 30″	135° 32′ 50″	2001.4.10 ～ 2001.7.26	1,800m²	道路建設

所収遺跡	各種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田中谷遺跡	散布地	弥生時代	掘立柱建物跡	弥生土器 須恵器 木製品 石器	

田中谷遺跡（Ⅳ区）発掘調査報告書

2001年３月

発行　松　江　市　教　育　委　員　会
財団法人松江市教育文化振興事業団

印刷　有限会社　渡部総合プリント
松江市邑生町142－18